

ナイジェリア連邦共和国  
貧困プロフィール調査（アフリカ）

最終報告書

平成 23 年 3 月

独立行政法人  
国際協力機構（JICA）

委託先

三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング

## 貧困指標

	Basic data					
	Year	Population, total (million)	Population growth (annual)	GDP, PPP (billion US\$)	GDP per capita PPP (US\$)	Real GDP growth (annual)
Nigeria	2009	154.7	2	340.9	2,203	6

出所：world bank, World Databank

Poverty						Inequality	
Poverty Incidence (%)			Poverty Gap Index (national)	Source	Survey Year	Gini Coefficient	Year
National	Urban	Rural					
54.41	43.19	63.27	0.2180	Poverty Profile for Nigeria	2004	0.4882	2004

出所：NBS (2005) Poverty Profile for Nigeria

# 全国地图

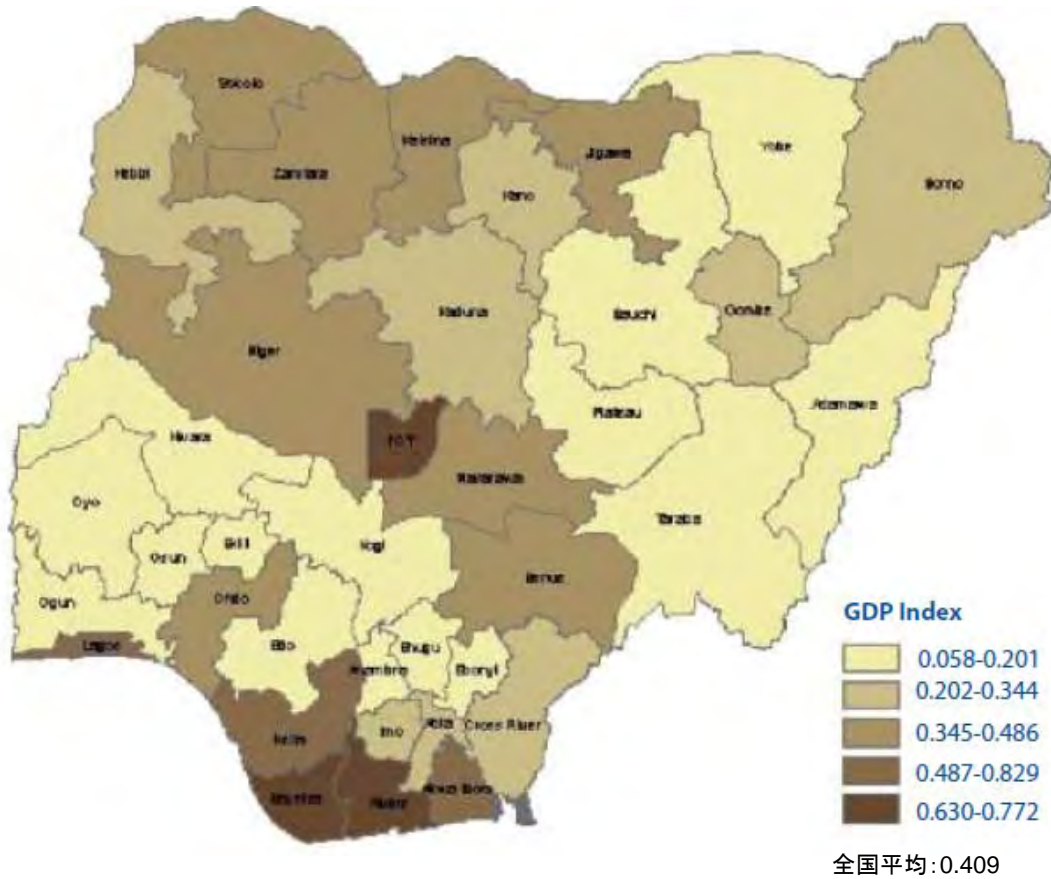


出所：Perry-Castaneda Library Map Collection (<http://www.lib.utexas.edu/maps/nigeria.html>)

## 社会指標マップ

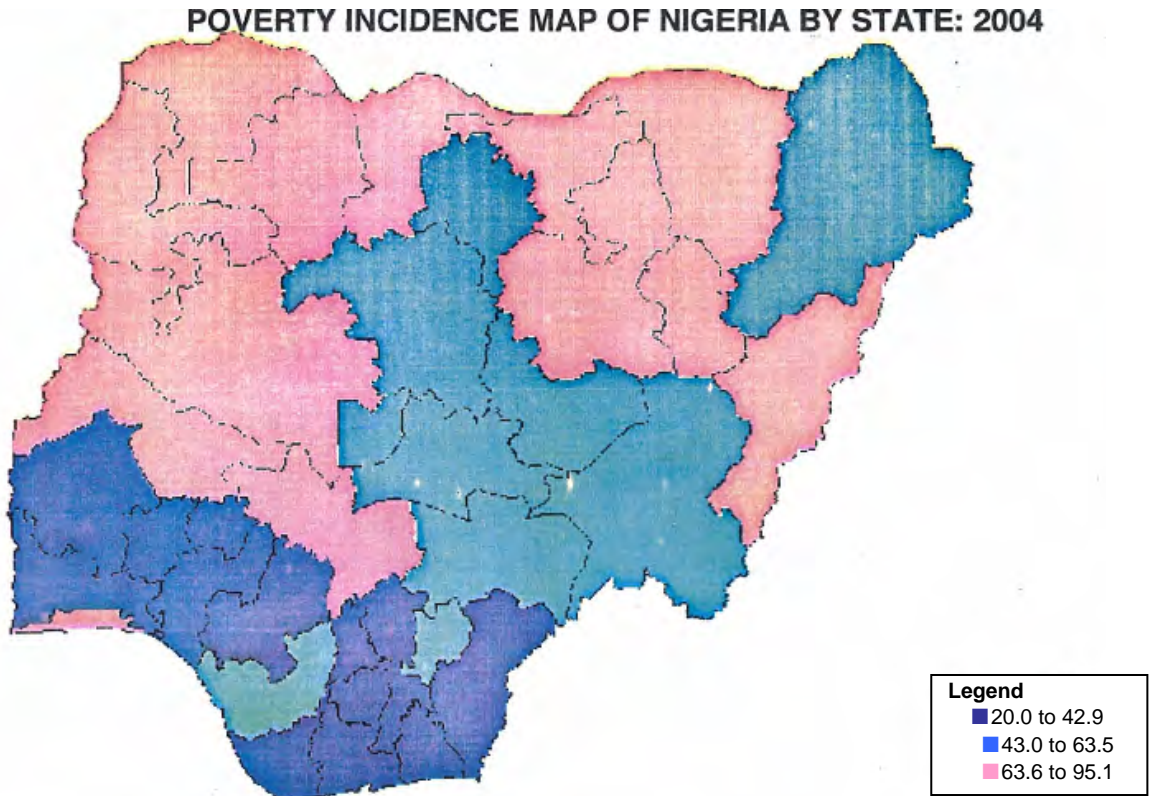
# 州別一人当たり GDP 指数

## GDP Index



出所 : UNDP (2009) *Human Development Report Nigeria 2008-2009*

# 州別貧困比率 (2004)



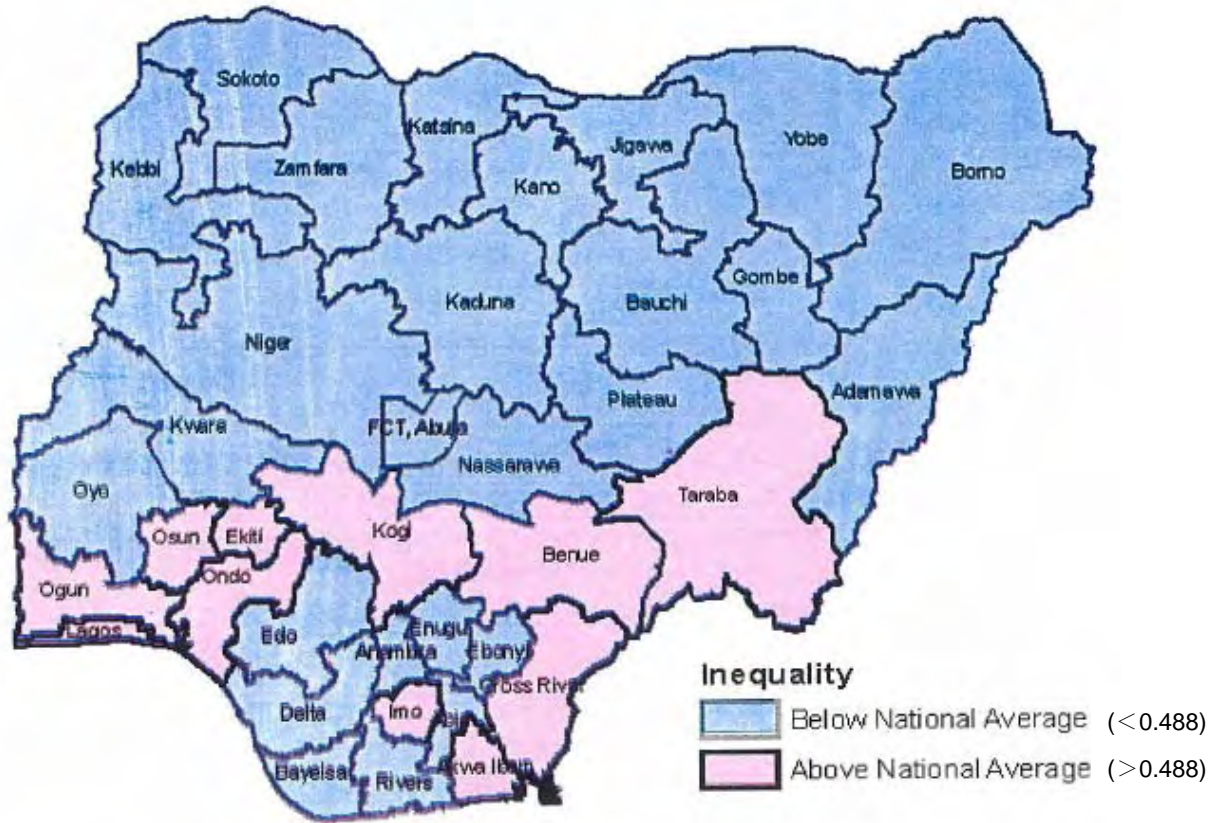
全国平均: 54.4

出所: NBS (2005) *Poverty Profile for Nigeria*



州別ジニ係数 (2004)

Inequality by State



出所 : NBS (2005) *Poverty Profile for Nigeria*

# 目 次

貧困指標  
全国地図  
社会指標マップ  
目次  
図表目次  
略語一覧

I.	国家貧困情報及び基本情報.....	1
1	基本情報.....	1
2	マクロ経済及びドナー動向.....	2
2.1	マクロ経済動向.....	2
2.2	産業.....	3
2.3	ドナーの動き.....	4
3	貧困情報.....	8
3.1	貧困ライン未満人口.....	8
3.2	出生時余命.....	8
3.3	教育.....	10
3.4	保健.....	13
3.5	ジェンダー.....	15
II.	貧困削減関連政策概要.....	18
1.	全般.....	18
2.	政府各機関.....	18
III.	貧困状況分析.....	21
1.	所得貧困による分析.....	21
1.1	貧困分析に使用するデータ.....	21
1.2	貧困ラインに基づく貧困分析.....	21
1.3	不平等指数（ジニ係数/指数）と経年変化.....	30
2.	所得貧困以外の方法による分析.....	32
2.1	主観的貧困指標.....	32
2.2	当該国政府による指定貧困地域・集団.....	33
2.3	脆弱性分析.....	33
2.4	人間開発指数（Human Development Index）.....	35
3.	貧困に影響を与えている要因.....	36
3.1	国内要因（財政、ガバナンス、産業構造/雇用、資源、エスニシティなど）.....	36
3.2	地政学的要因（周辺地域・大国との政治、経済、社会、環境等の関係性等）.....	46



3.3	グローバル化における要因	47
3.4	民間投資の貧困削減に対する影響	54
3.5	その他の当該国特有の事項（地方分権や格差の問題など）	54
4.	貧困層が利用できる医療保険・サービス	58
4.1	国民健康保険スキーム	58
4.2	妊娠期幼児期幼年期統合医療	61
5.	貧困層が利用できる金融サービス（マイクロファイナンス等）	62
5.1	マイクロファイナンス	62
5.2	モバイル・バンキング	66
6.	貧困層／貧困世帯向け生活支援施策	67
7.	貧困削減のモニタリング方法	68
7.1	MDGs	68
7.2	貧困プロファイル及びその他の政策的取組み	70
8.	貧困プロファイルの更新方法の提案	73

## 図表目次

図表 1.1 人口動態 .....	1
図表 1.2 マクロ経済指標（2007 - 2010） .....	2
図表 1.3 分野別実質GDP成長率（基準年：1990年） .....	3
図表 1.4 部門別GDP寄与率（1999-2009） .....	4
図表 1.5 ナイジェリアに対するODAディスバースメント（ネット）の推移（100万US\$） .....	4
図表 1.6 ODAディスバースメントのタイプ別内訳（返済を含む・100万US\$） .....	5
図表 1.7 2007 - 2009年のディスバースメント額（ネット）上位10ドナー .....	5
図表 1.8 ODAディスバースメント（グロス）の用途別内訳の推移（%） .....	6
図表 1.9 1日1ドル以下生活者比率 .....	8
図表 1.10 幼少期致死率 .....	8
図表 1.11 幼少期致死率の傾向 .....	9
図表 1.12 出産期前後の致死率 .....	10
図表 1.13 女性の教育達成度 .....	11
図表 1.14 図表 14 男性の教育達成度 .....	11
図表 1.15 州別基礎教育終了率（2007年） .....	12
図表 1.16 HIV・AIDSの現状と傾向 .....	14
図表 1.17 HIV感染率（1992-2005） .....	14
図表 1.18 家計主の性別と貧困状況（1980-2004年 %） .....	15
図表 1.19 家計主の性別と一人当たり支出（2004年） .....	15
図表 1.20 男女・五分位別職業比率 .....	16
図表 1.21 州別初等教育男女比（男子100人比） .....	17
図表 3.1 セクター及びゾーン別貧困比率（2004年） .....	22
図表 3.2 相対貧困比率と貧困人口の推移 .....	22
図表 3.3 セクター及びゾーン別の相対貧困率の推移（1980-2004） .....	22
図表 3.4 州別貧困率マップ（2004年） .....	23
図表 3.5 二つの相対貧困ラインを用いた貧困率の傾向 .....	23
図表 3.6 二つの相対貧困ラインを用いたゾーン別貧困率の傾向 .....	24
図表 3.7 セクターおよびゾーン別の物価調整済貧困率（2004） .....	24
図表 3.8 州別の物価調整済貧困率（2004） .....	25
図表 3.9 セクター・ゾーン別貧困ギャップ比率（2004） .....	26
図表 3.10 州別貧困ギャップ比率（2004） .....	26
図表 3.11 セクター・ゾーン別2乗貧困ギャップ比率（2004） .....	27

図表 3.12	州別 2 乗貧困ギャップ比率	27
図表 3.13	所属階層別支出（単位ナイラ）	28
図表 3.14	セクター・ゾーン別貧困寄与率	28
図表 3.15	家計規模別貧困寄与率	28
図表 3.16	家計主の教育レベル別貧困寄与率	28
図表 3.17	家計規模と相対貧困率（1980－2004）	29
図表 3.18	家計主の教育レベルと相対貧困率（1980－2004）	29
図表 3.19	家計主の職業と相対貧困率（1980－2004）	29
図表 3.20	セクターおよびゾーン別ジニ係数（2004）	30
図表 3.21	ジニ係数経年変化（1985 - 2004）	30
図表 3.22	州別ジニ係数（2004）	31
図表 3.23	州別ジニ係数（2004）	31
図表 3.24	州別ジニ係数マップ（2004）	32
図表 3.25	自己評価による貧困率（2004）	32
図表 3.26	貧困への対処（2004）	33
図表 3.27	脆弱グループ保護のためのターゲット施策	34
図表 3.28	ゾーン別人間開発指数	35
図表 3.29	人間開発指数トレンド	35
図表 3.30	ナイジェリアにおける自由度及び汚職インデックス	37
図表 3.31	飲料水整備環境	38
図表 3.32	処理済水道水供給率	38
図表 3.33	「安全な水」の州別利用率（2009 年）	39
図表 3.34	電力供給環境	40
図表 3.35	セクター別GDP比・成長率・GDP成長寄与率（1999-2009）	41
図表 3.36	雇用と経済成長（2000－2007、%）	43
図表 3.37	失業率の推移（%）	43
図表 3.38	教育グループ、年齢、性別失業率（2009 年 3 月・%）	44
図表 3.39	州別失業率（2009 年 3 月）	44
図表 3.40	ナイジャーデルタにおける石油関連インフラ	45
図表 3.41	食料輸入額と成長率	47
図表 3.42	製品別輸入量推移（2004－2008、100 万トン）	47
図表 3.43	製品輸入額推移（2004－2008、100 万ドル）	48
図表 3.44	ナイジェリアにおける米生産の推移	48
図表 3.45	対内直接投資額	48
図表 3.46	ナイジェリアの人口及び移民に関するデータ	49
図表 3.47	ナイジェリアへの海外送金（2004-07 年）	50

図表 3.48 資金フロー流入の対GDP比（1996－2007年 %） .....	50
図表 3.49 ナイジェリアから／への海外労働送金フロー（2000－09年 百万ドル） .....	51
図表 3.50 ナイジェリアの主要貿易相手国・地域（2009） .....	53
図表 3.51 ECOWAS内での輸出入相手国と輸出入額（100万ユーロ） .....	53
図表 3.52 ナイジェリアのEUからの輸入品（2009） .....	54
図表 3.53 ナイジェリアのEUに対する輸出品（2009） .....	54
図表 3.54 各州の一人当たりGDP指数 .....	55
図表 3.55 州別格差指標 .....	56
図表 3.56 ゾーン間人口移動（1988-1993） .....	58
図表 3.57 保険加入率・女性（%） .....	60
図表 3.58 保険加入率・男性（%） .....	61
図表 3.59 Finscopeによる調査の国家間比較 .....	62
図表 3.60 ナイジェリア中銀認可の金融機関数 .....	63
図表 3.61 マイクロファイナンスを提供するNGOと関連指標（2007年12月） .....	63
図表 3.62 地方銀行・マイクロファイナンス銀行、主要指標 .....	64
図表 3.63 マイクロファイナンス銀行地域内訳 .....	64
図表 3.64 マイクロファイナンス銀行・地方銀行全体でのバランスシート .....	64
図表 3.65 マイクロファイナンス指標（2010年9月時点） .....	66
図表 3.66 Village Economic Development Solution Scheme（単位：ナイラ） .....	66
図表 3.67 Mobile Banking運営主体による制限 .....	67
図表 3.68 In Care of the People (COPE) .....	68
図表 3.69 ナイジェリアのMDGs達成状況 .....	69
図表 3.70 貧困削減関連政策ペーパー・資料・統計 .....	71
図表 3.71 モニタリング・評価のためのガバナンス枠組み .....	73

## 略 語 表

AfDB	: African Development Bank	アフリカ開発銀行
AU	: African Union	アフリカ連合
CCT	: Conditional Cash Transfer	条件付所得移転
CEWS	: Community-based structures to develop early warning systems	早期警告システム開発地域組織
CPS	: Joint Country Partnership Strategy	国家共同パートナーシップ戦略
DAC	: Development Assistance Committee	国際援助委員会
DFID	: Department of International Development	英国国際開発省
DPC	: Financial Sector and Public Financial Management Development Policy Credit	金融部門および公的金融開発政策貸付
ECOWAS	: Economic Community of West Africa States	西アフリカ諸国経済共同体
EIA	: U.S. Energy Information Administration	米国エネルギー情報管理
EPA	: Economic Partnership Agreement	経済連携協定
EU	: European Union	欧州連合
FAO	: Food and Agriculture Organization	国連食糧農業機関
FBOs	: Faith Based Organization	宗教団体
FCT	: Federal Capital Territory	連邦首府領
FDI	: Foreign Direct Investment	対外直接投資
FERNA	: Federal Road Maintenance Agency	連邦道路保守管理局
FEWS NET	: the Famine Early Warning System Network	飢饉早期警告システムネットワーク
GDP	: Gross Domestic Product	国内総生産
GEP	: the Girls Education project	女性教育プロジェクト
GNI	: Gross national Income	国民総所得
HDI	: Human Development Index	人間開発指数
IBRD	: International Bank for Reconstruction and Development	国際復興開発基金
IDA	: International Development Association	国際開発協会
IFC	: International Finance Corporation	国際金融公社
IMF	: International Monetary Fund	国際通貨基金
IOM	: International Organization for Migration	国際移住機関
JIC	: Joint Implementation Committee	共同実施委員会
LEAD	: Leadership Empowerment, Advocacy and Development	リーダーシップ強化支援開発
MDGs	: Millennium Development Goals	ミレニアム開発目標
MFBs	: Microfinance Banks	マイクロファイナンス銀行
MTEF	: Medium Term Expenditure Framework	中期財政支出フレームワーク
NAPEP	: National Poverty Eradication Programme	国家貧困削減プログラム
NBS	: National Bureau of Statistics	国家統計局
NDE	: National Directorate of Employment	国家雇用局
NEEDS	: National Economic Empowerment and Development Strategy	国家経済強化開発戦略
NEI	: Northern Education Initiative	北部地域教育イニシアティブ
NEPA	: National Electric Power Authority	国家電力供給機関
NEPAD	: the New Partnership for Africa's Development	アフリカ開発新パートナーシップ
NGO	: Non-Governmental Organization	非政府組織
NHIS	: Nigeria's National Health Insurance Scheme	国民健康保険スキーム
NRC	: Nigerian Railway Corporation	ナイジェリア鉄道公社
NSHDP	: National Strategy Health Development Plan	国家戦略保健開発計画
NV20: 2020	: Nigeria Vision 20: 2020	ナイジェリアビジョン 2020
OECD	: Organization for Economic Co-operation and	経済開発協力機構

	Development	
OPEC	: Organization of Petroleum Exporting Countries	石油輸出国機構
OSSAO-MDGs	: the Office of the Senior Special Assistant to the President on MDGs	MDGs 達成に向けた上級特別大統領補佐室
P1	: Poverty Gap	貧困ギャップ比率
P2	: Poverty Severity	2 乗貧困ギャップ比率
PHCN	: Power Holding Company un Nigeria	ナイジェリア発電持株会社
PLP	: Peace Keeper Programme	平和維持プログラム
PPP	: Purchasing Power Parity	購買力平価
PRSP	: Poverty Reduction Strategy Paper	貧困削減戦略文書
SEEDS	: State Economic Empowerment and Development Strategy	州経済強化開発戦略
SMEDAN	: Small and Medium Enterprises Development Agency of Nigeria	ナイジェリア中小企業開発庁
SMEEIS	: Small and Medium Enterprises Equity Investment Scheme	中小企業株式投資スキーム
TFM	: Trust Fund Model	農業貸付制度
TSHIP	: Targeted States High Impact Project	特定地域集中支援プロジェクト
UBE	: Universal Basic Programme	普遍的基礎教育
UNDP	: United Nations Development Programme	国連開発計画
USAID	: United States Agency for International Development	アメリカ合衆国国際開発庁
WB	: World Bank	世界銀行
WHO	: World Health Organization	世界保健機関
WIPO	: World Intellectual Property Organization	世界知的所有権機構
WTO	: World Trade Organization	世界貿易機構



# 1. 国家貧困情報及び基本情報

## 1 基本情報

### (1) 国土

◆92万3,768平方キロメートル

### (2) 地理情報

◆北緯4度16分 - 13度53分、東経2度40分 - 14度41分<sup>1</sup>

### (3) 人口<sup>2</sup>

◆総人口：1億4922万9090人（2009）

◆人口増加率2%（2009）

◆都市人口比率：47%（2004）

◆15歳以下人口比率：41.5%（2009）

図表 1.1 人口動態

年齢	男性		女性	
	2000	2020	2000	2020
0歳～4歳	10,671,983	12,710,249	10,211,037	12,140,651
5歳～9歳	8,759,695	11,638,814	8,361,552	11,144,758
10歳～14歳	7,699,300	10,920,715	7,326,557	10,462,734
15歳～19歳	6,863,927	10,124,981	6,507,433	9,695,123
20歳～24歳	5,912,756	9,006,722	5,605,774	8,635,594
25歳～29歳	4,879,938	7,797,893	4,638,220	7,468,525
30歳～34歳	4,007,345	6,686,426	3,830,770	6,327,072
35歳～39歳	3,247,144	5,712,638	3,134,350	5,324,271
40歳～44歳	2,590,841	4,714,137	2,527,725	4,368,621
45歳～49歳	2,137,004	3,739,777	2,108,789	3,530,571
50歳～54歳	1,818,733	2,952,893	1,779,854	2,917,557
55歳～59歳	1,466,214	2,278,594	1,426,195	2,362,032
60歳～64歳	1,106,455	1,687,095	1,092,181	1,820,223
65歳～69歳	786,483	1,232,914	792,314	1,370,337
70歳～74歳	502,303	859,301	517,555	960,355
75歳～79歳	267,385	500,936	287,153	569,572
80歳～84歳	108,786	222,483	125,006	268,241
85歳～89歳	30,154	67,721	37,092	89,228
90歳～94歳	5,015	12,600	6,653	18,550
95歳～99歳	447	1,267	646	2,126
100歳以上	21	66	33	129

出所：USAID (2009) *USAID Country Health Statistical Report: Nigeria*

### (4) 宗教

◆ムスリム45%。キリスト教54%（カトリックは12%）伝統的宗教1%<sup>3</sup>

<sup>1</sup> National Population Commission (2009) *Nigeria Demographic and Health Survey 2008* p1

<sup>2</sup> USAID (2009) *'USAID Country Health Statistical Report: Nigeria'* p4

## 2 マクロ経済及びドナー動向

### 2.1 マクロ経済動向

図表 1.2 マクロ経済指標 (2007 - 2010)

	2007	2008	2009	2010 (推定値)
実質経済成長率	6.4	6.0	7.0	8.4
石油分野成長率	-4.5	-6.2	0.5	11.1
非石油分野成長率	9.5	9.0	8.3	7.9
消費者物価指数 (年平均)	5.4	11.6	12.5	13.8
国内貯蓄/GDP	41.6	39.8	41.0	-
投資/GDP	22.8	24.0	27.6	-
財政収支/GDP	-0.4	4.6	-10.4	-6.9
政府債務/名目 GDP	12.8	11.6	15.2	-
外貨準備高 (10 億ドル)	51.3	53.0	42.4	34.1
対外負債/GDP	2.4	2.2	2.3	-
実効為替レート	109.5	123.8	109.7	-
貨幣成長率(%)	44.2	57.8	17.5	12.1

出所：IMF (2011) *Nigeria: 2010 - Article IV consultation* -

1999 年以降ナイジェリア経済は着実に成長してきており、1999 年から 2009 年にかけての経済成長率は 8.0%、2004 年から 2009 年の期間では 7.0%となっている。これらの数値は主として非石油部門の成長に基づいている。国内の物価も徐々に落ち着き、1999 年から 2003 年までのインフレ率は 11.9%、2004 年から 2009 年まででは 11.6%となっている。これは 1980 年代のインフレ率が 20%程度であったことを考えると、低く抑えられているといえる。対外部門も外貨準備の増加に伴って安定しており、外貨準備額は 2004 年の 169.6 億ドルから 2008 年には 530.0 億ドルに増加している。直近の数値は、2009 年の 430 億ドルである。外貨市場の規制緩和に伴って、ナイラの価値は安定しているものの、かなり減価した水準にある<sup>4</sup>。

経済成長率について、新興国市場の成長率が平均して 9-12%であることを考えると、それほど高い数値ではない。1999 年から 2009 年にかけての平均年率人口成長率は 3.2%であり、一人当たり経済成長率が 4.3%にとどまったことで、持続可能な成長に必要とされる年率 7.0%には届かなかった<sup>5</sup>。

<sup>3</sup> Federal Republic of Nigeria(2009)*Social Statistics in Nigeria*, p397

<sup>4</sup> *Nigeria Vision 20:2020 The 1st NV20:2020 Medium Term Implementation Plan (2010-2013) Volume I: The Vision and Development Priorities (Draft)*, May 2010, この高い人口成長率は、「III 貧困状況分析」で示される貧困状況（特に貧困人口の増加と格差の拡大）に強い影響を与えているものと推測される。

<sup>5</sup> 同上

図表 1.3 分野別実質 GDP 成長率（基準年：1990 年）

Sector	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	Average
Non-oil	4.4	2.9	10.0	33.8	5.8	13.2	8.6	9.4	9.5	9.0	8.3	10.4
GDP	0.4	5.4	8.4	21.3	10.2	10.5	6.5	6.0	6.4	6.0	6.7	8.0
Agriculture	5.3	2.9	3.9	55.2	7.0	6.3	7.1	7.4	7.2	6.3	5.9	10.4
Building, Construction and Real Estate	3.8	3.9	8.7	3.7	6.2	1.0	11.6	12.4	12.4	12.5	11.7	8.0
Oil and Gas	-7.5	11.1	5.2	-5.7	23.9	3.3	0.5	-4.5	-4.5	-6.2	-1.3	1.3
Health	1.7	1.6	1.6	0.8	2.0	1.8	10.0	10.3	10.3	10.3	10.0	6.3
Finance and Insurance	3.5	4.0	4.5	29.5	-9.6	2.7	2.8	5.0	5.0	4.8	4.0	5.1
Manufacturing	3.4	3.4	7.0	10.1	5.7	11.9	9.6	9.4	9.6	8.9	7.6	7.9
Mining and Quarrying	-7.4	11.1	5.3	-5.6	23.7	3.5	0.6	-4.3	-4.3	-5.9	-0.8	1.9
Other Service	16.2	7.0	4.3	12.5	3.7	29.1	9.9	10.8	10.9	10.9	13.5	11.5
Public Administration	1.7	1.6	1.6	18.1	0.0	10.8	4.0	4.5	4.5	4.4	4.4	5.1
Telecommunication And Postal Services	6.1	6.7	595.3	27.0	23.8	55.8	29.6	33.7	33.8	34.0	34.2	80.0
Transportation	4.0	3.5	4.7	17.4	1.2	49.9	6.3	6.9	7.0	7.0	6.9	10.4
Utilities	15.4	0.0	713.3	13.1	17.1	16.8	6.6	4.9	4.9	3.7	3.1	72.6
Wholesales and Retail Trade	2.5	1.6	2.5	6.5	5.8	36.7	13.5	15.3	15.2	14.0	11.3	11.3

出所：Nigeria Vision 20:2020 The 1st NV20:2020 Medium Term Implementation Plan (2010-2013) Volume I: The Vision and Development Priorities (Draft), May 2010,

## 2.2 産業

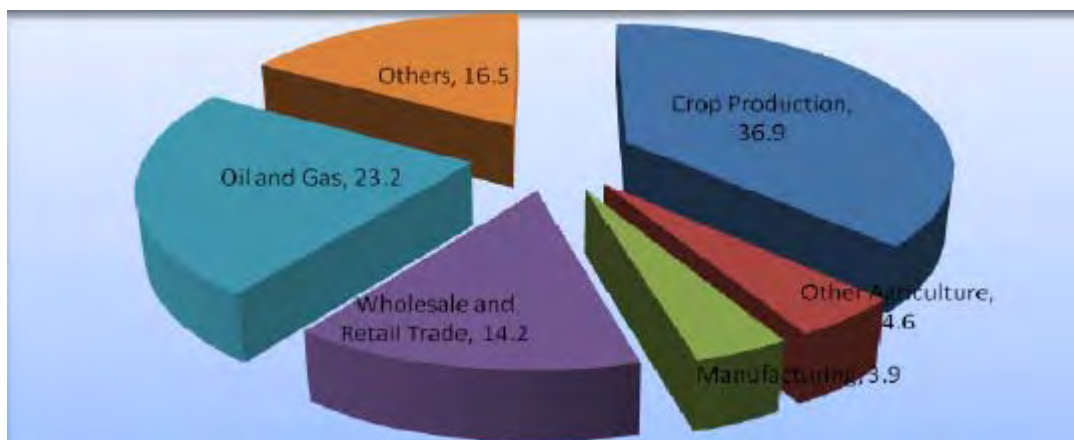
農業と原油生産が産業の中心である。独立時には国民の75%が農業に従事し、外貨獲得の主要な手段となってきた。その後油田が発見されると原油の輸出がそれにとって代わり、2007年時点では90%以上の外貨を原油輸出から稼ぎ出し、政府収入の80%以上を原油輸出によっている。2007年時点で労働人口の50%以上が農業に従事しているが、その多くは自給的農業であり、今日の世界経済の要求に応えられるような技術レベルにはない<sup>6</sup>。

しかしながら、農業部門においては、穀物生産や野菜・果実栽培、畜産、漁業、養殖業、ゴム生産等の分野で生産を増加させて2004年から06年にかけて年間成長率6%を達成し、また、製造業部門においても、GDPに対する寄与率では4%程度にとどまるものの、「国家経済強化開発戦略」（後述）が目標とする目標とする6-7%の成長を達成している<sup>7</sup>。

<sup>6</sup> UNDP (2009) *Human Development Report Nigeria 2008-2009*

<sup>7</sup> IMF(2007) '*Progress Report on the National Economic Empowerment and Development Strategy (NEEDS)*', Seeds Benchmarking Exercise (2006) and Millenium Development Goals(MDGs 2006) p9

図表 1.4 部門別 GDP 寄与率 (1999-2009)

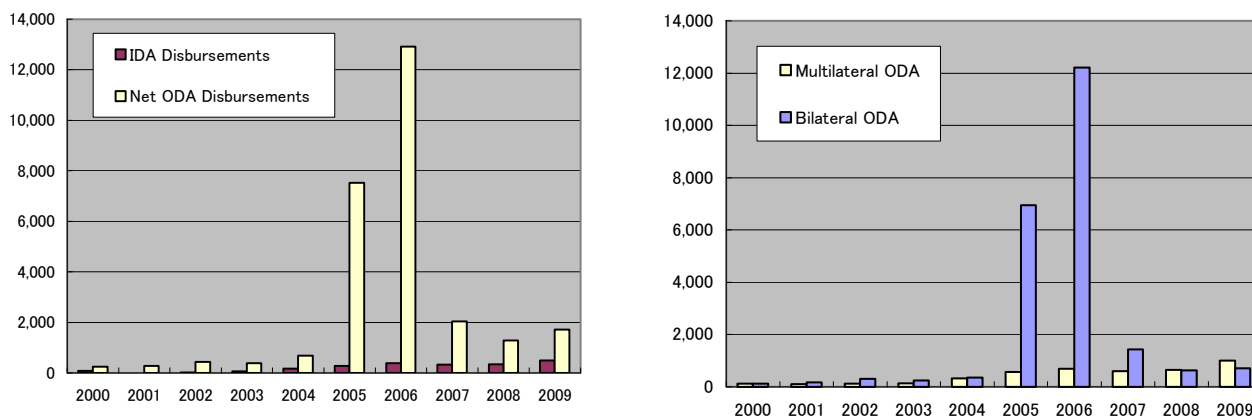


出所 : Nigeria Vision 20: 2020 (2010)

### 2.3 ドナーの動き

ナイジェリアに対する 2000 年以降の ODA ディスバースメント額 (ネット) は以下のとおりである。

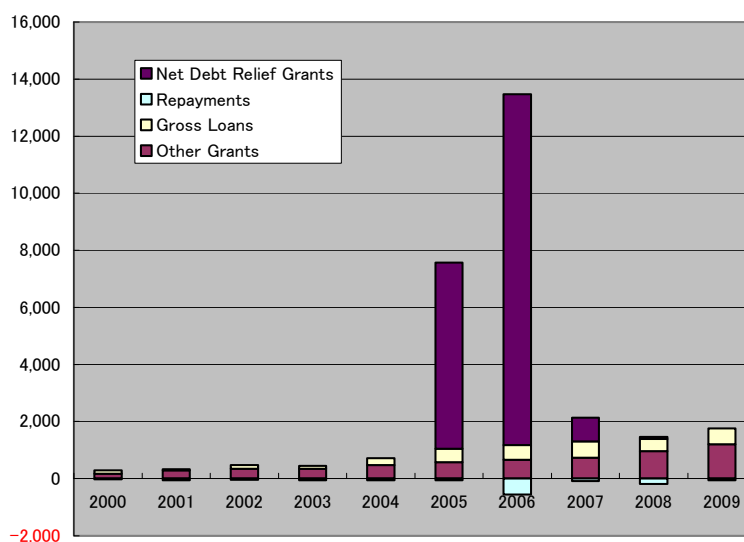
図表 1.5 ナイジェリアに対する ODA ディスバースメント (ネット) の推移 (100 万 US\$)



出所 : OECD DAC, aidflows

2005 年及び 06 年に二国間 ODA のディスバースメントが突出して急増しているのは、次図表のとおり、各々 65 億ドル、123 億ドルに及ぶ債務削減が実施されたためである (債務削減は 2007 年に 8 億ドル、08 年にも 8 千万ドルが実施されている)。これを除くと、グラント及びローンの供与額は 2000 年の 2.8 億ドルから 2009 年の 17.6 億ドルまで緩やかに増加している。

図表 1.6 ODA ディスバースメントのタイプ別内訳（返済を含む・100万 US\$）



出所：OECD DAC, aidflows

図表 1.7 2007 - 2009 年のディスバースメント額（ネット）上位 10 ドナー

2007 年		2008 年		2009 年	
国/ドナー	金額 (百万ドル)	国/ドナー	金額 (百万ドル)	国/ドナー	金額 (百万ドル)
Netherlands	344.0	U.S	363.9	World Bank	475.6
Austria	321.3	World Bank	333.0	U.S	354.0
World Bank	315.4	EU institutions	91.6	U.K	188.9
U.K	286.0	Denmark	81.6	EU institutions	81.9
U.S	240.6	U.K	47.2	Denmark	31.2
Denmark	95.6	Japan	29.0	Japan	28.8
EU institutions	78.5	Germany	27.5	Germany	26.7
Japan	26.8	Canada	26.7	Canada	18.5
Germany	25.5	Spain	25.4	UNDP	14.8
Canada	20.9	UNDP	14.5	Norway	9.2

出所：OECD DAC, aidflows

国・ドナーによる ODA の供与額は年によって変動するが、債務削減の影響がなくなった直近 2009 年の数値をみると世界銀行、米国、英国が上位 3 位を占める。わが国は EU、デンマークに続いて第 6 位である。

また、ODA の用途別内訳比率を見ると、2005 年、06 年はほとんどが上述の債務削減に充てられていたが、これが無くなった 2009 年には、保健及び人口関係が 56.8% と過半数を占め、その他社会セクターが 17.0%、経済インフラ及びサービスが 10.6% を占めている。

図表 1.8 ODA ディスバースメント（グロス）の用途別内訳の推移（％）

Major Sector Name	2005	2006	2007	2008	2009
Action relating to debt	86.3	91.8	39.2	5.0	0.0
Administrative costs	0.0	0.0	0.2	0.2	0.1
Economic infrastructure and services	1.5	0.8	13.6	11.9	10.6
Education	1.1	0.6	3.5	7.1	8.6
Health and population	4.7	3.2	24.1	46.6	56.8
Humanitarian aid	0.4	0.0	0.1	0.2	0.4
Multisector/cross-cutting	0.2	0.3	1.6	2.4	1.7
Other social sectors	3.2	2.3	14.6	19.5	17.0
Production sectors	0.4	0.5	2.3	4.0	4.4
Program assistance	0.7	0.1	0.8	2.5	0.2
unallocated/unspecified	1.5	0.5	0.0	0.7	0.1
	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

出所： OECD DAC, aidflows

以下では主要ドナーである英国、米国および世界銀行のナイジェリアにおける支援動向について概略を記述する。

#### 英国

英国では国際開発省（Department of International Development: DFID）がナイジェリア支援の中心となっている。2011年3月現在57のプロジェクトが進行している。

DFIDは、ナイジェリアの連邦政府・各州・各自治体が国民の必要にあわせて透明性の高い方法でそれに対応できるような制度・設備を構築することを目指している。2005年以降は世界銀行と協力し、国家共同パートナーシップ戦略（Joint Country Partnership Strategy: CPS）を実行してきており、2013年に向けてアフリカ開発銀行（African Development Bank: AfDB）、米国国際開発庁（the United States Agency for International Development: USAID）も本プログラムに参加することが決定している。

DFIDによる支出の75％程度が技術支援に、20％がMDGs関連プロジェクトに、5％が社会市民団体に使われている。各州が政策実行に関して強い権限を持っていることから、全体の60％が州レベルでの政策支援費となっている。DFIDはかつてからいくつかの州に対して集中的な投資を行う戦略をとってきており、これからも同様の姿勢を維持すると考えられている<sup>8</sup>。プログラムレベルで言うと、特にジェンダー教育に関しては主導的な位置にあり、ドナーのコーディネーションに対して高いコミットメントを示している<sup>9</sup>。

<sup>8</sup> House of Commons, International Development Committee (2009) *DFID's Programme in Nigeria, eighth Report of session 2008-2009 Volume I* p14-15

<sup>9</sup> DFID (2006) *Evaluation of DFID's Policy and Practice in Support of Gender Equality and Women's Empowerment Country Case Studies Volume II India Nigeria Western Balkans* p137



## 米国

米国はUSIADを窓口としてナイジェリアへの支援を行っている。同国は 2010 年に米国国際開発庁／ナイジェリア戦略 2010-2013 (USAID/Nigeria Strategy 2010-2013) を発表し、それに基づいた支援を行っていく予定である。支援に際しては 4 つの中心的な支援軸、①公正で民主的なガバナンス、②保健・教育分野を中心とした人への投資、③経済成長と貿易の強化、④平和と安全の保障、を設定し、これに加えてエネルギー安全保障や地方の安定、イスラム教徒への支援にも重点を置いている。具体的には若年層、紛争、ジェンダー、汚職対策、政府の運営能力の 5 つの主要課題の解決に対して支援を行っていくとしている<sup>10</sup>。

なお同じく 2010 年に発表された、米国開発庁／ナイジェリアパブリック・プライベート・パートナーシップ戦略・実行計画 (USAID/Nigeria Public Private Partnership Astrategy and Workplan 2010-2013) によると、以上のような目的達成と同時にその規模や効果の拡大、持続可能性の向上の観点からパブリック・プライベート・パートナーシップを積極的に活用していくことが確認されている<sup>11</sup>。

集中支援対象地域の選定に際してはその地域のガバナンス構造、それまでに行われた投資、ナイジェリア政府の優先度などが考慮され、その結果Bauchi州とSokoto州が支援プログラムの主な協力州と決定した<sup>12</sup>。具体的には市民社会や民間主体の強化を通してガバナンス改善を目指すリーダーシップ強化支援開発 (Leadership, Empowerment, Advocacy and Development: LEAD) や就学率向上のための北部地域教育イニシアティブ (Northan Education Initiative: NEI)、保健分野・栄養状態の改善を目指す特定地域集中支援プロジェクト (Targeted States High Impact Project: TSHIP) がある<sup>13</sup>。

## 世界銀行

世界銀行の一部門である国際開発協会 (International Development Association: IDA) は、ナイジェリア・国家パートナーシップ戦略 (Nigeria Country Partnership Strategy: CPS II) の策定に関して主導的役割を果たし、これは 2010 年から 2013 年にかけて、①ガバナンスの改善、②非原油部門の成長維持、③人間開発の促進、以上 3 点をテーマとした支援を行っていくことを記したものである。このパートナーシップ参加国による支援は、ナイジェリアに対する支援全体の 80%にも上るものである<sup>14</sup>。

2010 年 9 月までに、世界銀行によるナイジェリアに対する貸付金の合計額は 105 億米ドル以上となっている。直近の支援プロジェクトとしては、第二期ファダマ開発プロジェクト

<sup>10</sup> USAID (2010) *USAID/Nigeria Strategy 2010-2013* p3-5

<sup>11</sup> USAID (2010) *USAID/Nigeria Public Private Partnership Astrategy and Workplan 2010-2013* p5

<sup>12</sup> USAID (2010) *USAID/Nigeria Strategy 2010-2013* p4

<sup>13</sup> USAID/Nigeria (<http://nigeria.usaid.gov/index.php>)

<sup>14</sup> The World Bank:Nigeria 'Country Assistance Strategy (CAS)'

(<http://web.worldbank.org/WBSITE/EXTERNAL/COUNTRIES/AFRICAEXT/NIGERIAEXTN/0,,menuPK:368909~pagePK:141132~piPK:141105~theSitePK:368896,00.html>)

ト<sup>15</sup> (Second National Fadama Development Project: Fadama II)、金融部門および公的金融開発政策貸付 (Financial Sector and Public Financial Management Development Policy Credit: DPC) などが行われている<sup>16</sup>。

### 3 貧困情報

#### 3.1 貧困ライン未満人口

ミレニアム開発目標において、2015年に一日1ドル以下で生活する人口を21.35%まで減少させることが求められている (ターゲット 1.A)。中間評価とされた2007年までに、相対的貧困の中で生活する割合28.78%まで減少することが求められていたが、実際の数値は51.55%に留まっている (2004~2006年)。ただし2011年中に報告される数値は、政府による農業部門やインフラへの投資の効果もあってこれより減少していると考えられている<sup>17</sup>。

図表 1.9 1日1ドル以下生活者比率

Indicator	1990	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2015 target
1.1 Proportion of the population living on less than \$1 (PPP) per day (%)	NA	NA	NA	NA	NA	51.55	51.55 <sup>1</sup>	51.55 <sup>1</sup>	NA	NA	NA	21.4

出所：Millennium Development Goals (2010) *Nigeria Millennium Development Goals report 2010*, p.13.

#### 3.2 出生時余命

出生時における平均余命は2009年時点で46.9歳、同年における新生児の数は5,469,246人である<sup>18</sup>。

図表 1.10 幼少期致死率

調査時の年齢	推定致死率が適用される時期	新生児期	新生児後期	乳児期	子供期	5歳以下
0歳~4歳	2003-2008	40	35	75	88	157
5歳~9歳	1998-2003	52	47	99	97	187
10歳~14歳	1993-1998	49	48	97	113	199

注：1000人あたり

注：新生児期=生後1ヶ月まで、新生児後期=生後1ヶ月~1歳の誕生日、乳児期=1歳の誕生日まで、子供期=1歳の誕生日~5歳の誕生日、5歳以下=5歳の誕生日まで

<sup>15</sup> 貧困農家の所得向上を目的とした農業農村開発プロジェクト

<sup>16</sup> IDA at work: Nigeria

(<http://web.worldbank.org/WBSITE/EXTERNAL/EXTABOUTUS/IDA/0,,contentMDK:22289452~pagePK:51236175~piPK:437394~theSitePK:73154,00.html>)

<sup>17</sup> Millennium Development Goals (2010) *Nigeria Millennium Development Goals report 2010*, p.14.

<sup>18</sup> USAID (2009) 'USAID Country Health Statistical Report: Nigeria p4

上の表では、2008年のナイジェリア人口動態・健康調査において、5年ごと3つの期間で計測された幼少期致死率が示されている。調査が実施された期間における5歳以下での致死率は1000人あたり157人であった。これはナイジェリアの新生児6人に一人が5歳の誕生日を迎えていないことを意味する。子供期（1歳～5歳）における致死率は1000人あたり88人、乳児期（0歳～1歳）における致死率は1000人あたり75人、新生児期における致死率は1000人あたり40人である。

3期間に分けたこの調査の結果5歳以下における致死率は、1990年代半ば（1993－1998）の1000人あたり199人から2000年代半ばにかけて大きく低下したことがわかる。致死率の低下のうちほとんどの部分は新生児期以外の期間で発生している。

図表 1.11 幼少期致死率の傾向

	推定致死率が適用される時期	新生児期	新生児後期	乳児期	子供期	5歳以下
NDHS2008	2003－2008	40	35	75	88	157
NDHS2003	1998－2003	48	52	100	112	201
NDHS1990	1986－1990	42	45	87	115	192

注：1000人当たり

出所：National Population Commission (2009)*Nigeria Demographic and Health Survey 2008* p120

上の表は、幼少期致死率についてナイジェリア人口動態・健康調査の1990年版、2003年版、2008年版をそれぞれ比較し、5歳以下での致死率のトレンドを示している。この結果によれば、新生児期の致死率は低下しているもののその程度は非常に小さく、1000人あたり42人（1990年）からわずかに1000人当たり40人（2008年）となったのみである。

新生児後期の致死率は1000人あたり45人（1990年）から1000人あたり35人（2008年）に、乳児期で見ると1000人当たり87人（1990年）から1000人当たり75人（2008年）まで低下している。子供期はそれぞれ1000人当たり115人から88人に、5歳以下における致死率は1000人当たり192人から157人に、それぞれ24%、18%の低下となっている<sup>19</sup>。

周産期の死亡には、妊娠7ヵ月後の流産、出生後7日以内の新生児の死亡を含む。周産期致死率は、上記2つの数字の合計である周産期致死数を期間が7ヶ月を超える妊娠数で除したものである。死産と新生児早期致死の相違は出産後の生存兆候の有無である。

上記の表は5年ごとに行われる2008年ナイジェリア人口動態・健康調査に基づいて、死産、新生児早期致死、周産期致死率をそれぞれ示し、かつ社会経済的特徴によって区分したものである。

ナイジェリアの周産期致死率は1000の妊娠に対して39に上る。この数値は、居住地、ゾーン別では、各々、農村部、南東部及び南南部で高くなっており、母親の教育履歴別で

<sup>19</sup> National Population Commission (2009)*Nigeria Demographic and Health Survey 2008* p118-120

は初等教育が、また、富裕さの5分位では最低層及び最高層で高くなっている。この傾向は、居住地（農村部）を除けば、後に見る貧困パターンとは必ずしも合致していない。

図表 1.12 出産期前後の致死率

背景特性	死産数	新生児早期の死亡数	周産期致死率	期間7ヶ月以上の妊娠数
居住地域				
都市	72	221	35	8,431
農村	156	649	40	19,898
ゾーン				
北央部	27	99	33	3,856
北東部	41	140	39	4,616
北西部	83	257	38	8,863
南東部	30	109	50	2,760
南南部	19	136	42	3,686
南西部	28	129	35	4,548
母親の教育履歴				
なし	103	383	37	13,174
初等教育	43	228	41	6,565
中等教育	68	218	40	7,064
中等教育以上	14	41	36	1,525
富裕さの五分位				
最低層	55	222	42	6,580
第2層	47	202	39	6,442
中層	36	155	35	5,454
第4層	49	141	38	5,052
最高層	40	150	40	4,800
合計	228	870	39	28,328

注1：死産：妊娠期間が7～8ヶ月を超えた上での胎児の死亡。

注2：新生児早期の死亡：生後7日以内の新生児の死亡。

注3：周産期致死率：（死産と新生児早期の死亡の合計）／（数期間7ヶ月以上の妊娠）注4：直近の妊娠からの周期を出産の周期でとると、24週以下、24～35週、36週～47週、48週以上となる。

出所：National Population Commission (2009) *Nigeria Demographic and Health Survey 2008* p126

### 3.3 教育

- ◆成人識字率：66.8%(2002)<sup>20</sup>
- ◆成人識字率（女性）：59%(2002)
- ◆成人識字率（男性）：74%(2002)
- ◆総就学率（初等教育）：96.2%(2006)
- ◆ジェンダー格差指標（純就学率）：0.86(2006)

2008年のナイジェリア人口動態・健康調査から得られた教育水準に関するデータは下記

<sup>20</sup> 以下◆指標はいずれも USAID(2009) 'USAID Country Health Statistical Report: Nigeria' p5

のとおりである<sup>21</sup>。

図表 1.13 女性の教育達成度

背景特性	教育未経験	初等教育		中等教育		中等教育以上	合計	就学完了平均年数
		未完了	完了	未完了	完了			
居住地域								
都市	22.0	19.2	11.3	17.2	17.5	11.4	100.0	5.7
農村	48.9	18.7	10.6	10.8	6.5	2.5	100.0	0.0
居住ゾーン								
北央部	39.3	23.8	10.9	12.4	7.1	4.8	100.0	1.7
北東部	65.5	15.9	5.9	6.5	2.8	1.3	100.0	0.0
北西部	67.5	13.1	6.8	4.6	3.1	1.5	100.0	0.0
南東部	20.8	23.2	13.8	17.4	15.9	7.6	100.0	5.4
南南部	14.9	22.0	15.7	22.3	19.2	7.9	100.0	5.7
南西部	21.5	19.2	13.5	17.6	17.4	9.9	100.0	5.6
富裕の五分位								
最低層	74.4	12.3	6.1	3.8	0.9	0.1	100.0	0.0
第2層	58.6	19.2	9.7	7.5	2.4	0.3	100.0	0.0
中間層	39.0	23.4	13.0	14.1	7.1	1.4	100.0	1.9
第4層	20.9	21.6	15.1	19.1	16.0	5.8	100.0	5.4
最高層	8.0	17.6	10.1	19.8	24.1	19.4	100.0	9.2
合計	39.9	18.9	10.9	12.9	10.2	5.4	100.0	2.1

図表 1.14 図表 14 男性の教育達成度

背景特性	教育未経験	初等教育		中等教育		中等教育以上	合計	就学完了平均年数
		未完了	完了	未完了	完了			
居住地域								
都市	13.8	19.3	11.0	17.2	22.2	15.3	100.0	7.4
農村	35.0	21.9	12.3	14.1	10.5	5.0	100.0	2.8
居住ゾーン								
北央部	25.3	24.5	10.4	17.2	12.6	8.8	100.0	4.6
北東部	53.1	19.8	6.3	9.7	6.0	3.9	100.0	0.0
北西部	48.8	18.4	9.4	9.1	6.6	5.5	100.0	0.0
南東部	11.1	24.0	19.5	19.2	16.4	9.0	100.0	5.7
南南部	7.5	22.2	14.2	21.9	22.0	11.4	100.0	7.3
南西部	12.8	19.8	13.2	16.8	24.0	12.7	100.0	6.9
富裕の五分位								
最低層	62.4	16.7	8.8	7.1	2.9	0.5	100.0	0.0
第2層	41.6	23.5	12.4	12.3	6.9	1.7	100.0	1.0
中間層	23.0	26.9	14.2	18.1	12.2	4.4	100.0	4.9
第4層	11.2	21.9	14.4	19.9	21.2	10.3	100.0	6.3

<sup>21</sup> National Population Commission (2009), p13-14 なお、ナイジェリアの教育制度は日本と同様 6-3-3-4 制であるが、中等教育学校は全体で 6 年間あり、最初の 3 年が終了した時点で Junior Secondary School Exam (JSS3 Exam) を受験し、Senior Secondary School への進学資格を得る。最終学年時に Senior Secondary School Exam (SS3 Exam) が行われる。中等教育終了後は、大学 (国立、州立、私立)、技術専門学校 (国立、州立) という進路がある。

最高層	4.4	16.3	9.4	17.4	27.5	24.1	100.0	11.1
合計	27.7	21.0	11.8	15.1	14.5	8.6	100.0	5.1

注1：合計数には37のウェイトをかけられていない、教育達成度に関する情報が失われたケースが含まれている。

注2：初等教育完了は、初等教育6年間の完了を意味する。

注3：中等教育完了は、中等教育6年間の完了を意味する。

出所：National Population Commission (2009), p15-16

上記の表はそれぞれ男女6歳以上の家計構成員の教育達成度を示している。男女別の傾向として、教育経験がないものの比率は男性よりも女性で高く（男性28%に対して女性40%）、各段階別の教育完了比率も男性の方が女性より高い。

居住地域別の傾向としては、男女とも農村で教育未経験者の比率が高くなっているが、初等教育の未完了率は、男性では農村が都市より高い数値を示しているのに対して、女性ではむしろ都市が農村を上回っている。中等教育の完了比率は男女とも都市において高い傾向を示している。

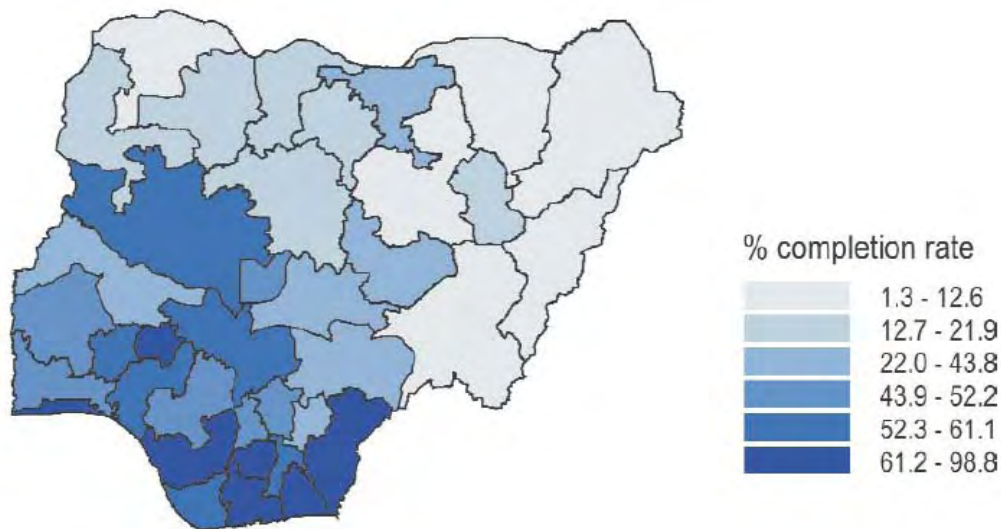
居住ゾーン別の傾向についてみると、北西部と北東部では何の教育を受けていない人の割合が高く、男性では北東部で53.1%、女性では北東部及び北西部でいずれも65%を超える高い数値を示している。他方、南南部は男女とも教育未経験者の比率が最も低く、かつ中等教育完了比率が最も高い地域となっている。

富裕さとの関係では、想定のとおり教育水準は家計の豊かさに依存しており、男女とも、富裕の五分位でいう最高層の人は、最低層の人に比べて教育を受けている割合が高い。ただし、同じ五分位層で教育未経験者の占める比率を比較した場合、全般的に女性の方が男性よりも高い傾向が認められる。

なお、MDGsにおける基礎教育終了率（ターゲット2.A）は2015年の目標100%に対して2007年時点で67.5%であり、州別の終了率分布は下図のとおりである。

図表 1.15 州別基礎教育終了率（2007年）





出所：Millennium Development Goals (2010) p.19

### 3.4 保健

- ◆保健支出（対GDP比）：5%（2003）<sup>22</sup>
- ◆1000人当たり医師数：0.3人（1997-2004）
- ◆改善された水源へのアクセス（周辺部）：49%（2002）
- ◆改善された水源へのアクセス（都市部）：72%（2002）
- ◆改善された公衆衛生機関へのアクセス（周辺部）：30%（2002）
- ◆改善された公衆衛生機関へのアクセス（都市部）：48%（2002）
- ◆産婦致死率（DHS/Hill）：10万人当たり1100人（2005）
- ◆産婦致死率（DHS）：10万人当たり289人（1999）
- ◆出産前のケア（1回以上）：61%（2003）
- ◆出産前のケア（2回以上）：58.4%（2003）
- ◆出産前のケア（4回以上）：47.4%（2003）
- ◆保健専門家<sup>23</sup>による補助を受けての出産：36.3%（2003）
- ◆医師の補助を受けての出産：6.6%（2003）
- ◆医師以外の保健専門家の補助を受けての出産：29.7%（2003）
- ◆HIV感染率（15歳から49歳）：3.1%（2007）
- ◆推定HIV感染者数（大人・子供）：260万人（2007）
- ◆推定HIV感染者数（15歳以上女性）：140万人（2007）
- ◆推定HIV感染者数（0-14歳子供）：22万人（2007）
- ◆非パートナーとの直近の性交渉におけるコンドーム使用率（男性）：46.9%

<sup>22</sup> 以下◆指標はいずれもUSAID(2009) 'USAID Country Health Statistical Report: Nigeria' p.5-8.

<sup>23</sup> 医師、看護婦、助産師等。

- ◆非パートナーとの直近の性交渉におけるコンドーム使用率（女性）23.2%
- ◆推定結核事例数：460149
- ◆結核発見率：20%（2006）
- ◆結核治療成功率：76%（2006）
- ◆10万件におけるマラリア事例：1983件（2003）
- ◆結核撲滅戦略（Directly Observed Treatment, Short course：DOTS）カバー率：91%（2007）
- ◆鳥インフルエンザ・人間への累積感染数：0.01以下（2009）
- ◆鳥インフルエンザ・累積死者数：0.01以下
- ◆蚊帳の中で睡眠をとる子供の比率：1.2%（2003）

図表 1.16 HIV・AIDS の現状と傾向

指数	2004	2005	2006	2007	2015
15歳から24歳妊娠女性の HIV 感染率	5.0	4.3	4.3	4.3	
HIV の性感染防止方法を知り、かつ感染方法の誤解がない 15歳から 24歳の割合	18.3	25.9	25.9	25.9	100.0
非パートナーとの性交渉においてコンドームを使用する 15歳から 24歳の人の割合	43.9	63.8	63.8	63.8	100.0
AIDS によって孤児となった子供の数（単位：100万人）	1.80	1.97	1.97	1.97	

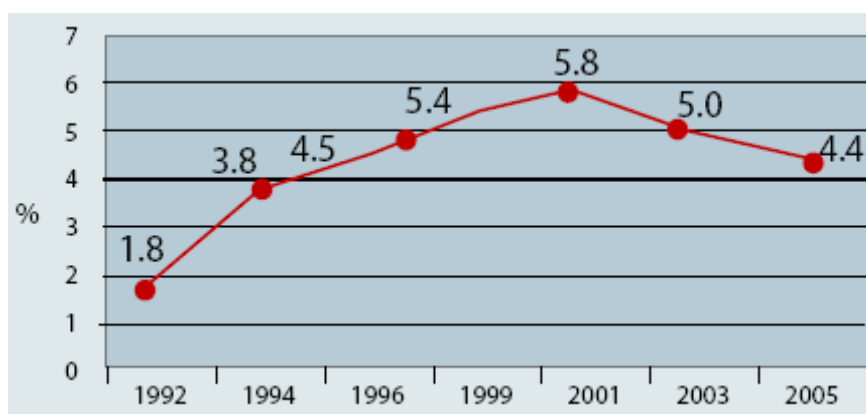
出所：UNDP (2008) *Mid-Point Assessment of the MDGs in Nageria 2000-2007* c p84

HIV 感染者は 1992 年から 2001 年にかけて 1.8%から 5.8%に増加した。しかし 2003 年には 5%に、2005 年には 4.4%へと低下している。ここ数年 15 歳から 49 歳の妊娠女性の HIV 感染率は減少（2001 年：5.8%、2005 年：4.4%）しており、同様の傾向が 15 歳から 24 歳の妊娠女性にも見られる（2003 年：5.2%、2005 年：4.4%）。これらの傾向はナイジェリア国内の HIV 新規感染者数の緩やかな減少を示唆している。

2003 年、2005 年のナイジェリア人口動態・健康調査によれば、性交渉による HIV の感染を防止する方法や HIV 感染経路に関する誤認識についての知識を持つ若者は着実に増加しており、AIDS によって孤児となる子供の数は若干増加傾向にあるものの、上記のような若年層の傾向を見ると、ミレニアム開発目標の第 6 目標「HIV/AIDS の」の達成のチャンスは十分にあると考えられる<sup>24</sup>。

図表 1.17 HIV 感染率（1992—2005）

<sup>24</sup> UNDP (2008) *Mid-Point Assessment of the MDGs in Nageria 2000-2007* c p84-85



出所：UNDP (2008) , p.84.

### 3.5 ジェンダー

ナイジェリアにおける男女格差の問題は、雇用環境や家庭内での意思決定などに顕著に現れる。雇用における格差は、教育格差や法規制、性別に基づいた職業の文化や女性自身の社会的姿勢等に由来する。家庭内での意思決定に関しても、女性自身が獲得した所得の使用法などについて地域・所得などによってその決定過程が異なっている。具体的にいえば、女性自身が自由に決める、夫と共同で決める、夫が決定権を持つ、などである<sup>25</sup>。

図表 1.18 家計主の性別と貧困状況（1980—2004 年 %）

年	男性が家計主		女性が家計主	
	非貧困	貧困	非貧困	貧困
1980	70.8	29.2	73.1	26.9
1985	52.7	47.3	61.4	38.6
1992	56.9	43.1	60.1	39.9
1996	33.6	66.4	41.5	58.5
2004	41.8	58.2	56.5	43.5

出所：NBS (2005)

上の表によると、男性が家計主である家計は、女性がそれである家計に比べて貧困率が高いことを示している。他の指標と併せて見ると、女性が家計主である家計の方が小規模で、かつ一教育レベルが高い傾向がしめされている。家計主を務める女性の多くが寡婦であり、女性が家計主である家計の 50%が 2 人から 4 人という小規模家計である。

図表 1.19 家計主の性別と一人当たり支出（2004 年）

<sup>25</sup> National Population Commission (2009) p240-243. ナイジェリア現地（アブジャ）での NGO へのヒアリングよれば、ナイジェリアでは、女性は土地へのアクセスを持たず、父親や夫が死亡すると生産手段を失ってしまうことが多いという。

支出先		家計主	
		男性	女性
食料支出	合計	0.825	0.729
	自身の消費	0.263	0.228
	家計消費	0.562	0.501
非食料支出		0.094	0.105
保健費		0.150	0.151
賃料		0.340	0.420
絶対支出額	食料	16,991	18,687
	非食料	17,746	22,521

出所：NBS (2005)

上の表より、男女ともにおよそ50%を家計の食料支出に当てており、その割合は男性の方が若干高いことがわかる。ただ支出の絶対額となると女性の方が大きい。

男性の職業として最も多いものは農林業である一方で、女性が最も多いのは学生／退職者／失業者／非現役者である。女性の中でも農林業に従事する人は20%程度おり、小売関連業では男性よりも割合が多い。また、男女別に富裕五分位別の職業比率を見ると、男性の最貧困層の約半数は農林業に従事し、女性の最貧困層の約半数は学生や退職者、失業者であることが判る。

図表 1.20 男女・五分位別職業比率

男性 職業	五分位層					
	第1	第2	第3	第4	第5	合計
学生／退職者／失業者／非現役者	31.17	31.26	31.68	35.57	32.22	32.52
専門・技術職	3.74	3.35	3.99	6.10	9.37	5.84
公務員	0.16	0.18	0.34	0.07	0.43	0.25
事務員	3.61	3.42	3.88	5.54	7.48	5.15
小売関連業	4.66	5.61	6.87	8.37	11.93	8.09
サービス関連業	2.86	2.86	3.25	3.37	4.39	3.48
農林業	47.49	47.36	42.21	32.35	22.32	36.06
生産・運輸業	1.06	1.59	2.10	2.39	3.34	2.27
加工・製造業	1.62	1.25	1.99	2.20	2.67	2.05
その他	3.63	3.12	3.68	4.05	5.85	4.28
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

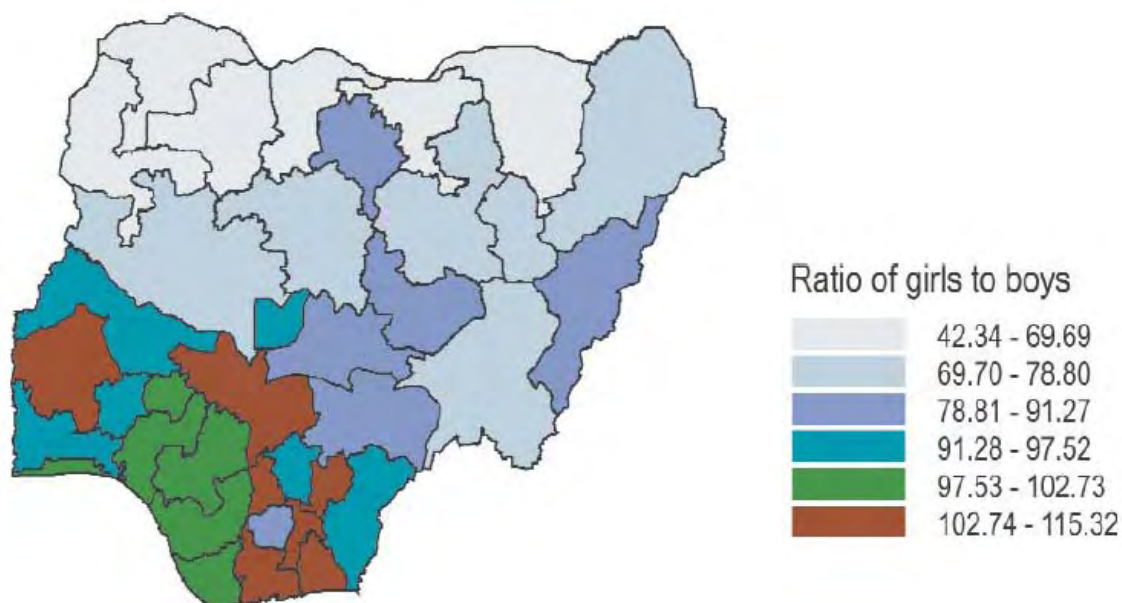
女性 職業	五分位層					
	第1	第2	第3	第4	第5	合計
学生／退職者／失業者／非現役者	47.91	48.26	47.61	42.45	42.25	46.16
専門・技術職	1.13	1.59	1.80	2.43	5.56	2.79
公務員	0.09		0.09		0.17	0.07
事務員	1.03	0.72	0.92	1.89	3.14	1.71
小売関連業	12.89	11.99	11.66	15.64	17.31	14.31

サービス関連業	15.12	15.04	12.69	9.47	7.57	11.39
農林業	18.02	19.76	22.36	21.03	19.25	20.09
生産・運輸業	1.77	2.26	2.48	3.52	4.08	2.98
加工・製造業	0.04			0.03	0.11	0.04
その他	0.22	0.38	0.39	0.54	0.57	0.44
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

出所：NBS (2005)

なお、MDGsにおける男子100人に対する女子の初等教育就学率（ターゲット3.A）は、2015年の目標値100に対して2008年時点で85.4%と未だ開きがある。州別の就学率分布をみると、南部地域のいくつかの州で100を上回る一方、北部の多くの州では78.8以下と平均値を大きく下回っている。

図表 1.21 州別初等教育男女比（男子100人比）



出所：Millennium Development Goals (2010) p.24.

## II. 貧困削減関連政策概要

### 1. 全般

連邦政府は、2004年5月に同国の貧困削減戦略文書に相当する「国家経済強化開発戦略」(National Economic Empowerment and Development Strategy: NEEDS)を策定し、①富の創出、②雇用創出、③貧困削減、④価値の新たな方向付け、の4目標の達成に向けて、i)国民のエンパワメント(保健、教育の充実、環境保全、地方開発、ジェンダー格差是正等)、ii)民間セクターの成長、及びiii)行政改革に着手した。これらの目標及び政策は、2007年に発足したヤラドゥア政権において”Seven Point Agenda”に再整理され引き継がれている。なお、州政府及び地方政府では、NEEDSを補完するState Economic Empowerment and Development Strategy (SEEDS)を作成し、NEEDS/SEEDSの推進を図っている<sup>26</sup>。

また、政府は2020年までの世界経済上位20カ国入りを目指し、ミレニアム開発目標(MDGs)達成に向けたNigeria Vision 20:2020(以下、NV20:2020)を2009年に作成した。NV20:2020はNEEDSとSeven Point Agendaの主要原理と狙いを単一の長期的な戦略計画に纏め上げたものとされ、i)生産性と人々の幸福の保証、ii)経済成長のための主要資源の最適化、及びiii)持続的な社会・経済開発の促進、を三本柱としている。貧困削減に関わる戦略目標(極端な飢えと貧困の除去、質が高く手頃なヘルスケアへのアクセス強化、飲料水と基礎衛生に対する持続的なアクセスの提供、手頃な住居の提供、人材能力の構築、ジェンダー平等と女性のエンパワメント、マイクロクレジットへのアクセス向上)は第一の柱に含まれている<sup>27</sup>。

### 2 政府各機関

#### Ministry of Health

2010年にNational Strategic Health Development Plan (NSHDP) 2010-2015を策定し、9つの最重要指標(overarching indicators)と8つの優先領域を設定している。最重要指標は、①平均寿命、②5歳以下死亡率、③乳児死亡率、④1歳児はしか免疫率、⑤5歳以下過少体重児童比率、⑥5歳以下児童防虫ネット下での就寝比率、⑦妊産婦死亡比率、⑧思春期出産比率、⑨15-24歳HIV感染比率であり、いずれも貧困状況と関係が深い。また、8つの優先領域においても、「ジェンダーに配慮した戦略計画策定」「統合的な方法でのミニム・ケア・パッケージの提供方法とコストの見直し」「特に脆弱な集団のための資金アクセスの

<sup>26</sup> SEEDSはNEEDSに基づき、農業、中小企業、インフラ維持管理、公共財政改革を優先分野とした戦略となっており、NEEDSとのシナジー/補完効果が確保される仕組みになっている(National Planning Commission(2004))。IMFによれば、2006年までに全36州がSEEDSを作成し、予算・財政管理等における共通のベンチマークを用いてSEEDSの進捗についてモニタリングを実施している(IMF(2007), p.2)。

<sup>27</sup> Nigeria Vision 20:2020 Economic Transformation Blueprint, October 2009.



改善」等、貧困に配慮した項目が多く含まれている<sup>28</sup>。

### Ministry of Education

2009年4月に2015年までのアクションプランである *Roadmap for the Nigerian Education Sector* を策定し、4つの優先領域、すなわち、①アクセスと平等性、②標準と質の保証、③技術及び職業教育及び訓練、④資金調達、資源動員及び利用、が設定された。このうち、①の領域が貧困やジェンダーに由来する問題に対処する領域になっている。具体的な施策は以下のとおり。

#### 【基礎教育（ECCDE<sup>29</sup>、初等教育及び中等教育）】

- 就学率向上のための国家キャンペーン、法改正、関係諸機関（SMEDAN、NDE、NAPEP）によるインセンティブの総合化
- コミュニティやボランタリー組織（Voluntary Agency Organizations）及び宗教組織（Faith-based organizations）による近隣学校（neighborhood schools）の設立奨励
- 識字率向上のための「非常事態宣言」とボランティアを動員した大衆識字プログラムの作成
- 州主導による給食、制服、交通手段の提供
- ジェンダー平等化
- 農村学校の向上と”second chance” 学校の設置
- 特に農村部学校における衛生施設改善（トイレ、水道等）

#### 【ポスト基礎教育（高校、技術大学及び職業訓練施設）】

- 高校就学率向上のための教室増築
- 職業教育促進のための国家委員会設置、国家職業資格枠組（NVQF）の作成と実行
- 女兒教育プログラム（GEP）の実施強化
- 市場学校（market schools）等、柔軟な形態の学校設置
- 障害者のための学校施設改善、遊牧民・漁業民等学校へのアクセス困難な子供に対するプログラムの実施

### Ministry of Agriculture

農業部門は、産業部門の拡大を下支えし、外貨獲得を促進し、人口を養い、持続的に雇用と富を創出し、貧困を削減する重要な役割を担っていると認識されている。農業部門はまた、*Vision 20:2020* の達成のためにも重要な役割を負っている<sup>30</sup>。

<sup>28</sup> Federal Ministry of Health, *National Strategic Health Development Plan (National Health Plan) 2010-1015*, March 2010. 現地（アブジャ）でのNGOに対するヒアリングでは、政府は予算の15%を保健衛生分野に向ける方針をコミットしている（Abuja宣言）が、実際は4~7%程度しか振り向けられていないとの意見があった。

<sup>29</sup> Early Childhood Care Development and Education

<sup>30</sup> *Nigeria Vision 20:2020*, p.52

しかし、数々の施策にも関わらず農業部門の生産性は世界平均に比べると低く、過去 20 年間、農業部門における一人当たり付加価値は年間 1%以下しか伸びていない。その背景にはナイジェリアが食糧を年間 30 億ドルも輸入している事実があり、食糧価格と原料価格の上昇が食糧自給率をますます低下させ、高い雇用吸収力と外貨獲得能力を期待される農業資源を基盤とする産業の成長拡大を阻害している<sup>31</sup>。

このため、2011～2013 年にかけての主要な政策戦略として以下を掲げている<sup>32</sup>。

- 農村地域における雇用とインフラの創出を通じて、特に農村コミュニティにおいて国家的及び社会的な富を創出する。
- 農業部門への民間投資流入のためのインセンティブ提供
- 主要な穀物、稚魚及び種子について認可済の種子等の使用を促進
- 食糧輸入を現在の年間 33 億ドルのレベルから 2013 年までに半減させる
- 耕作可能地を 2010 年の 1%から 2013 年までに 10%に向上させるべく既存の灌漑施設の修復を促進
- 有効で効率的な農業普及の提供システムの確立
- 2013 年までに農民の半数に対して改良済の種子を提供する
- 高収穫で病気に対する耐性が強く、成長が早い穀物品種の配給
- 民間企業に対する、穀物種子、家畜及び稚魚の大量生産のためのインセンティブ提供
- バイオテクノロジー等しかるべきテクノロジー利用の促進、新世代農家の創出
- 農業情報システム（AIS）の採用と、効率的な穀物、家畜及び魚生産のためのマッピングとクラス分けを推進するワイヤレステクノロジーの利用
- 気候変動と天候予測のための衛星画像の積極的利用
- 農業機器への電力供給のための天然河川、太陽発電及び風力発電の利用

---

<sup>31</sup> *Nigeria Vision 20:2020*, p.53.

<sup>32</sup> 同上, p.55-56.

### III. 貧困状況分析

#### 1. 所得貧困による分析

##### 1.1 貧困分析に使用するデータ

ナイジェリア連邦政府による定期的な貧困状況調査の結果は、国家統計局（National Bureau of Statistics: NBS）の *Poverty Profile for Nigeria* として取り纏められている<sup>33</sup>。連邦政府による貧困状況把握への取組みは 1990 年代初期に NBS の前身である連邦統計局（Federal Office of Statistics）と世界銀行によって開始され、主に National Consumer Survey のデータセット（1980–96）が分析の対象となった。その結果は *Poverty Profile for Nigeria Report*（1980–96）として取り纏められ、その後の政府の貧困対策のモニタリング及び評価のためのベンチマークとして機能した。

現在の *Poverty Profile* は、NBS によって 5 年毎に実施される Nigeria Living Standard Survey に基づき作成されている。直近の同調査は 2004 年に実施され、これに基づき 2005 年に *Poverty Profile for Nigeria* が作成・出版された。現在、2009 年度の Nigeria Living Standard Survey の結果が取り纏められているところである。同調査は 36 州から各 10 地域、首都圏から 5 地域を選んで調査対象とし、人口構成、教育、雇用及び労働時間、住宅、社会資本、農業、所得及び消費支出、非農業企業といった要素についてデータを収集している。なお、データ収集のための質問票の設計は NBS と世銀及び国家計画委員会（National Planning Commission）が共同で行い、データ収集のモニタリングには世銀も参加する。データセットの分析評価に当たっては、British Council Economic Management Capacity Building (EMCAP) プロジェクトに基づき、DFID のコンサルタントが NBS の要請に応じて技術支援を行っている。

##### 1.2 貧困ラインに基づく貧困分析

###### 1.2.1 絶対貧困指標と相対貧困指標

NBS の *Poverty Profile for Nigeria*（2005）では様々な指標を用いて貧困状況分析を行っているが、所謂貧困ラインによる分析については、絶対貧困と相対貧困の二つの指標を用いている。

前者については、WHO による最低必要エネルギー所要量である 2,900 カロリー／日を得るのに必要な年間の食糧支出 21,743 ナイラ（367 ドル）に、非食糧支出 8,385 ナイラ（142 ドル）を加えた 30,128 ナイラ（509 ドル）<sup>34</sup>を絶対貧困ラインとしている。これによる都市

<sup>33</sup> 以下は NBS (2005) *Poverty Profile for Nigeria* 及び NBS へのヒアリングによる。

<sup>34</sup> 本章では為替レートについて NBS (2005) で設定された \$1=59.2 ナイラを使用している。

／農村（セクター）別及びゾーン別の貧困率は以下のとおりである（図表 3.1）。

他方、相対貧困指標は、時系列的な継続性を維持するためにNBSによって用いられている指標であり、重み付き一人当たり年間家計消費支出<sup>35</sup>（食糧及び非食糧）の2/3を貧困ラインと定めて算出するものである。これにより設定される貧困ラインは23,733 ナイラ（401 ドル）である。（2004年の一人当たり年間家計消費支出は35,600 ナイラ（601 ドル））

この指標に基づく貧困率の推移は以下のとおりである<sup>36</sup>（図表 3.2）。

図表 3.1 セクター及びゾーン別貧困比率（2004年）

	貧困
セクター	
都市	43.1
農村	63.8
ゾーン	
南南部	51.1
南東部	34.2
南西部	43.0
北部中央	63.3
北東部	67.3
北西部	63.9
計	54.7

出所：NBS（2005）

図表 3.2 相対貧困比率と貧困人口の推移（1980—2004）

（単位：%、百万人）

年	貧困比率	総推定人口	貧困人口
1980	28.1	65	18.26
1985	46.3	75	34.73
1992	42.7	91.5	39.07
1996	65.6	102.3	67.11
2004	54.4	126.3	68.70

出所：NBS（2005）

また、同指標に基づく、セクター別及びゾーン別の貧困率の推移は以下のとおりである。

図表 3.3 セクター及びゾーン別の相対貧困率の推移（1980—2004）

年	セクター		ゾーン					
	都市	農村	南南部	南東部	南西部	北部中央	北東部	北西部
1980	17.2	28.3	13.2	12.9	13.4	32.0	35.6	37.7
1985	37.8	51.4	45.7	30.4	38.6	50.8	54.9	52.1
1992	37.5	46.0	40.8	41.0	43.1	46.0	54.0	36.5
1996	58.2	69.3	58.2	53.5	60.9	64.7	70.1	77.2
2004	43.2	63.3	35.1	26.7	43.0	67.0	72.2	71.2

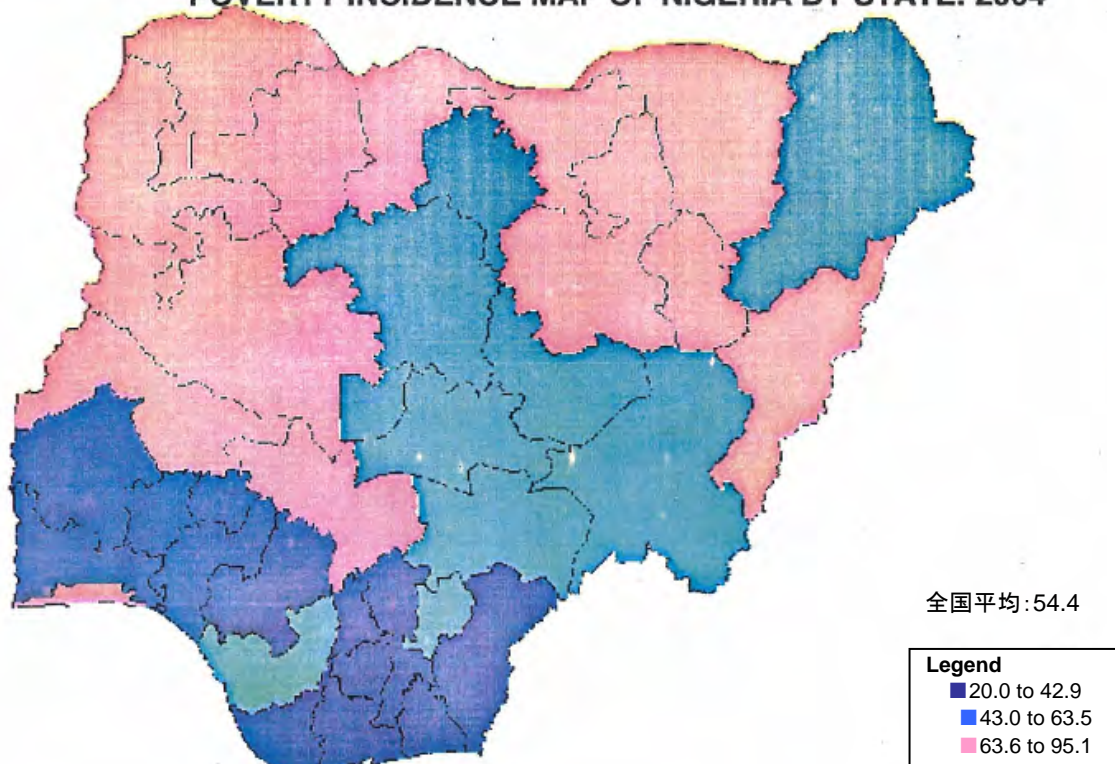
出所：NBS（2005）

<sup>35</sup> 一人当たり家計支出は、①各州より毎月10箇所抽出される調査対象地域（Enumeration Area: EA）、②各EAの世帯リストより抽出される5世帯（連邦首都地域FCTでは25世帯）、計21,900世帯をサンプルとして算出されている。EAによるバイアスを修正するために、州毎に重みづけ（ウェイト）が与えられている。

<sup>36</sup> 1980年、85年、92年、96年のサンプルサイズは、各々、10,292、9,103、8,955、14,381であった。なお、調査手法については1980—96年調査と2004年調査の間で整合が図られている。Poverty Profile for Nigeria 1980-1996.

図表 3.4 州別貧困率マップ (2004 年)

POVERTY INCIDENCE MAP OF NIGERIA BY STATE: 2004



出所: NBS (2005)

1.2.2 二段階相対貧困分析

相対的貧困指標は二段階の貧困レベルを設けており、重み付き一人当たり年間家計消費支出(食糧及び非食糧)の1/3をラインとする核心的貧困(core poor)を別に設けている。2004年の一人当たり年間家計消費支出から算出して、核心的貧困ラインは年間支出11,867ナイラ(200ドル)である。なお年間支出が11,867ナイラから23,733ナイラ(401ドル)の間にある家計は、中程度の貧困(moderately poor)と捉えられている。

図表 3.5 二つの相対貧困ラインを用いた貧困率の傾向  
(1980 - 2004)

年	核心的貧困	中程度の貧困
1980	6.2	21.0
1985	12.1	34.2
1992	13.9	28.9
1996	29.3	36.3
2004	22.0	32.4

出所: NBS (2005)

核心的貧困の推移については、1980年6.2%から1996年29.3%まで増加したものの2004

年には22%まで減少している。

図表 3.6 2つの相対貧困ラインを用いたゾーン別貧困率の傾向  
(1996-2004)

ゾーン	核心的貧困		中程度の貧困	
	1996	2004	1996	2004
南南部	23.4	17.0	34.8	18.1
南東部	18.2	7.8	35.3	19.0
南西部	27.5	18.9	33.4	24.2
北部中央	28.0	29.8	36.7	37.2
北東部	34.4	27.9	35.7	44.3
北西部	37.3	26.8	39.9	44.4

出所：NBS (2005) (元出所は National Consumer Survey (1996, 2004))

2つの貧困ラインを用いた核心的貧困、中程度の貧困について、各ゾーン別に見たものが上の表である。南部地域ではいずれのゾーンでも核心的貧困の大規模な減少、中程度の貧困についてもかなりの程度減少傾向が見られるのに対して、北部地域では、北東部及び北西部で核心的貧困の減少が見られるものの、北部中央では核心的貧困が増加、また、中程度の貧困については、軒並み増加している。

### 1.2.3 1日1ドル貧困ライン

NBS (2005) は、貧困ラインを物価調整を行った上での1日1ドルに設定した分析も行っている。物価の調整に関しては購買力平価 (Purchasing Power Parity: PPP) を用い、世界銀行が発表した2002年の指数を基本として、2003年度の為替変化とインフレ率を考慮したうえで1ドルを59.2ナイラとした。これによって、一年間で一人当たり21,608ナイラ以下で生活する人が本分析における貧困層とされる。

この分析によると貧困ライン以下で生活する国民の割合は51.6%であり、各セクター・ゾーンにおける数値は以下のとおりである。

図表 3.7 セクターおよびゾーン別の物価調整済貧困率 (2004)

	セクター			ゾーン						
	都市	農村	合計	南南部	南東部	南西部	北部中央	北東部	北西部	合計
貧困率	40.1	60.6	51.6	47.6	31.2	40.2	58.6	64.8	61.2	51.6

出所：NBS (2005)

上の表を見ると、1日1ドルの貧困ラインに基づいた貧困率は、地域によってかなり偏りがあることがわかる。セクター別の貧困率は都市40.1%、農村60.6%であり、都市において相対的に貧困率が低い結果となっている。一方、ゾーン別で見た貧困率が高いのは北東部であり64.8%、それに続くのが北西部で61.2%である。一方最も貧困率が低いのは南東部で31.2%、続いて南西部で40.2%となっている。

図表 3.8 州別の物価調整済貧困率（2004）

ゾーン	州	貧困率	ゾーン	州	貧困率
南西部	Ekiti	35.51	北部中央	Benue	42.84
	Lagos	64.05		FCT	46.98
	Osun	22.66		Kogi	87.46
	Ondo	41.47		Kwara	79.85
	Ogun	29.84		Nassarawa	48.17
	Oyo	19.28		Niger	56.01
南東部	Abia	28.01	北東部	Plateau	46.78
	Anambra	30.36		Adamawa	68.91
	Ebonyi	46.06		Bauchi	76.51
	Enugu	33.89		Borno	48.65
	Imo	26.46		Gombe	66.34
南南部	Akwa Ibom	46.04	北西部	Taraba	54.07
	Bayelsa	26.29		Yobe	74.12
	Cross River	51.64		Kaduna	37.72
	Delta	62.28		Katsina	60.42
	Edo	44.31		Kano	46.70
	Rivers	43.12		Kebbi	86.20
				Sokoto	70.54
		Jigawa	89.54		
		Zamfara	73.38		
		全体	51.55		

出所：NBS (2005)

州別に貧困ラインに基づいた数値を取ると、その偏りはさらに大きくなる。最もその値が高いのは Jigawa 州で 89.54%、それに続いて Kogi 州で 87.46% である。一方で最も貧困率が低いのは Oyo 州で 19.28%、それに続いて Osun 州で 22.66% である。総じて南部で低く、北部で高い傾向にあるが、南部地域の中でも、Lagos 州（64.05%）、Delta 州（62.28%）等、高い貧困率を示す州があることが注目される。

#### 1.2.4 貧困ギャップ比率（P1）

貧困ギャップ比率は、貧困ライン以下で生活する人々の平均支出の貧困ラインからの乖離を指標化したもので、貧困の深度を表すものである。

傾向として、都市よりは農村で、南部よりは北部で貧困は深化していることがわかる。農村の貧困ギャップ比率が 0.2582 である一方、都市のそれは 0.167 である。最も貧困ギャップ比率が高いゾーンは北部中央で 0.2832、最も低いのは南東部で 0.0996 である。

州別で見ると最も貧困ギャップ比率が高いのは Kogi 州で 0.5346、それに続くのが Jigawa 州で 0.4413 である。また、南部の中では、Lagos 州が 0.3473 と突出して高い値を示している。一方、最もこの比率が低い州は Oyo 州で 0.0585、それに続いて Osun 州で 0.0757 である。

図表 3.9 セクター・ゾーン別貧困ギャップ比率（2004）

	全体	セクター		ゾーン					
		都市	農村	南南部	南東部	南西部	北部中央	北東部	北西部
貧困ギャップ比率	0.2180	0.1670	0.2582	0.1696	0.0996	0.1821	0.2832	0.2743	0.2567

出所：NBS (2005)

図表 3.10 州別貧困ギャップ比率（2004）

ゾーン	州	P1	ゾーン	州	P1
南西部	Ekiti	0.1181	北部中央	Benue	0.1543
	Lagos	0.3473		FCT	0.1787
	Osun	0.0757		Kogi	0.5346
	Ondo	0.1539		Kwara	0.4236
	Ogun	0.1023		Nassarawa	0.1582
	Oyo	0.0585		Niger	0.2099
南東部	Abia	0.0904	北東部	Plateau	0.2003
	Anambra	0.0768		Adamawa	0.3149
	Ebonyi	0.1806		Bauchi	0.3220
	Enugu	0.1118		Borno	0.1889
	Imo	0.0871		Gombe	0.2936
南南部	Akwa Iborn	0.1584	北西部	Taraba	0.2112
	Bayelsa	0.0994		Yobe	0.3178
	Cross River	0.1969		Kaduna	0.1155
	Delta	0.2222		Katsina	0.2351
	Edo	0.1568		Kano	0.1530
	Rivers	0.1498		Kebbi	0.3968
				Sokoto	0.3333
		Jigawa	0.4413		
		Zamfara	0.3264		

出所：NBS (2005)

### 1.2.5 2乗貧困ギャップ比率（Poverty Severity: P2）

2乗貧困ギャップ比率は、貧困ラインからの乖離率を2乗したもので、乖離率が高い者ほど、より大きく数値に反映される。

当然ながら、2乗貧困ギャップ比率についても貧困ギャップ比率と同様に、都市よりは農村、南部よりも北部で高くなる傾向が見られる。農村の2乗貧困ギャップ比率は0.1406、都市のそれは0.0918となっている。最も貧困度が高いゾーンは北部中央で0.1685、最も低いのは南東部で0.0455である。

州別で見ると、最も数値が高いのはKogi州で0.3619、それに続くのがJigawa州で0.2643、また南部のLagos州も0.2200と高い値を示しており、最も低いのはOyo州で0.0244、それに続くのがAnambra州で0.0324となっている。



図表 3.11 セクター・ゾーン別 2 乗貧困ギャップ比率 (2004)

	全体	セクター		ゾーン					
		都市	農村	南南部	南東部	南西部	北部中央	北東部	北西部
P2	0.1191	0.0918	0.1406	0.0903	0.0455	0.1024	0.1685	0.1434	0.1374

出所：NBS (2005)

図表 3.12 州別 2 乗貧困ギャップ比率

ゾーン	州	P2	ゾーン	州	P2
南西部	Ekiti	0.0479	北部中央	Benue	0.0691
	Lagos	0.2200		FCT	0.0898
	Osun	0.0332		Kogi	0.3619
	Ondo	0.0694		Kwara	0.2778
	Ogun	0.0422		Nassarawa	0.0734
	Oyo	0.0244		Niger	0.1006
南東部	Abia	0.0424	北東部	Plateau	0.1082
	Anambra	0.0324		Adamawa	0.1768
	Ebonyi	0.0917		Bauchi	0.1676
	Enugu	0.0512		Borno	0.0891
	Imo	0.0373		Gombe	0.1568
南南部	Akwa Ibom	0.0843	北西部	Taraba	0.1022
	Bayelsa	0.0557		Yobe	0.1723
	Cross River	0.1039		Kaduna	0.0516
	Delta	0.1157		Katsina	0.1155
	Edo	0.0804		Kano	0.0778
	Rivers	0.0840		Kebbi	0.2135
				Sokoto	0.1839
		Jigawa	0.2643		
		Zamfara	0.1752		

出所：NBS (2005)

### 1.2.6 富裕五分位による分析

家計消費（もしくは一人当り消費）を 20%毎の人口階層によってランク付けし、各々の最低・平均（中位）・最高値を算出したものが以下の五分位分析である。これによると、最低所得の第 1 五分位層と最高所得の第 5 五分位層の間には、平均支出で 8.84 倍の開きがあり、また、第 1 五分位層の最低支出家計と第 5 五分位の最高支出家計を比較すると実に 2,600 倍近い格差がある。

図表 3.13 所属階層別支出（単位ナイラ）

所属階層	第1五分位	第2〃	第3〃	第4〃	第5〃
家計平均 (mean)支出	7,811	13,428	19,363	28,335	69,032
最低支出家計	850	10,510	16,000	22,713	34,736
最高支出家計	21,310	27,122	33,233	44,675	2,205,154

出所：NBS (2005)

### 1.2.7 社会経済的な特性による貧困状況

まず、特定地域や集団における貧困者数を国内全体の貧困者の数で除した数値、すなわち貧困寄与率を検討する。ここでは相対貧困による貧困ラインを用いて算出している。

図表 3.14 セクター・ゾーン別貧困寄与率

	セクター		ゾーン					
	都市	農村	南南部	南東部	南西部	北部中央	北東部	北西部
寄与率	35.0	65.0	9.7	5.9	15.5	17.7	17.7	33.6

出所：NBS (2005)

図表 3.15 家計規模別貧困寄与率

家計規模	1人	2人～4人	5人～9人	10人～19人	20人以上
寄与率	0.6	19.4	58.9	20.5	0.6

出所：NBS (2005)

図表 3.16 家計主の教育レベル別貧困寄与率

教育レベル	教育未経験	初等教育 前期	初等教育 後期	中等教育 前期	中等教育 後期	その他
寄与率	47.6	1.2	3.7	30.1	4.3	13.1

出所：NBS (2005)

セクター別で見ると農村部が、ゾーン別では北部、特に北西部が、国内の貧困に大きく影響していることがわかる。また家計規模別の指標を見ると、最も貧困寄与率が高いのは5人から9人の世帯である。10人以上、20人以上の家計の絶対数がそれほど多くないことを考えると、家計規模が大きくなるに従って貧困率は上昇する傾向があると考えられる。

教育レベルについては、教育未経験層が家計主である家計の貧困寄与率が47.6%で最大であり、それに続くのが中等教育、高等教育となっているが、初等教育（前期（elementary）及び後期（primary））の寄与率が極端に低いため、この数値には大いに疑問の余地がある。

次に、家計規模、教育レベル、家計主の職業別の貧困率を各々分析する。

次の表より、家計規模が大きくなるにしたがって相対貧困率が上昇していることがわかる。特に20人以上の家計を見ると、1980年時点でその80.9%が相対貧困の中で生活しており、2004年時点でも90.7%がその中にある。

図表 3.17 家計規模と相対貧困率（1980—2004）

家計規模	1980	1985	1992	1996	2004
1人	0.2	9.7	2.9	13.1	12.0
2人～4人	8.8	19.3	19.5	51.5	39.3
5人～9人	30.0	50.5	45.4	74.8	57.9
10人～20人	51.0	71.3	66.1	88.5	73.3
20人以上	80.9	74.9	93.3	93.6	90.7
全体	27.2	46.3	42.7	65.6	54.4

出所：NBS(2005)（元出所は National Consumer Survey 1980, 1985, 1992, 1996, 2004）

1980年から2004年までの経年変化を見ると、すべての家計規模で相対貧困率の上昇が見られる。2人から4人の家計における相対貧困率は1980年の8.8%から2004年には39.3%まで上昇している。

図表 3.18 家計主の教育レベルと相対貧困率（1980—2004）

家計主の教育レベル	1980	1985	1992	1996	2004
教育未経験	30.2	51.3	46.4	72.6	68.7
初等教育	21.3	40.6	43.3	54.4	48.7
中等教育	7.6	27.2	30.3	52.0	44.3
中等教育以後	24.3	24.2	25.8	49.2	26.3
全体	27.2	46.3	42.7	65.6	54.4

出所：NBS(2005)（元出所は National Consumer Survey 1980, 1985, 1992, 1996, 2004）

1980年時点では家計主の教育レベルと相対貧困率に明確な関係は見られなかったが、2004年時点では教育レベルが高くなるほどに相対貧困率が減少している。1980年に30.2%だった教育未経験家計主家計の相対貧困率は、2004年には68.7%まで上昇しているものの、中等教育以後まで進んだ家計主所帯では、相対貧困率は1980年の24.3%から2004年には26.3%と、微増にとどまっている。

図表 3.19 家計主の職業と相対貧困率（1980—2004）

職業	1980	1985	1992	1996	2004
専門職・技術職	17.3	35.6	35.7	51.8	34.2
公務員	45.0	25.3	22.3	33.5	45.3
事務員	10.0	29.1	34.4	60.1	39.2
小売業	15.0	36.6	33.5	56.7	44.2
サービス業	21.3	38.0	38.2	71.4	43.0
農業・林業	31.5	53.5	47.9	71.0	67.0
製作・運輸業	23.2	46.6	40.8	65.8	42.5
製造・加工業	12.4	31.7	33.2	49.4	44.2
その他	1.5	36.8	42.8	61.2	49.1
学生・実習生	15.6	40.5	41.8	52.4	41.6
全体	27.2	46.3	42.7	65.6	54.4

出所：NBS(2005)（元出所は National Consumer Survey 1980, 1985, 1992, 1996, 2004）

家計主の職業の中で、農林業は多くの貧困層を抱えている。2004年では農林業に就いているもののうち67%が相対貧困層に含まれている。経年変化を見ると、公務員が1980年比で微増にとどまっているのを除き、いずれの職業についても軒並み貧困率が上昇している。

### 1.3 不平等指数（ジニ係数/指数）と経年変化

ジニ係数の算出はローレンツ曲線を用いて行われる。NBS (2005)によると、所得分布における下位10%の層は国全体の所得合計の1.6%しか得ていないのに対して、上位10%は同40%を受け取っている<sup>37</sup>。

図表 3.20 セクターおよびゾーン別ジニ係数（2004）

	全体	セクター		ゾーン					
		都市	農村	南南部	南東部	南西部	北部中央	北東部	北西部
ジニ係数	0.4882	0.5441	0.5187	0.5072	0.4494	0.5538	0.3934	0.4590	0.3711

出所：NBS (2005)

2004年のナイジェリア全体のジニ係数は0.4882である。セクター別に見ると、都市では0.5441と、農村の0.5187に比べて高い値を示している。ゾーン別では南西部で0.5538と最も高く、南南部が0.5072でこれに続いている。

図表 3.21 ジニ係数経年変化（1985 - 2004）

年		1985	1992	1996	2004
全国		0.43	0.41	0.49	0.488
セクター	都市	0.49	0.38	0.52	0.544
	農村	0.36	0.42	0.47	0.519
ゾーン	南南部	0.48	0.39	0.46	0.507
	南東部	0.44	0.40	0.39	0.449
	南西部	0.43	0.40	0.47	0.554
	北部中央	0.41	0.39	0.50	0.393
	北東部	0.39	0.40	0.49	0.469
	北西部	0.41	0.43	0.47	0.371

出所：NBS (2008) *Human Development Indicators*

1985年と比較すると、国全体でのジニ係数は増加傾向にある。都市・農村別でも共にジニ係数は増加しているが、ゾーン別で見ると、南部各ゾーン及び北東部において増加しているのに対して、北部中央及び北西部ではジニ係数は低下している。

ジニ係数を各州別に見ると、最も高いのは南西部のLagos州で0.6429あり、北部中央のKogi州(0.5555)、Benue州(0.5450)、北東部のTaraba州(0.5118)がそれに続いている。

<sup>37</sup> National Bureau of Statistics (2005) *Poverty Profile for Nigeria* p26

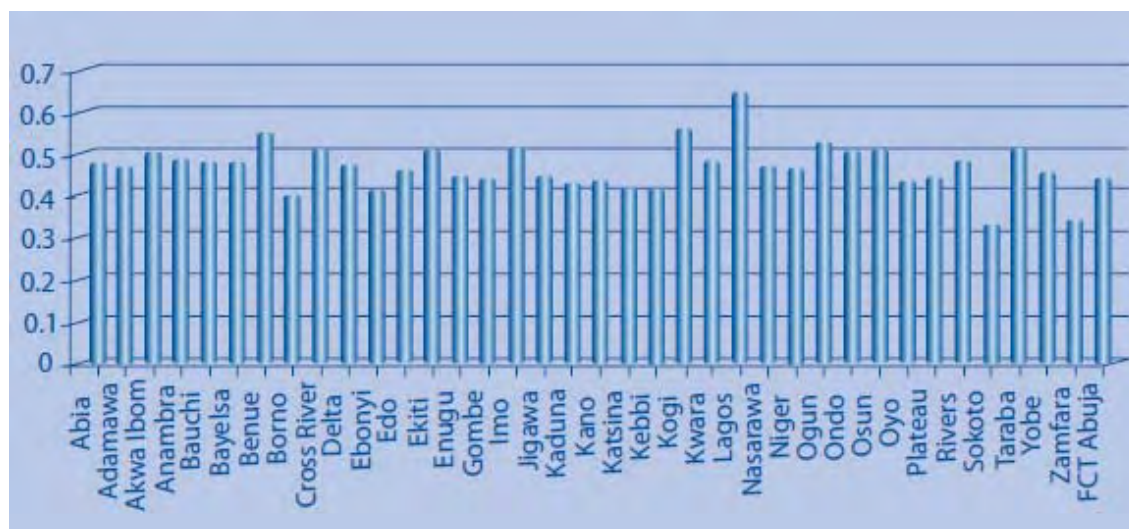
南西部では Lagos 州を含めて 6 州中 5 州でジニ係数が 0.5 を上回っている。他方、最も低いのは北西部の 2 州 Sokoto 州 (0.3253) 及び Zamfara 州 (0.3366) である。

図表 3.22 州別ジニ係数 (2004)

ゾーン	州	ジニ係数	ゾーン	州	ジニ係数
南西部	Ekiti	0.5074	北部中央	Benue	0.5450
	Lagos	0.6429		FCT	0.4368
	Osun	0.5031		Kogi	0.5555
	Ondo	0.5038		Kwara	0.4783
	Ogun	0.5251		Nassarawa	0.4665
	Oyo	0.4315		Niger	0.4619
南東部	Abia	0.4693	北東部	Plateau	0.4390
	Anambra	0.4819		Adamawa	0.4696
	Ebonyi	0.4092		Bauchi	0.4782
	Enugu	0.4435		Borno	0.3947
	Imo	0.5125		Gombe	0.4343
南南部	Akwa Iborn	0.5003	北西部	Taraba	0.5118
	Bayelsa	0.4757		Yobe	0.4503
	Cross River	0.5046		Kaduna	0.4226
	Delta	0.4650		Katsina	0.4110
	Edo	0.4585		Kano	0.4318
	Rivers	0.4792		Kebbi	0.4104
			Sokoto	0.3253	
			Jigawa	0.4397	
			Zamfara	0.3366	
			全体	0.4882	

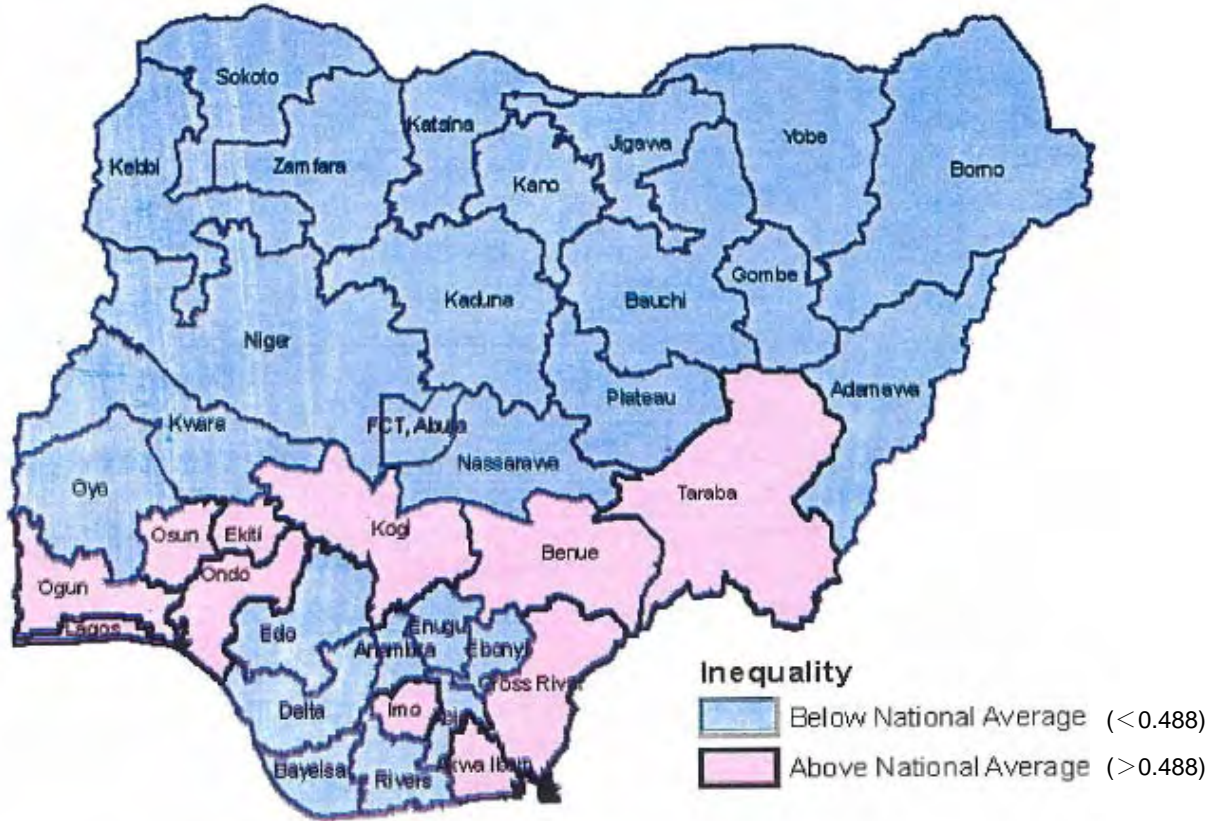
出所：NBS (2005)

図表 3.23 州別ジニ係数 (2004)



出所：UNDP (2009) *Human Development Report Nigeria 2008/2009* (元出所は NBS (2008) *Human Development Indicators*)

図表 3.24 州別ジニ係数マップ (2004)



出所：NBS (2005)

## 2. 所得貧困以外の方法による分析

### 2.1 主観的貧困指標

この分析は、自身が最低限の生活基準を満たしているかについて、各個人が自ら評価を行うものである。この方法が他の方法に比べてあまり一般的でないのは、しばしば評価する個人が自身の状況を過剰に捉えるためである。NBS (2005) における調査では、各家計主に対して自身の家計に対する評価を求めた。

図表 3.25 自己評価による貧困率 (2004)

	全体	セクター		ゾーン					
		都市	農村	南南部	南東部	南西部	北部中央	北東部	北西部
貧困率	75.5	70.7	79.2	74.8	77.6	71.5	80.0	81.8	71.9

出所：NBS (2005)

ナイジェリア全体における主観的貧困率は 75.5%である。同時に、なぜ貧困状態にあるのかということに関してもヒアリングを行い、28.5%の人が農業投入物のコストが高いこと、10%の人がビジネスを拡大するための資本が不足していること、7.5%が農業を拡大するための資本が不足していることをそれぞれあげている。

さらに、これらの貧困に対して各家計がどのような対策を行っているかという問いに対して、以下のような結果が示されている。

図表 3.26 貧困への対処 (2004)

貧困への対処	割合
食事の回数を減らす	25.27
出来高払いの農作業	26.54
果実のみの食事	10.83
友人からのインフォーマル借り入れ	10.71
家具を減らす	5.85
その他の出来高払い作業	5.17
food for work プログラムへの参加	4.60
友人に頼る	4.21
その他	3.60
野草や野生動物を食べる	3.16
支援物資依存	2.87
フォーマル借り入れ	2.84
宗教的支援	1.73
小規模行商	1.56
子供を退学させる	0.86
NGO の支援	0.41
物乞い	0.14
政府への要求	0.09
合計	100.00

出所：NBS (2005) \*重複回答であるため合計は 100 を上回っている。

## 2.2 当該国政府による指定貧困地域・集団

ナイジェリアにおいて、特に指定された貧困地域や集団はないが、国家特別食料安全保障プログラム (National Special Programme on Food Security) のもと、全国で 109 の地域がプログラム対象に選ばれている。

## 2.3 脆弱性分析

### 2.3.1 NEEDSによる脆弱集団の設定

NEEDS は特に以下のグループの脆弱性に留意し、社会的セーフティネットを提供すべきとしている。

図表 3.27 脆弱グループ保護のためのターゲット施策

グループ	施策
農村貧困層 (Rural Poor)	クレジット及び土地へのアクセス；決定参加；農業エクステンションサービス；種子の改善；農場への投入 (farm inputs)；伝統的な貯蓄機関、金融機関、及び保健スキームの強化
都市貧困層 (Urban Poor)	労働集約的公共工事スキーム；アフォーダブルな住宅、水及び衛生；スキル獲得と企業家精神開発；クレジットへのアクセス；奨学金と成人教育
女性	全プログラムにおけるアフーマティブアクション (女性参加率を最低 30%に向上)；教育 (成人教育を含む)；奨学金；クレジット及び土地へのアクセス；母親及び子供の健康
若者	教育、企業家開発、スキル獲得、クレジットへのアクセス、HIV/AIDS 及びその他の性感染症の予防・管理
子供	子供議会、少年司法の運用 (juvenile justice administration)、普遍的基礎教育、女兒教育、孤児及び脆弱児童 (HIV/AIDS 感染児童) のケア、小児病の予防・処置
農村コミュニティ	水、農村道路、電気、学校、健康施設、通信

出所：Nigerian National Planning Commission (2004), p.xvii

### 2.3.2 食糧安全保障

OECD(2009)は、農業の低生産性と特に農村部における人口の増加、それに加えて食料や原油の価格が上がっていることから、ナイジェリアにおける食糧安全保障は新たな危機に瀕していると述べている<sup>38</sup>。

Nigerian National Planning Commission (2004) において、ナイジェリアの食糧安全保障に関しては農地の砂漠化、土地使用の集中、多雨による低生産性農業、農業従事者の高齢化、食糧輸入額増大などの懸念があるとしている<sup>39</sup>。

特に農村においてこの食糧安全保障の問題は深刻である。2007年の降雨によってナイジェリアは栄養豊かな土壌が流出し、ソルガムの生産量は 20%、トウモロコシは 10%、米は 10%、ササゲは 10%、落花生は 10%、それぞれ減少した。これによって穀物価格が急騰し、2008年における北部中央の Minna 州のトウモロコシ価格は前年比で 165%上昇した。

CILSS/FAO/FEWSNET/SIMA/WFP Joint Market Assessment Mission to Benin, Niger and Nigeria (2008)によると、ナイジェリアは 450 万トン以上の穀物 (主として小麦と米) を輸入しているが、それは国内消費量のわずか 15% 不足である<sup>40</sup>。

政府は 109 の村を対象に実施する国家特別食料安全保障プログラム (National Special Programme on Food Security) などを通してナイジェリア国内の食糧安全保障の確保に努めている。

また、農作物ごとに専門のイニシアティブプログラムが作られ、それぞれが成果を挙げている。米イニシアティブでは 2006 年に耕作地が 220 万ヘクタールから 280 万ヘクタールに増加し、生産性増加のために高収穫米である NERICA 種の生産にも力を入れている。その結果、米の収穫高は 1996 年の 330 万トンから、2006 年には 420 万トンに増加している。

<sup>38</sup> OECD(2009) *African Economic Outlook* p60

<sup>39</sup> Nigerian National Planning Commission(2004)*Meeting Everyone's Needs(PRSP)*

<sup>40</sup> CILSS/FAO/FEWSNET/SIMA/WFP Joint Market Assessment Mission to Benin, Niger and Nigeria (2008) *Special Report; Markets, Prices, Food Situation and Propects for Benin, Niger and Nigeria*



ほかにもキャッサバやトウモロコシ、商業作物の生産にも同様のイニシアティブが取り入れられている<sup>41</sup>。

同時に気候変動への対策として、サヘル地域全体で早期警告システム開発地域組織 (Community-based structures to develop early warning systems: CEWS) と共同して、降雨量などの食糧安全保障に影響を与えるデータの収集に力を入れている。USAID の資金提供による飢饉早期警告システムネットワーク (the Famine Early Warning System network: FEWS NET) は、さまざまな階層のパートナーと協力しながら、食糧安全保障に影響を与える可能性のある正確な情報を提供している。

## 2.4 人間開発指数 (Human Development Index)

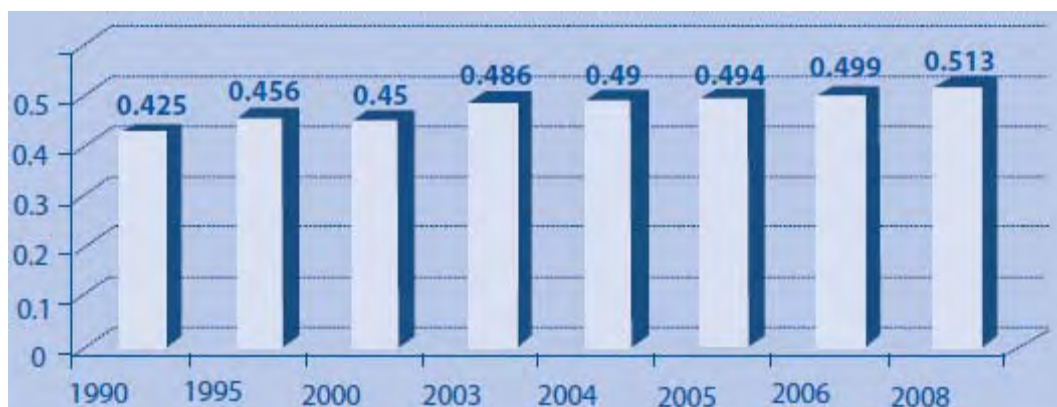
ナイジェリア全体の人間開発指数 (Human Development Index: HDI) は、1990 年の 0.425 から 2008 年の 0.513 まで徐々に上昇してきた。2008/09 年の数値をゾーン別で見ると、以下の通りであり、南南部で 0.573 と最も高く、北東部で 0.332 と最も低くなっている。

図表 3.28 ゾーン別人間開発指数

	南南部	南東部	南西部	北部中央	北東部	北西部
人間開発指数	0.573	0.471	0.523	0.490	0.332	0.420

出所：UNDP (2009), p10

図表 3.29 人間開発指数トレンド



出所：UNDP (2009) p.42 (元出所は NBS (2008) *Human Development Indicators*)

このように徐々に向上しているナイジェリアのHDIではあるが、UNDPによれば、これまでのGDP成長率とHDIの相関関係を前提とすると、貧困削減をより速いペースで進めるためには、現在より少なくとも4パーセンテージポイント以上成長率を高める必要がある<sup>42</sup>。

<sup>41</sup> Action Aid nigeria(2009)*Hunger Amidst Plenty: Studies on aspects of the Food Crisis in Nigeria*

<sup>42</sup> UNDP (2009) p. 42.

### 3. 貧困に影響を与えている要因

#### 3.1 国内要因（財政、ガバナンス、産業構造/雇用、資源、エスニシティなど）

##### 3.1.1 財政

まず指摘されるのは、政府収入の乱高下である。2006年時点で石油収入が政府収入全体のうちの70%以上を占めている。石油価格が国際市場で上下するとそれにあわせて政府収入が大きく変動してしまうことになり、安定した財政政策を行うことが難しくなる<sup>43</sup>。法人税収入は経常収入の5%に満たず、1990年代は平均してGDP比6.3%程度の恒常的な財政赤字であった<sup>44</sup>。

予算承認の遅延、実行過程の弱さなども目立っており、多くのプロジェクトでは予算総額を超える支出が行われている。予算の計画段階で中・長期的計画が十分に精査されないまま実行に移る計画が多く、予算を与えられながらも未だ実行されていない、あるいはすでに放棄された計画が数百件あることが確認されている<sup>45</sup>。それらすべてを実行するためには1000億ドル以上の予算が新たに必要となるなど、政府の資源配分の有効性には疑問が呈せられている<sup>46</sup>。

政府は原油価格の乱高下による政府収入の不安定を緩和するために、原油価格ベース財政ルール（oil price-based fiscal rule）の採用を中心とする財政改革を実施し、また財政支出については中期財政支出フレームワーク（Medium-Term Expenditure Framework: MTEF）による方向付けを行っている。その成果もあって、連邦政府の財政赤字は1999年のGDP比7.7%から2008年には1.1%まで減少している。また、対外債務についても、パリクラブ、ロンドンクラブ<sup>47</sup>のナイジェリアに対する債務放棄により、2000年にGDP比64%であったものが、2009年に11.7%まで圧縮されている<sup>48</sup>。

##### 3.1.2 ガバナンス

汚職を含む脆弱なガバナンスは、ナイジェリアにおける貧困に重要な影響を与えている。ガバナンスの問題こそが、過去の貧困削減プログラムが殆ど効果をもたらさなかった主要な理由であると考えられている<sup>49</sup>。

<sup>43</sup> Nigerian National Planning Commission (2004) p17-18

<sup>44</sup> *Nigeria Vision 20:2020 Volume I (draft)* p.28.

<sup>45</sup> ナイジェリア現地（アブジャ）でのヒアリングによれば、連邦政府の予算執行率は50%に過ぎないと指摘されている。

<sup>46</sup> Nigerian National Planning Commission (2004) p17-18

<sup>47</sup> パリクラブは二国間公的債務の返済負担軽減措置について協議する非公式な会合、ロンドンクラブは民間債権者機関による同様の会合である。

<sup>48</sup> *Nigeria Vision 20:2020 Volume I (draft)* p.29.

<sup>49</sup> *Nigeria Vision 20:2020*, p.32.

図表 3.30 ナイジェリアにおける自由度及び汚職インデックス

Table 6 - Freedom in Africa in 2008, countries sub-scores <sup>50</sup>				
Country	Political Rights	Civil Liberties	Status	2007
Nigeria	4	4	Partly Free	=

Table 8 - Corruption Perception Indexes (CPI) for African Countries, 2007 and 2008				
Country	Global Rank 2008	CPI 2008	Global Rank 2007	CPI 2007
Nigeria	121	2.7	147	2.2

註 1: Political rights と civil liberties のスコアは、1 が最も自由度が高く、7 が最も低い。

註 2: Corruption Perception Index (CPI) のスコアは、10 が最も高く（クリーン）、0 が最も低い（汚職が著しい）

出所：OECD (2009) *African Economic Outlook* p69

とりわけ汚職は国の成長可能性を制約し、何より貧困撲滅と格差是正に対する取組みを阻んできた。ナイジェリアにおける富裕層の多くは、その富を国家権力から得ていると考えられている。すなわち、政治的賄賂や政府との契約、あるいは輸入ライセンス等のコンセッション（利権）の獲得といった、生産活動とは直接関わりのない方法によって富を得ているのである。この結果、富の蓄積が生産的な企業の形成から分離されてゆくことになる。この問題の根源には、ナイジェリアが石油及びガスという単一の輸出・収入源に依存しているということがあり、膨大な経済的利得が一部の政治エリートによって独占される状況を生み出している。のみならず、汚職による利益を最大化しようとする経済的なサボタージュは、地方の石油精製産業を崩壊させ、発電及び配電システムを破壊し、鉄道を劣化させている。汚職はさらに、犯罪、失業、宗教・部族間紛争、ナイジャー・デルタの騒擾、警察の蛮行、及びその他諸々の社会不正義や機能不全の主要素となっている<sup>50</sup>。

### 3.1.3 インフラ

ナイジェリア国内の物的インフラ整備は全体として進んでおらず、都市部と農村部での差も大きい。ここでは飲料水環境、衛生環境、電力供給、交通インフラを取り上げる。

#### ① 飲料水環境

次の表によると、処理済の水に対して直接のアクセスを持っている家計の割合は 56%に留まったり、40%弱の家計が未処理の水源に頼った生活を送っている。同時に都市部と農村部で水インフラの整備率がかなり異なることが示唆されている<sup>51</sup>。

<sup>50</sup> UNDP (2009), p. 105-108.

<sup>51</sup> National Population Commission (2009) p20-21

図表 3.31 飲料水整備環境

背景特性		家計ベース			人口ベース		
		都市	農村	合計	都市	農村	合計
処理済	ボトル詰	6.0	0.4	2.4	4.4	0.3	1.6
	その他 <sup>注1</sup>	75.1	45.3	55.9	75.4	43.6	54.2
未処理	ボトル詰	0.9	0.2	0.5	0.7	0.1	0.3
	その他 <sup>注2</sup>	14.6	53.4	39.6	16.9	55.5	42.6
その他		3.3	0.7	1.7	2.7	0.5	1.2
合計		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

注1：処理済・その他=Piped water into dwelling/yard/plot, Public tap/standpipe, Tube well or borehole, Protected dug well, Protected spring, Rainwater

注2：未処理・その他=Unprotected dug well, Unprotected spring, Tanker truck/cart with small tank, Surface water  
出所：National Population Commission (2009) *Nigeria Demographic and Health Survey 2008*

水道整備事業も各地で進められ、2007年時点でGombe水道プロジェクトは完了し、AbujaのGurara水道プロジェクト、Ero水道プロジェクト、EkitiのBuyuk水道プロジェクトは進行中である<sup>52</sup>。

図表 3.32 処理済水道水供給率

ゾーン	州	2005	2006	2007	2008	ゾーン	州	2005	2006	2007	2008
南西部	Ekiti	26.1	11.1	14.4	26.9	北部中央	Benue	6.8	1.7	2.2	0.0
	Lagos	48.7	46.4	12.8	8.4		FCT	33.1	25.6	14.4	10.6
	Osun	33.1	21.5	11.9	20.4		Kogi	8.8	9.6	10.0	6.9
	Ondo	6.4	6.5	0.5	0.5		Kwara	22.1	14.9	8.2	7.3
	Ogun	27.2	10.7	9.4	10.2		Nassarawa	7.5	9.8	14.3	14.6
	Oyo	13.2	11.6	11.4	9.4		Niger	16.4	13.3	16.1	13.2
南東部	Abia	1.5	0.6	0.0	1.3	北東部	Plateau	9.1	9.5	4.0	5.9
	Anambra	0.8	7.9	3.1	0.0		Adamawa	0.9	1.7	6.4	2.0
	Ebonyi	5.8	3.9	6.1	4.2		Bauchi	10.1	3.3	0.5	3.9
	Enugu	18.3	9.2	14.9	12.4		Borno	6.3	1.0	4.8	4.0
	Imo	9.7	1.6	4.9	1.3		Gombe	3.7	9.6	5.8	6.0
南南部	Akwa Iborn	3.3	3.0	3.8	2.8	北西部	Taraba	1.8	0.4	1.2	0.8
	Bayelsa	4.8	7.5	7.7	2.0		Yobe	19.1	3.4	2.0	1.8
	Cross River	11.3	11.9	7.9	8.8		Kaduna	33.1	14.4	15.0	13.9
	Delta	3.1	6.1	5.4	3.3		Katsina	17.1	5.0	5.4	7.7
	Edo	1.1	2.0	4.1	4.1		Kano	16.0	2.5	9.6	12.3
	Rivers	7.1	7.0	3.1	10.7		Kebbi	8.8	3.0	5.4	5.2
						Sokoto	13.1	16.0	23.6	12.5	
						Jigawa	6.5	2.4	14.9	16.2	
						Zamfara	16.6	8.9	3.6	6.9	
						全体	12.7	-	8.1	7.7	

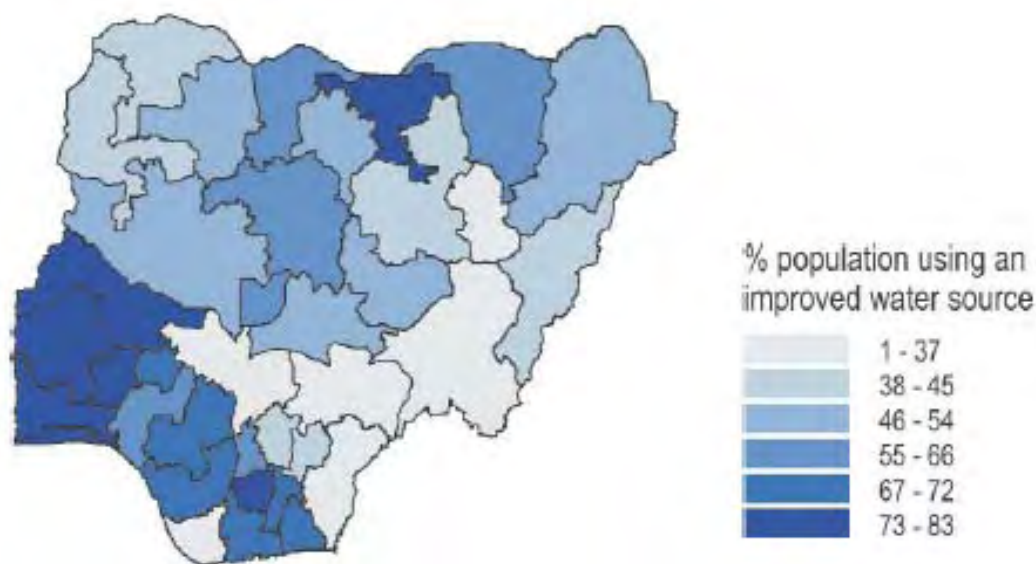
出所：National Population Commission (2009)

<sup>52</sup> IMF(2007) 'Progress Report on the National Economic Empowerment and Development Strategy (NEEDS), Seeds Benchmarking Exercise (2006) and Millenium Development Goals(MDGs 2006) p14

上の表は各地域の水道による処理済飲料水の供給率を 2005 年から 2008 年の期間でとったものである。供給率全体は 2005 年の 12.7% から 2008 年の 7.7% へと低下しており、水インフラの未整備を示す形となっている。2008 年時点で最も供給率が高い地域は Ekiti 州であり 26.9%、Anambra 州や Benue 州では供給がほとんど行われていない。

なお、MDGs の「ターゲット 7.C 安全な水 (improved water) を利用できる人口比率」は、2009 年で 58.9% であり、最低であった 2007 年の 49.1% からは向上しているものの、最高であった 2003 年の 66.25% からは大きく後退しており、2015 年の目標値 77% には遠く及ばない。2009 年の州別状況は下図のとおりである。

図表 3.33 「安全な水」の州別利用率 (2009 年)



出所：MDGs Nigeria (2010) (元出所は *Harmonized Nigeria Living Standard Survey (HNLSS)*, 2009)

## ②電力供給

電力供給は NEEDS で定められた主要の目標の一つであるが、2006 年までの数値を見るとその達成は難しい。2004 年に 4,200 メガワットであった最大発電量は、2006 年には 3,500 メガワットに減少している。最大変電量に関しても 5,838MVA から 9,430MVA に増加したものの目標達成には至っていない。

しかし 2005 年に国家電力供給機関 (National Electric Power Authority: NEPA) による独占供給が崩れ、これを 18 の会社に分割した上でナイジェリア電力規制委員会を組織したことは大きく評価できる点である。これによって変電・送電のロスが 2005 年から 2006 年にかけてそれぞれ 15% から 10% へ、35% から 26% へと改善された。現在でも需要と供給の不均衡、変電・送電における非効率性、発電セクターにおける民営化の遅れなどが NEEDS の目標達成に向けた主要な課題となっている。

図表 3.34 電力供給環境

ゾーン	州	PHCNのみ		電力供給なし		ゾーン	州	PHCNのみ		電力供給なし	
		2007	2008	2007	2008			2007	2008	2007	2008
南西部	Ekiti	56.7	61	41.3	32.1	北部中央	Benue	15.7	22.8	78.6	72
	Lagos	67.3	57	0.2	0.3		FCT	36.6	38.3	31.3	26.9
	Osun	67.6	63.6	29.9	33.9		Kogi	52.1	39.5	43	48.1
	Ondo	58	50.3	29	41.9		Kwara	54.9	56.4	38.3	38.5
	Ogun	71.3	69.8	27.1	20.4		Nassarawa	27.7	21.3	63.6	70.6
	Oyo	57.3	47.5	29.8	38.8		Niger	42.5	35.6	55.9	56.6
南東部	Abia	44.5	45.7	33.8	31.1		Plateau	23.8	18.8	65.6	71.3
	Anambra	58	61.9	30.9	24.8		Adamawa	22.3	22.6	71.4	69.8
	Ebonyi	14.7	12.3	73.5	68.1	Bauchi	38.7	31.4	58.5	60.2	
	Enugu	45.6	44.9	44.8	45.8	Borno	19.4	15.2	64.5	77.3	
	Imo	68.5	69.5	20.8	12.6	Gombe	50.7	39.5	49.3	55.4	
南南部	Akwa Ibom	46.3	40.6	38.3	44.6	Taraba	3.7	2.8	91	88.8	
	Bayelsa	10.3	21.6	22.2	36.9	Yobe	16.2	18.1	82.9	78	
	Cross River	54.1	40.6	37.1	46.3	北西部	Kaduna	53.5	46.2	41.8	42.4
	Delta	62.7	56.8	30.2	29.6		Katsina	31	36.2	62	59.7
	Edo	80.7	77.7	16.9	15.2		Kano	59.6	42.6	39.6	56.2
	Rivers	24.6	41	36.6	21.7		Kebbi	44.2	42.7	52.6	54.4
					Sokoto		35.7	29.8	60.3	69.5	
					Jigawa		39.4	41.6	60	56.5	
					Zamfara		24.7	21.5	72.7	77.1	
					全体		47.3	40.4	41.4	48	

注：PHCN:Power Holding Company in Nigeria

出所：National Population Commission (2009)

上の表によると、ナイジェリア発電持ち株会社（Power Holding Company in Nigeria: PHCN）の供給に依存する人が2007年時点で47.3%、2008年で40.4%に上る。上述の様々な改革にもかかわらず、十分な電力の供給を受けていない人の割合は、2007年から2008年にかけて41.4%から48%へと増加している。

### ③交通インフラ

ナイジェリアの交通インフラは、政府による大規模な投資にも関わらず、殆ど改善を見ていない。鉄道システムはいくつかの機関車と貨物車両が使用されているにすぎず、内陸水路は大部分が通行不可能、港湾インフラは適切性を欠き、道路ネットワークや空港の管理状況は貧弱かつ不適切、そして輸送システム間の相互連結は乏しい状況である<sup>53</sup>。

こうした交通インフラに関しては、NEEDSの中で道路、海港、鉄道について具体的な目標が設定されている。道路網に関しては総計3,000kmの道路網の建設を完了することがま

<sup>53</sup> Nigeria Vision 20: 2020, p.30.

ず求められ、財政支援が利用可能となれば新規建設計画を開始することを目指している。道路の保守管理は新規設立された連邦道路保守管理局（Federal Road Maintenance Agency: FERNA）が担当しておりその組織の強化が図られるとともに、道路の管理に関しても民間セクターの参入が期待されている。

南部を海岸線に接するナイジェリアは、その海港を西アフリカ諸国経済共同体（Economic Community of West Africa States: ECOWAS）における重要な拠点とすることを目指している。大規模な船舶輸送に対応可能な施設の整備が急がれ、同時に内陸部に進入可能な港を建設することも考えられている。

また重量や容積の大きい物品の輸送や国内での移動のためには鉄道網整備も重要となる。NEEDSに定められた目標の一つである「安価な移動手段の提供」に合致している鉄道事業であるが、2006年にはLagos-Kano間の鉄道が開通した。中期的目標としてはナイジェリア鉄道（Nigerian Railways）が担当している鉄道輸送分野を徐々に民営化し、同時にそれまでのインフラの再構築や強化に関しては引き続きナイジェリア鉄道公社（Nigerian Railway Corporation: NRC）が担当していくことが求められる<sup>54</sup>。

### 3.1.4 産業構造

図表 3.35 セクター別 GDP 比・成長率・GDP 成長寄与率（1999-2009）

	GDP 比 (%)	成長率 (%)	GDP 成長寄与率(%)
大規模セクター			
穀物	36.9	7.70	40.88
石油・ガス	23.2	2.23	-4.49
卸売・小売	14.2	15.96	28.78
中規模セクター			
金融	3.93	2.16	1.79
製造業	3.88	9.05	5.20
電力	3.28	24.46	3.91
畜産	2.67	6.19	2.62
道路輸送	2.26	13.90	3.35
建設	1.66	8.70	2.38
通信	1.62	50.90	6.62
不動産	1.47	9.67	2.20
漁業	1.38	5.51	1.92

出所：Nigeria Vision 20: 2020 (2009), p.41

1999年から2009年の間、ナイジェリア経済を主に担ってきたのは農業（穀物）、石油・ガス、卸売・小売の3部門である。このうち、石油・ガスは他の2部門、あるいはその他ほとんどの業種と比べて成長率が低く、この結果、この期間中の経済成長にはマイナスの

<sup>54</sup> IMF(2007) 'Progress Report on the National Economic Empowerment and Development Strategy (NEEDS), Seeds Benchmarking Exercise (2006) and Millenium Development Goals(MDGs 2006) p13-14

寄与を与える結果となっている<sup>55</sup>。特に近年はナイジャー・デルタ地域における若年層の混乱のために、国際市場での原油高騰をうまく利用できないことが、その大きな原因となっている。石油・ガス部門がGDPに占める割合自体も、1999年の33.4%から2009年には17.3%まで減少している<sup>56</sup>。

他方、GDPに占めるシェアは小さいながらも、製造業や通信業がGDP成長に寄与してきた割合は比較的大きい。特に、製造業については、西アフリカ諸国経済共同体やその他の国際市場への輸出が好調なプラスチック産業が牽引役となっている。なかでも国内外の市場で年間8,000万ドルの売り上げをもつと推定されるエリーム石油化学産業は、生産性の改善を伴ってその産業内での主要なプレーヤーとなり続けていくものと見られている<sup>57</sup>。

UNDPが行ったモデル分析によれば、ナイジェリアにおいては経済成長と貧困率の間には負の相関関係があるが、貧困率と貧困重度 (poverty severity) およびジニ計数の間には負の相関関係がある。すなわち、ナイジェリアにおいて経済成長は国全体としての貧困率の低下をもたらすが、貧困の程度や経済格差を悪化させる傾向にある<sup>58</sup>。

この理由として考えられることは、①経済成長が雇用増大に結びついていない、②経済成長及び雇用増大効果が貧困層に及んでいない、ということである。これらはさらに、③要素生産性の改善不足、④付加価値の不足、⑤セクター間のリンケージ不足、⑥先端技術による成長である場合、⑦経済改革等によって経済成長の雇用効果が相殺される、⑧配分政策が汚職によって無効化される、等の要因によって説明づけられる<sup>59</sup>。

ナイジェリアにおける2000年から07年間の経済成長と雇用の関係を検討すると、農業や製造業等主要セクターの雇用成長率が同セクターの経済成長率を下回る年が多くなっていることが判る。全般的にも、雇用成長率は経済成長率を常に下回っている。このことから、上述のような経済成長が貧困（格差）の深刻化に繋がるという構造が存在していることが推測される。

なお、農業部門は、低生産性、天水農業、輸送インフラ不足、保存・加工施設の不足といった伝統的な農業パターンに依存しており競争力に乏しい<sup>60</sup>。製造業については、道路網の不整備や電力供給の不安定性などに代表されるインフラの不足、セキュリティ問題、契約履行強制力の弱さ、汚職、資金調達時の高コストなどがネックとなって、外国企業のナイジェリアへの投資を縮小させ、国内投資家の資産の海外持ち出しや技能の海外流出などの原因ともなっている<sup>61</sup>。

さらに、成長産業である農業と商業（卸売・小売）及び製造業の間の連携（アグロインダ

<sup>55</sup> *Nigeria Vision 20:2020 Economic Transformation Blueprint*, October 2009, p.41-42.

<sup>56</sup> *Nigeria Vision 20:2020 The 1<sup>st</sup> NV20:2020 Medium Term Implementation Plan (2010-2013) Volume I: The Vision and Development Priorities (Draft)*, May 2010, p.22-23.

<sup>57</sup> IMF(2007) *'Progress Report on the National Economic Empowerment and Development Strategy (NEEDS), Seeds Benchmarking Exercise (2006) and Millenium Development Goals(MDGs 2006)* p9

<sup>58</sup> UNDP (2009), p.79-82.

<sup>59</sup> 同上, p. 82-83.

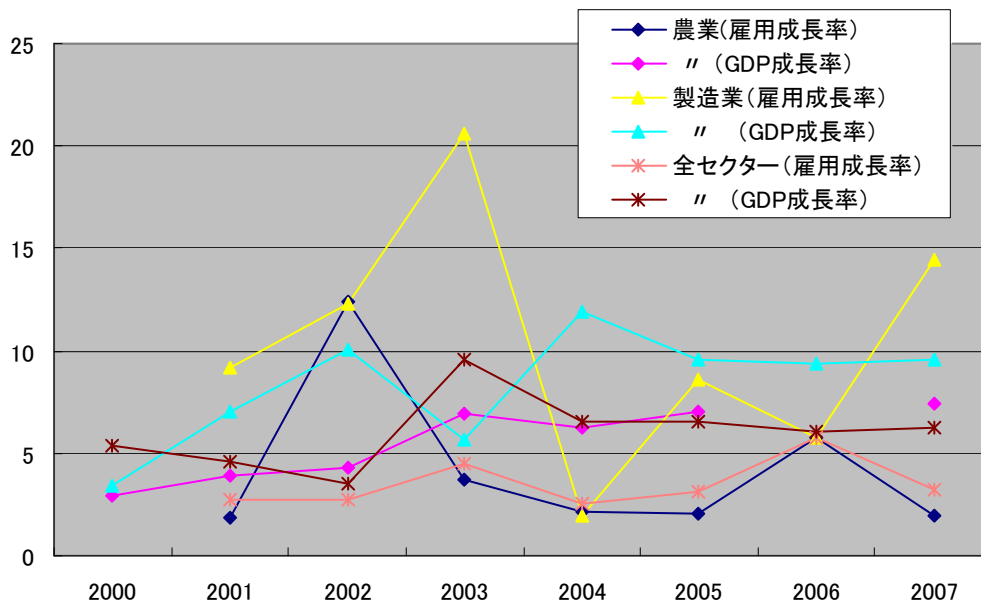
<sup>60</sup> *Nigeria Vision20:2020* (2010), p.23-24.

<sup>61</sup> Nigerian National Planing Commission (2004) *Meeting everyone's Needs* p9-10



ストーリー)、石油・ガスと製造業の連携(石油化学)、さらに製造業と商業の間の連携が欠如していることも貧困(格差)が解消されない要因となっていると考えられる<sup>62</sup>。

図表 3.36 雇用と経済成長(2000-2007、%)



出所: UNDP (2009) p.84 より作成。

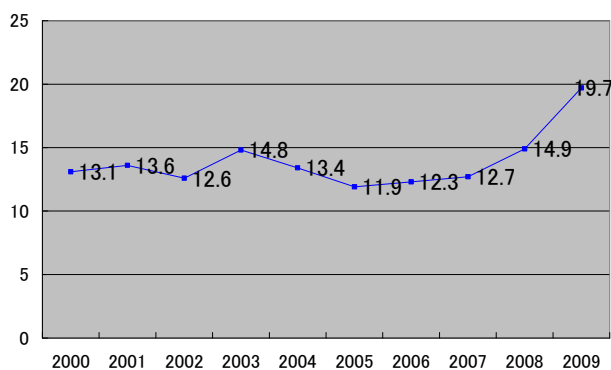
### 3.1.5 雇用

2005年に11.9%にまで低下したナイジェリアの失業率は、2009年には19.7%にまで上昇している。

失業率を教育、年齢、男女別、及び都市・農村別に見ると、まず、教育については農村の中等教育以上経験者が26.4%で最も高く、農村の中等教育経験者、及び初等以下教育経験者が各々25.3%、22.9%でそれに続いている。年齢別では都市の15-24歳が49.9%と最も高く、農村の同年齢グループが39.6%でこれに続く。

男女別では農村の女性及び都市の女性の失業率がいずれも男性を上回る。これらを総合すると、「農村の15-24歳の女性で初等以下の教育経験者<sup>63</sup>」が最も失業率の高い、すなわち貧困層を構成する可能性が高いカテゴリであることが推察

図表 3.37 失業率の推移(%)



出所: NBS, Labour Force Survey, March 2009

<sup>62</sup> Nigeria Vision20:2020 (2009), p.43. これらの産業間連携は、逆に今後のナイジェリアの貧困削減を伴った経済成長の鍵となり得る。

<sup>63</sup> 女性の中等以上教育経験者は極めて少ない。本稿\*頁を参照。

される。

図表 3.38 教育グループ、年齢、性別失業率（2009年3月・％）

項目	都市	農村	合計
全グループ	19.2	19.8	19.7
教育グループ			
教育経験なし	20.6	20.0	20.1
初等以下	18.4	22.9	22.3
初等	15.1	14.7	14.8
中等	21.4	25.3	23.8
中等以上	13.9	26.4	21.3
年齢グループ			
15-24	49.9	39.6	41.6
25-44	16.3	17.3	17.0
45-59	10.0	12.1	11.5
60-64	18.2	16.2	16.7
性別			
男	17.2	16.9	17.0
女	21.7	23.9	23.3

出所：NBS, *Labour Force Survey*, March 2009

失業率を州別にみると、最も高いのは南南部の Bayelsa 州で 38.4%であり、北西部の Katsina 州 (37.3%)、北東部の Bauchi 州 (37.2%)、南南部の Akwa Ibom 州 (34.1%) 等が続いている。他方、失業率が低いのは北部中央の Plateau 州 (7.1%)、南西部の Ogun 州 (8.5%)、北部中央の Benue 州 (8.5%) 等である。調査年度が異なるため単純に比較はできないが、既述の州別貧困緒指標のパターンとは一致していない。

図表 3.39 州別失業率（2009年3月）

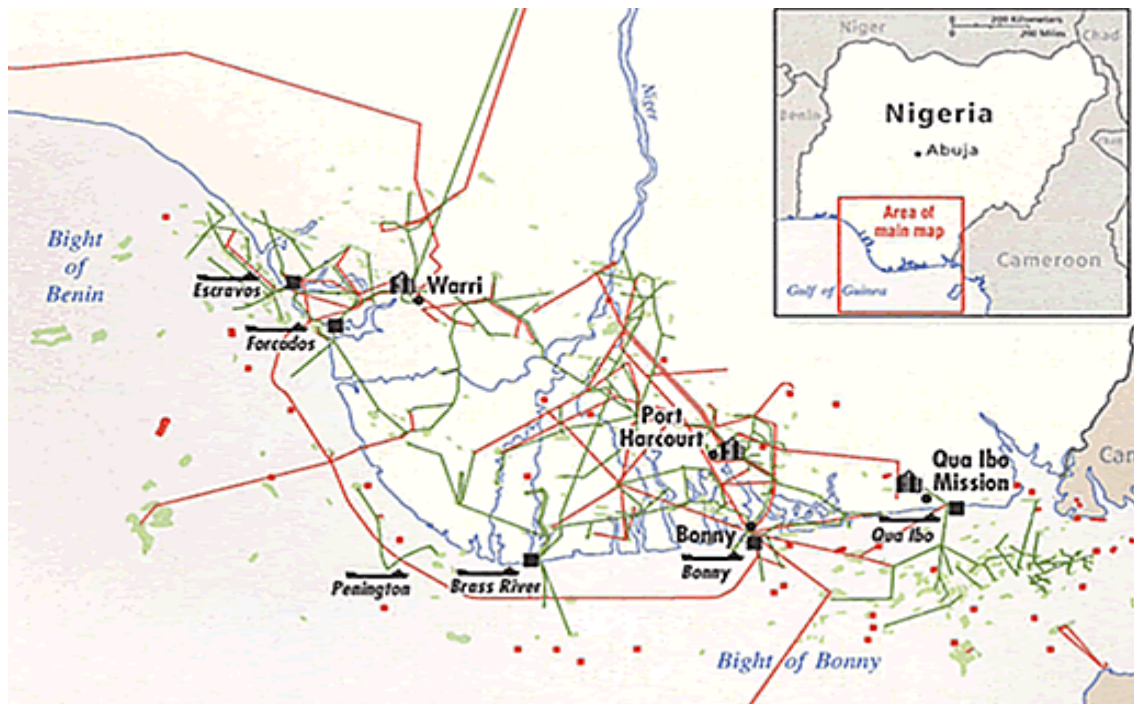
ゾーン	州	失業率	ゾーン	州	失業率
南西部	Ekiti	20.6	北部中央	Benue	8.5
	Lagos	19.5		FCT	21.5
	Osun	12.6		Kogi	19.0
	Ondo	14.9		Kwara	11.0
	Ogun	8.5		Nassarawa	10.1
	Oyo	14.9		Niger	11.9
南東部	Abia	14.5		Plateau	7.1
	Anambra	16.8		Adamawa	29.4
	Ebonyi	12.0	Bauchi	37.2	
	Enugu	14.9	Borno	27.7	
	Imo	20.8	Gombe	32.1	
南南部	Akwa Ibom	34.1	北西部	Taraba	26.8
	Bayelsa	38.4		Yobe	27.3
	Cross River	14.3		Kaduna	11.6
	Delta	18.4		Katsina	37.3
	Edo	12.2		Kano	27.6
	Rivers	27.9		Kebbi	12.0

	Sokoto	22.4
	Jigawa	26.5
	Zamfara	13.3
	全体	19.7

出所：NBS, *Labour Force Survey*, March 2009

### 3.1.6 資源

図表 3.40 ナイジャーデルタにおける石油関連インフラ



出所：U.S. Energy Information Administration (EIA) Nigeria  
<http://www.eia.doe.gov/cabs/Nigeria/Background.html>

ナイジェリアの資源埋蔵量は、原油に関しては世界第8位、天然ガスについては世界第7位であり、アフリカにおける最大の資源国である。その反面、経済や財政がこれらの資源輸出収入に依存しており、ナイジェリアの経済構造を脆弱なものにしている。原油や天然ガスを輸出することによって、ナイジェリア政府は政府収入の80%以上、外貨収入の90%以上を稼ぎ出している一方で、そこで雇用されているのは労働人口全体の1%程度であり、前方関連効果・後方関連効果がともに期待できないために更なる経済成長に及ぼす効果は薄いと考えられる<sup>64</sup>。

なお上図からもわかるとおり、油田やガス田があるのは南部の海岸沿いであるために、経済的に貧しい北部地域については雇用・産業両面で貢献度は低いと考えられる。

<sup>64</sup> UNDP (2009) *Human Development report Nigeria 2008-2009* p27

### 3.1.7 エスニシティ

国内の民族構成に関しては、Hausa族（22%）、Yoruba族（18%）、Igbo族（16%）の3つが主要民族である。方言も含めて500以上の言語が確認されているナイジェリアであるが、国会においては公用語である英語の他、この3つの民族が話すハウサ語、ヨルバ語、イゴ語の使用が認められている<sup>65</sup>。

250あるいは300を越えるとも言われる民族集団を擁する多民族国家であるナイジェリアにおいて、国内の少数民族をめぐる問題は焦点の一つであった<sup>66</sup>。落合（2005）によれば、それは「ナイジェリアの諸民族間における権力と資源の配分、およびそれと密接に関わる連邦制をめぐる問題」とされ、1966年から1999年までの軍事政権期（ただし1979年から1983年の第3共和政期を除く）に、この民族問題に大きな影響を及ぼす「制度エンジニアリング」が行われた。

概略すれば、それは石油収入の急増に伴う財源配分システムの大幅な中央集権化と、行政区分の細分化（地方行政区（LGA）の新設）とその諸コミュニティや民族への分与、及び、連邦政府の公職ポストの分配に地域的・民族的多様性を反映させること、であった。

この結果、Hausa、Yoruba及びIgboの主要民族間の対立や同一地域内における主要民族と少数民族の間の対立関係は緩和されたが、「コミュニティの紛争」と総称される様々な形態の抗争や暴力事件が多発するようになった。特に、少数民族が石油収入の配分や環境破壊をめぐる不満感や阻害感を募らせている南部のナイジャー・デルタ、ラゴスやカノといった多民族都市、少数民族や宗教コミュニティが混在する中部のミドル・ベルト等の地域において民族問題が先鋭化して噴出し、さらにその火種はその他の地域も広く偏在していると指摘されている<sup>67</sup>。

また、NEEDSにおいても、「民族対立に起因し、私的もしくは党派的な利害のために国家機構をコントロールしようとする政治的汚職がナイジェリアに広く浸透した社会紛争の根源にある」と指摘されている<sup>68</sup>。

## 3.2 地政学的要因（周辺地域・大国との政治、経済、社会、環境等の関係性等）

### 3.2.1 周辺地域

西側をベナン共和国、北側をニジェール共和国、東側をカメルーン共和国に囲まれ、南側には大西洋が広がっている。

周辺国との経済面での結びつきに関しては「3.3.6. 近隣地域や地域連合組織が当該国に及ぼす影響」を、周辺国間での労働移動に関しては「3.3.3. 労働移動」を参照されたい。

<sup>65</sup> National Population Commission (2009) *Nigeria Demographic and Health Survey 2008* p31

<sup>66</sup> 望月克哉「ナイジェリア石油産出地域における社会運動の展開とその背景（文献レビュー）」重富真一編『開発と社会運動—先行研究の検討—』調査研究報告書、アジア経済研究所 2007年。

<sup>67</sup> 落合雄彦「ナイジェリアにおける「民族問題」と制度エンジニアリング—軍事政権期を中心に—」アジア経済研究所『アジア経済』XLVI-11・12（2005年）。

<sup>68</sup> Nigerian National Planning Commission(2004) *Meeting everyone's Needs*, p.47.

### 3.2.2 大国との政治・経済・社会・環境などの関係性

「3.3.6 近隣地域や地域連合組織が当該国に及ぼす影響」を参照されたい。

## 3.3 グローバル化における要因

### 3.3.1 貿易自由化

ナイジェリアは現在、世界貿易機関（World Trade Organization: WTO）及びECOWASに加盟しており、特にECOWASでは域内での関税撤廃、自由貿易プログラムが検討されている<sup>69</sup>。この点については「3.3.6 近隣地域や地域連合組織が当該国に及ぼす影響」を参照されたい。

グローバルなレベルでの自由貿易化による影響としては、農産物、特に米の輸入増加によって米価が低下し、国内農家の競争力が低下していると言われている。また、安価な繊維製品の流入によって女性が多く従事する繊維産業が衰弱し、貧困が助長されているとも指摘されている<sup>70</sup>。

1990年代以降のナイジェリアの食料輸入額の推移を見ると、特に2000年代中盤以降顕著な増加を見せていることがわかる。

図表 3.41 食料輸入額と成長率

年	1990-1992	1995-1997	2000-2002	2005-2007
食料輸入額（100万ドル）	7,370	8,115	7,511	24,021
対前期成長率		1.9	-1.5	23.3

出所：FAO, Country Profile Food Security Indicator, Nigeria  
([http://www.fao.org/fileadmin/templates/ess/documents/food\\_security\\_statistics/country\\_profiles/eng/Nigeria\\_E.pdf](http://www.fao.org/fileadmin/templates/ess/documents/food_security_statistics/country_profiles/eng/Nigeria_E.pdf))

主な食料品の輸入量と輸入額の推移を見ると、食料輸入量・輸入額ともにナイジェリアでは生産されない小麦が大きな割合を占めており、それぞれの伸びを牽引する主たる農作物となっている。米については、2008年には他の食料同様大幅に輸入が落ち込んだものの、概ね100万トン/3億ドル前後（ただし2007年は4億ドル弱）のレベルで推移している。これは概ね300万トンから400万トンの生産規模で推移している国内生産米に対して十分なインパクトを与えうる規模であるが、データを見る限りでは、今までのところ上述の指摘のように国内生産にダメージを与えている様子は伺えない。しかし今後、国内の生産性が低下ないし停滞し、輸入が拡大すれば、「2.3.2 食糧安全保障」で示したような懸念が高まる可能性はある。

図表 3.42 製品別輸入量推移（2004－2008、100万トン）

輸入量	2004	2005	2006	2007	2008
小麦	2.61	3.71	3.24	7.80	1.13

<sup>69</sup> ECOWAS Revised Treaty, article35‘Liberization of Trade’, article36‘Custom Duties’  
(<http://www.worldtradelaw.net/fta/agreements/ecowasfta.pdf>)

<sup>70</sup> 現地（アブジャ）でのヒアリングによる。

砂糖	0.47	0.46	0.29	0.15	0.40
米	1.35	1.04	0.96	0.97	0.19
パーム油	0.27	0.30	0.31	0.38	0.46

出所：FAOSTAT, Nigeria (<http://faostat.fao.org/desktopdefault.aspx?pageid=342&lang=en&country=159>)

図表 3.43 製品輸入額推移（2004－2008、100万ドル）

輸入額	2004	2005	2006	2007	2008
小麦	476.0	654.3	653.4	2,179.0	671.2
砂糖	105.0	130.0	105.5	56.5	170.1
米	297.0	319.2	291.3	394.5	85.2
パーム油	279.0	343.6	351.5	444.0	538.5

出所：同上

図表 3.44 ナイジェリアにおける米生産の推移

	2000	2004	2005	2006	2007	2008
生産額(1,000ドル)	679,959	683,612	730,784	834,882	653,280	864,799
生産量(1,000MT)	3,298	3,334	3,567	4,042	3,186	4,179

出所：FAO FAOSTAT

### 3.3.2 FDI

ナイジェリアに対する外国直接投資の受け入れ先は、主に天然資源分野である。大規模な石油関連産業を持つ米国や英国は、伝統的にナイジェリアに対して大規模な投資を行ってきた。近年では中国がナイジェリアに対して積極的な投資を行っており、現在ナイジェリアは中国の対外直接投資先として、アフリカ内では南アフリカに続いて第二位の規模を持つ<sup>71</sup>。

ナイジェリア中央銀行（Central Bank of Nigeria：CBN）の国際収支統計によると、深刻な金融危機の影響を受けて、2009年のナイジェリアへの対内直接投資（ネット、フロー）は58億5073万ドルとなり、前年比で14.1%の減少となった。

資源分野に関してはロシアや中国などの新興国からの投資が増加しており、ロシアの政府系天然ガス企業であるガスプロムは、ナイジェリア石油公社との間で合弁会社を設立、中国の石油ガス大手・中国海洋石油総公司もナイジェリア国内の石油開発鉱区の権益取得を検討中である。非資源分野に関しても中国やインドなどアジア系の会社による投資が増加している<sup>72</sup>。

しかし、前述のように、これら天然資源分野への外国直接投資が国内産業や雇用に対する波及効果をほとんど持たないことが、ナイジェリアにおける貧困の一因となっている。

図表 3.45 対内直接投資額

	2007	2008	2009
対内直接投資額	60億8,673万ドル	68億1,440万ドル	58億5,073万ドル

<sup>71</sup> Corporate Guide International (2010) *Corporate Nigeria 2010/2011* p46-47

<sup>72</sup> 日本貿易振興機関「ジェトロ世界貿易投資報告 ナイジェリア 2010年版」

注：国際収支ベース、ネット、フロー  
出所：日本貿易振興機構（2010）（原資料はナイジェリア中央銀行）

### 3.3.3 労働力移動

ナイジェリアは西アフリカの中で重要な移民受入国であり、1991年に47万7,135人だった移民入国者は、2005年には97万1,450人にまで増加し、2010年には110万人を越えるだろうとまで言われてきた。その多くはベナン共和国やガーナ共和国など西アフリカ諸国経済共同体（Economic Community for West Africa states）からの移民で、これが全体の74%を占める。これだけ大量の移民を受け入れながらも移民が全体の人口の中で占める割合は0.7%程度である。

図表 3.46 ナイジェリアの人口及び移民に関するデータ

Table 12: Population and migration characteristics of Nigeria: 1990, 2000 and 2005

	1990	2000	2005	2010
Estimated total population at mid-year ('000)	97,338	124,842	140,879	158,259
Estimate of international migrants at mid-year ('000)	447	751	972	1,127
International migrants as % of total population	0.5	0.6	0.7	0.7
	1995–2000	2000–2005	2005–2010	
Net number of international migrants ('000)	-19	-34	-60	
Net migration rate (per 1,000 people)	-0.2	-0.3	-0.4	

Source: UNPD, 2008 and 2009.

出所：IMO（2009）

ナイジェリアは同時に知的労働移民を多く受け入れており、移民全体の2.73%が総支配人に、0.89%が会社社長に、0.43%が工学や数学の専門家である。ただしこのような職業で働く移民の多くは欧州出身であり、移民の知的労働グループ全体の47.37%を占める<sup>73</sup>。

しかし近年ではナイジェリアから他国への移民が多くなっており、2000年代に入ってから移民率は継続的に負の値を示している（2000年-0.2、2005年-0.3、2010年-0.4）。移民・グローバル化・貧困開発研究センター（Development Research Centre on Migration, Globalisation and Poverty: DRC）によると、2000年の時点で104万1,284人のナイジェリア出身者が海外で生活を行っており、その多くはスーダン（24%）や米国（14%）、英国（9%）などに居住している。

詳細なデータの取得は難しいものの、2000年に行われた調査によれば、ナイジェリアで高等教育を受けたナイジェリア人のうち10.7%が海外で勤務しているとのことである<sup>74</sup>。

後に「3.5.2 格差問題」で見るように、これら周辺諸国からの移民が、ナイジェリア北部や、首都圏（Abuja市）及び南部の大都市圏（Lagos州等）に流入し、当該地域の貧困や格差を悪化させている可能性は否定できないであろう。また、海外への頭脳流出が同国の貧困を助長している可能性もある。

<sup>73</sup> IOM (2009) Migration in Nigeria; a country profile 2009 p15

<sup>74</sup> 同上 p16

### 3.3.4 出稼ぎ／海外送金

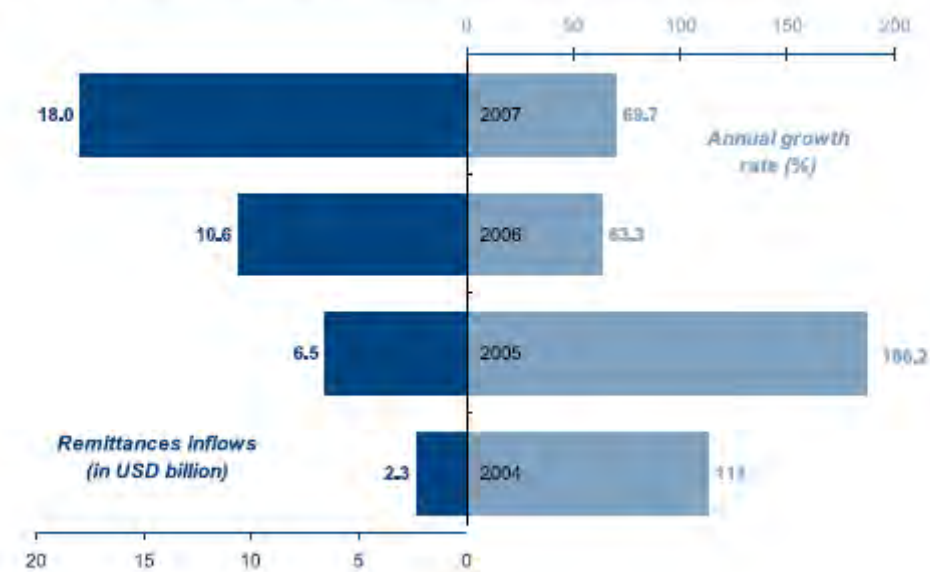
2004年以前にナイジェリアに流入する海外送金は20億ドル以下であったが、2004年には23億ドル、2005年には65億ドル、2006年には106億ドル、2007年には180億ドルに達した。2005年から2007年の成長率はそれぞれ186.2%、63.3%、69.7%となっている。ナイジェリア中央銀行による2008年の海外送金流入額推定値は192億ドルである。

対GDP比で見ても、2003年から2007年にかけてそれぞれ1.4%、2.6%、5.7%、7.4%、9.8%増加している。下図を見てもわかるように、海外送金の総額は2004年以降FDIを上回っており、対GDP比でも同様にFDIの値を上回っている。

ここまで海外からの資金流入が増加した要因は、国内での経済改革が進んだことや、株式市場や国際市場、住宅ローン市場などが醸成されてきたことにある。

図表 3.47 ナイジェリアへの海外送金（2004-07年）

Figure 7: Inflows of remittances from Nigerian emigrants, 2004–2007



Source: CBN, 2007a.  
出所：IMO（2009）

図表 3.48 資金フロー流入の対 GDP 比（1996–2007 年 %）



Table 14: Ratios of selected financial flows to GDP, 1996–2007 (%)

Year	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007
Personal home remittance	0.4	0.9	0.8	2.3	2.4	2.0	2.0	1.4	2.6	5.7	7.4	9.8
Foreign direct investment	1.0	1.0	1.0	2.0	2.0	2.0	2.8	2.6	2.1	4.4	9.8	6.8
Portfolio investment	0	0	0	0	1.0	1.0	0.3	0.2	0.2	2.6	1.6	2.7
Oil export	8.0	8.0	5.0	25.0	28.0	28.0	20.7	29.6	38.6	47.9	39.5	34.7
Non-oil export	0.2	0	0	0	0	0	1.2	0.9	1.0	0.7	0.7	0.7

Source: CBN, 2007b.

出所：IMO（2009）

下記図表では、計測方法の違いから、世界銀行によって提示されるデータは上記の数値よりも幾分低めの値が報告されている。しかし2000年から2008年にかけてその額が増加してきたという傾向に関しては双方とも同様の結果に至っている。さらに、ナイジェリア国内から海外に向けての送金も同時期に増加しており、2001年に60万ドルだった海外向け送金総額は、2008年には1.03億ドルにまで増加している。

図表 3.49 ナイジェリアから／への海外労働送金フロー（2000–09年 百万ドル）

Table 28: Worker remittance flows from and to Nigeria, 2000–2009 (in millions)

	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009
Inward remittance flows	1,392	1,167	1,209	1,063	2,273	3,329	5,435	9,221	9,980	9,585
% of GDP	–	–	–	–	–	3.4	2.8	6.7	4.7	–
Outward remittance flows	1	1	1	12	21	18	18	103	103	–

Source: World Bank, 2009.

Note: This table reports officially recorded remittances; the true size of remittances, including unrecorded flows through formal and informal channels, is believed to be larger.

出所：IMO（2009）

一般に、開発途上国において海外送金が果たす役割については、例えばフィリピンの場合のように、これを安定的な経常収入の一部として肯定的に捉える見方がある一方で<sup>75</sup>、いくつかの研究成果においては、途上国における海外労働者送金額と一人当たりGDPの間には負の相関関係が見出される、あるいは海外労働者送金は途上国の経済成長に重要なインパクトを与えていないとの指摘がなされている<sup>76</sup>。これらの研究は、海外労働送金が受け

<sup>75</sup> JICA (2008) 『「アフリカ開発とアジアの経済成長」検討会報告書』は、フィリピンにおける「戦略的な海外労働者派遣」を、新たな比較優位を創造する開発戦略の事例として位置づけている。

<sup>76</sup> 例えば、Juthathip Jongwanich (2007), "Worker's Remittances, Economic Growth and Poverty in Developing Asia and the Pacific Countries" (UNESCAP Working Paper WP/07/01); Ralph Chami, Adolfo Barajas, Thomas Cosimano, Connel Fullenkamp, Michael Gapen and Peter Montiel (2008), "Macroeconomic Consequences of Remittances" (IMF Occasional Paper 259)。

手の家計の収入増加を通じて貧困改善に直接的な影響を与え、また当該家計による消費を通じて新たな雇用と需要が創出される（乗数効果）、あるいは送金によって政府の信用力と債務持続性が向上する等のメリットを認めつつ、他方で、海外労働者送金が本国での直接的な雇用増加や投資にむしろネガティブな影響を与えること、貧困格差を拡大する傾向があること、実質為替レートの上昇を引き起こすこと（“Dutch disease effect”）、政府の財政規律を失わせがちであること等を指摘し、海外労働者送金を、輸出や外国直接投資等のオーソドックスな長期的経済成長のエンジンと同様に見なすべきでないとしている。

### 3.3.6 近隣地域や地域連合組織が当該国に及ぼす影響

ナイジェリアは現在、経済に関連する国際的組織について、アフリカ開発銀行（African Development Bank: AfDB）、石油輸出国機構（Organization of Petroleum Exporting Countries: OPEC）、ECOWAS、WTO、世界知的所有権機構（World Intellectual Property Organization: WIPO）の5組織に加盟している<sup>77</sup>。

この中でECOWASにおいては、1981年より域内関税自由化に向けた試みが始められてきた。1999年以降、関税自由化の対象が工業製品にまで拡大され、2009年末までの域内関税完全撤廃が計画されている<sup>78</sup>。また、域内統一通貨統合について、2020年までに全加盟国がECOを導入することを目指して、各国が段階的に導入していくことが計画されている。同時に自由貿易プログラムの推進や共同体裁判所の設立、共同体課税などが検討されている<sup>79</sup>。

一方で、ナイジェリアは2007年にEUとの間で経済連携協定（Economic Partnership Agreement: EPA）を締結することを、関税率に関する不満から拒否している<sup>80</sup>。

ナイジェリアの主要貿易相手国は輸出入ともEUであり、2009年の輸出入額の各々25.5%と32.8%を占める。これに対してECOWAS諸国では、象牙海岸が輸出入の各々第6位及び第8位に、またガーナが輸出の第7位に顔を出しているものの、いずれも2%程度を占めるにすぎない。また、西アフリカ地域では食糧市場の統合が進んできており、ナイジェリアやベナンがニジェールに対して食料を輸出するという構図が見られる等<sup>81</sup>、ナイジェリアにとってECOWASにおける域内易自由化は、僅かながらメリットはあってもほとんど影響を及ぼされる危険性がないものと考えられる。

<sup>77</sup> 日本貿易振興機関（JETRO）『WTO・他協定加盟状況 ナイジェリア』（[http://www.jetro.go.jp/world/africa/ng/trade\\_01/](http://www.jetro.go.jp/world/africa/ng/trade_01/)）

<sup>78</sup> OECD (2009) *African Economic Review* p22

<sup>79</sup> 日本外務省 Website 『西アフリカ諸国経済共同体（ECOWAS）』（<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/africa/ecowas.html>）

<sup>80</sup> ナイジェリアはECOWAS内の関税・通貨同盟である西アフリカ経済通過同盟（WAEMU）の対外共通関税について、従来の設定より高い50%の関税を設定することを要求したと報道されている。

<sup>81</sup> WFP (2008) *Special Report – Market, Prices, Food, and Prospects for Benin, Niger and Nigeria*.

図表 3.50 ナイジェリアの主要貿易相手国・地域（2009）

The Major Imports Partners				The Major Export Partners			
Rk	Partners	Mio euro	%	Rk	Partners	Mio euro	%
	World (all countries)	30.851,7	100,0%		World (all countries)	37.112,6	100,0%
1	EU27	10.116,9	32,8%	1	United States	12.694,8	34,2%
2	China	4.313,2	14,0%	2	EU27	9.467,4	25,5%
3	United States	2.890,9	9,4%	3	India	3.647,2	9,8%
4	India	1.103,8	3,6%	4	Brazil	3.385,3	9,1%
5	Brazil	842,1	2,7%	5	South Africa	1.361,1	3,7%
6	South Korea	642,7	2,1%	6	Ivory Coast	936,6	2,5%
7	Thailand	625,5	2,0%	7	Ghana	816,2	2,2%
8	Ivory Coast	565,6	1,8%	8	China	572,0	1,5%
9	South Africa	534,8	1,7%	9	Cameroon	562,1	1,5%
10	United Arab Emirates	528,1	1,7%	10	Turkey	393,9	1,1%

出所：Trade website-Trade Statistics-Nigeria  
 ([http://trade.ec.europa.eu/doclib/docs/2006/september/tradoc\\_113427.pdf](http://trade.ec.europa.eu/doclib/docs/2006/september/tradoc_113427.pdf))

図表 3.51 ECOWAS 内での輸出入相手国と輸出入額（100 万ユーロ）

輸入		輸出	
国	輸入額	国	輸出額
コートジボワール	565.6	コートジボワール	936.6
ニジェール	95.2	ガーナ	816.2
ガーナ	50.6	セネガル	273.5
トーゴ	32.1	ニジェール	56.5
ギニアビサウ	29.1	ベナン	32.6
ベナン	20.4	トーゴ	18.3
セネガル	13.1	ギニア	5.0

出所：Trade website-Trade Statistics-Nigeria  
 ([http://trade.ec.europa.eu/doclib/docs/2006/september/tradoc\\_113427.pdf](http://trade.ec.europa.eu/doclib/docs/2006/september/tradoc_113427.pdf))

他方、EUとのEPAは、アフリカ側（及びカリブ・太平洋諸国）の市場開放が、ほとんどの農産物や重要な非農産物について適用除外とされており、かつEUによる開発支援パッケージを伴うものであるにも関わらず<sup>82</sup>、ナイジェリアはこれを拒否し続けている。これは、食料品に加えて広範な工業製品をEUから輸入するナイジェリアの貿易構造が限定的にせよ自由化されることによって、国内産業にもたらされる影響を過剰に懸念しているため、もしくは鉱物資源及び農産物（カカオ、ゴマ等）輸出国としての立場を有利にする政治的駆引きのためではないかと推察される。

<sup>82</sup> 田中信世「EU と ACP 諸国の経済連携協定(EPA)」国際貿易投資研究所『国際貿易と投資』Spring 2009/No.

図表 3.52 ナイジェリアの EU からの輸入品 (2009)

SITC Sections	Value (millions of euro)	Share of Total (%)
<b>TOTAL</b>	<b>9.197</b>	<b>100,0%</b>
Machinery and transport equipment	3.221	35,0%
Mineral fuels, lubricants and related materials	3.062	33,3%
Manufactured goods classified chiefly by material	840	9,1%
Chemicals and related prod, n.e.s.	671	7,3%
Food and live animals	623	6,8%
Miscellaneous manufactured articles	399	4,3%
Commodities and transactions n.c.e.	110	1,2%
Beverages and tobacco	76	0,8%
Crude materials, inedible, except fuels	52	0,6%
Animal and vegetable oils, fats and waxes	11	0,1%

出所 : Trade website-Trade Statistics-Nigeria  
([http://trade.ec.europa.eu/doclib/docs/2006/september/tradoc\\_113427.pdf](http://trade.ec.europa.eu/doclib/docs/2006/september/tradoc_113427.pdf))

図表 3.53 ナイジェリアの EU に対する輸出品 (2009)

SITC Sections	Value (Millions of euro)	Share of Total (%)
<b>TOTAL</b>	<b>10.414</b>	<b>100,0%</b>
Mineral fuels, lubricants and related materials	9.571	91,9%
Food and live animals	545	5,2%
Manufactured goods classified chiefly by material	106	1,0%
Crude materials, inedible, except fuels	93	0,9%
Machinery and transport equipment	67	0,6%
Commodities and transactions n.c.e.	14	0,1%
Miscellaneous manufactured articles	7	0,1%
Beverages and tobacco	4	0,0%
Chemicals and related prod, n.e.s.	2	0,0%
Animal and vegetable oils, fats and waxes	0	0,0%

出所 : 同上

### 3.4 民間投資の貧困削減に対する影響

「3.3.2 FDI」を参照されたい。

### 3.5 その他の当該国特有の事項 (地方分権や格差の問題など)



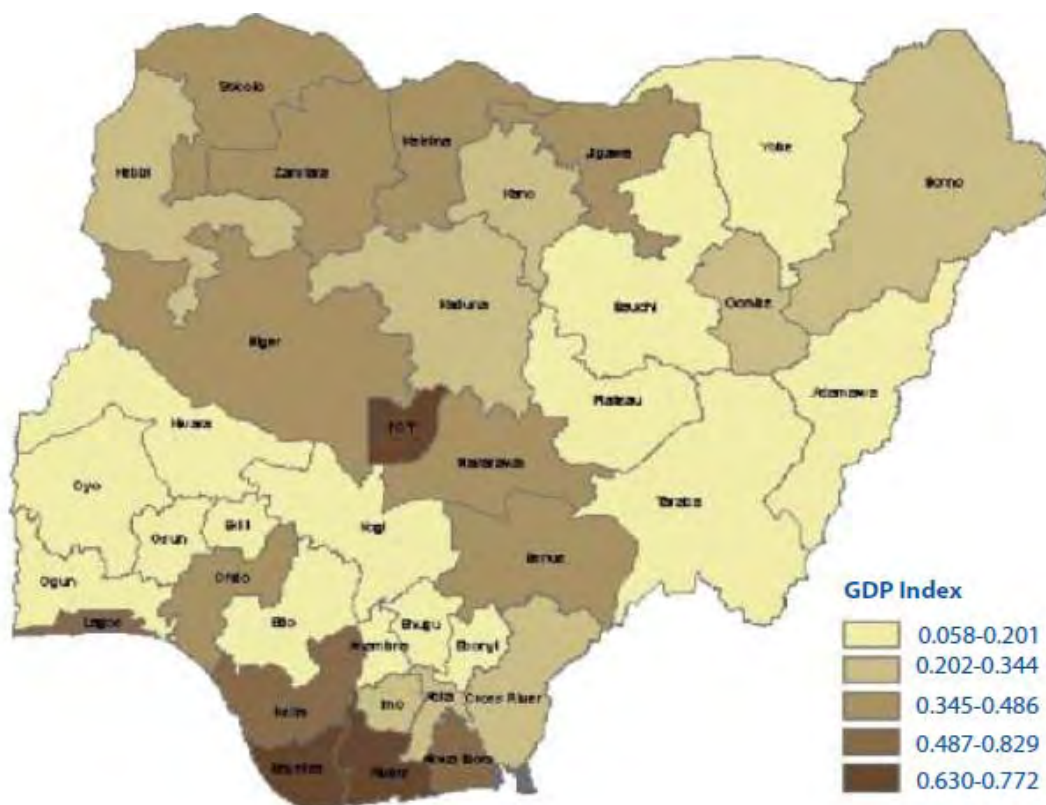
### 3.5.1 地方分権<sup>83</sup>

ナイジェリアの連邦制度は、1960年の独立以来、36州プラス連邦首都領（Federal Capital Territory）及び774地方政府から成る今日の構成に至るまで、下位レベルの政府への権限委譲の要求に対応した州政府・地方政府の増殖の連続であった。現在、州政府及び地方政府の支出が政府の連結支出に占める割合は45%にのぼっている。

連邦政府は下位レベルの政府に優越する経済法や政策の策定権限を有しており、また広範な徴税権限を有しているものの、州政府や地方政府に対して、その支出をコントロールする法的権限を与えられていない。このため、連邦政府と州・地方政府の間で重複する政策が実施されたり、政府間で競争が行われることによって、連邦制の本来の効果的・補完的な機能が歪められている。2005年には地方政府の財政規律を確保するために「地方政府歳入配分モニタリング法」の導入が企図されたが、州政府の要求を受けた最高裁により無効とされた。このため、政府間のより高度の協力を必要とする貧困削減と格差是正への取組みが一層困難な状況になっている。

### 3.5.2 格差問題

図表 3.54 各州の一人当たり GDP 指数



出所：UNDP (2009) (元出所は NBS (2008) *Human Development Indicator*)

<sup>83</sup> UNDP (2009) p. 103-105.

図表 3.55 州別格差指標

ゾーン	州	GDP per capita (US\$)	HDI	Human Poverty Index	Inequality Measure
南西部	Ekiti	316.56	0.528	22.1	0.40
	Lagos	2,554.98	0.621	14.5	0.48
	Osun	183.07	0.480	22.1	0.50
	Ondo	1,688.34	0.594	23.9	0.50
	Ogun	247.28	0.471	24.5	0.50
	Oyo	280.29	0.484	21.9	0.50
南東部	Abia	407.75	0.530	21.9	0.30
	Anambra	163.14	0.441	22.8	0.40
	Ebonyi	197.68	0.418	34.3	0.40
	Enugu	307.67	0.505	28.6	0.40
	Imo	412.32	0.512	22.7	0.40
南南部	Akwa Iborn	3,813.01	0.624	27.1	0.34
	Bayelsa	5,388.02	0.613	32.5	0.40
	Cross River	604.58	0.550	31.9	0.40
	Delta	2,325.23	0.598	23.6	0.40
	Edo	327.62	0.481	21.7	0.40
	Rivers	5,210.69	0.639	22.8	0.50
北部中央	Benue	1,434.43	0.541	36.0	0.40
	FCT	10,208.50	0.717	21.0	0.64
	Kogi	147.01	0.422	34.4	0.46
	Kwara	320.21	0.440	33.3	0.47
	Nassarawa	1,226.65	0.510	38.5	0.48
	Niger	1,687.79	0.485	42.8	0.48
	Plateau	194.57	0.403	36.5	0.50
北東部	Adamawa	209.34	0.380	42.4	0.33
	Bauchi	166.82	0.305	48.8	0.40
	Borno	529.52	0.353	55.9	0.40
	Gombe	352.35	0.364	45.0	0.40
	Taraba	141.78	0.385	43.4	0.50
	Yobe	261.00	0.292	58.0	0.50
北西部	Kaduna	707.00	0.470	34.3	0.40
	Katsina	994.28	0.418	49.9	0.44
	Kano	683.76	0.447	43.0	0.40
	Kebbi	508.50	0.388	50.2	0.46
	Sokoto	1,488.98	0.489	40.5	0.50
	Jigawa	996.01	0.376	48.4	0.40
	Zamfara	1585.21	0.434	42.6	0.51
	全体	1,156.82	0.513	32.3	0.44027 (mean)

出所：UNDP (2009)より作成

州別の GDP 指数（一人当たり GDP を指数化したもの）のマップ図は以上のとおりであ

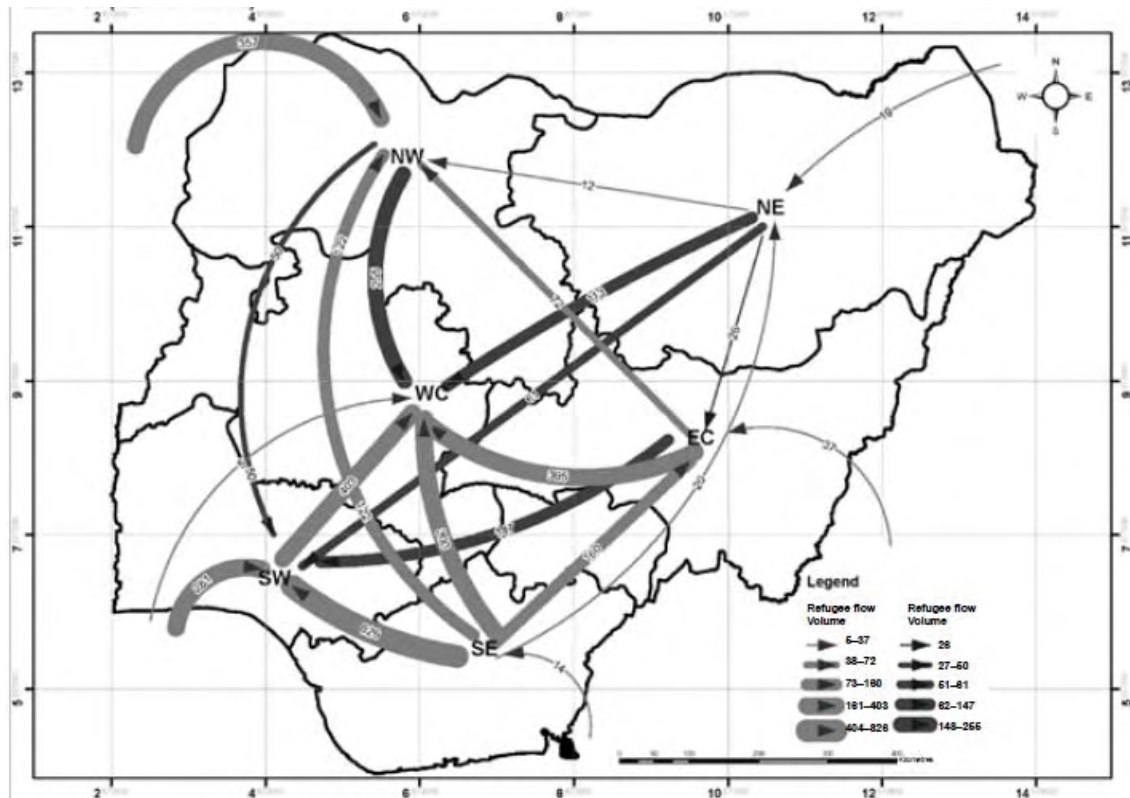
る。また、一人当たり GDP、HDI、貧困指数及び不平等指数（いずれも UNDP による）を州別に整理し、各指標とも上位 5 位及び下位 5 位についてグラデーションを施した。

この表から、以下の特徴を指摘することができる。

- ① 一人当たり GDP の上位 5 州は北部中央の首都地域（FCT）を除いて南西部及び南南部に集中している。他方、下位 5 州は、北東部、北部中央の他、南西部及び南東部にも散在しており、例えば最も値の低い Taraba 州（北東部）と Anambra 州（南東部）の一人当たり GDP では 1.15 倍の格差しかない。また Taraba 州と一人当たり GDP が最大の FCT では 72 倍の格差がある。
- ② HDI は一人当たり GDP と比較的類似した傾向を示しており、南部の経済レベルの高い諸州で高く、北部の経済レベルの低い諸州で同様に低くなっている。
- ③ 貧困指数は北部諸州に上位（すなわち貧困率が高い）5 州が集中しており、その傾向は一部 HDI の下位州と一致している。他方、貧困指数下位 5 州は FCT を除いて南部に散在しているが、これらは Lagos 州を除いて HDI や一人当たり GDP が特に高い州ではない。
- ④ 地域内の格差を示す不平等指数は、南西部に比較的指数の高い州が集中しており、南東部及び南南部には指数の低い州が集中している。他方、北部地域は不平等指数の高い州と低い州が混在している。
- ⑤ いくつかの州では 4 指標の間に強い関連が見られる。最も顕著なのは FCT であり、一人当たり GDP、HDI 及び不平等指数はいずれも最高であり、貧困指数も下位 5 位に入っている。すなわち経済・社会的に最も豊かな地域でありながら、地域内の格差が他のどの州より大きく、いわゆる都市貧困の状況にあることが推測される。Lagos 州（南西部）、Rivers 州（南南部）でもこれに近い傾向を認めることができる。
- ⑥ 他方、南南部の Akwa Ibom 州や Bayelsa 州は一人当たり GDP と HDI が上位にありながら、不平等指数は比較的低く、富と厚生への配分が良好になされている可能性が高い。これと反対に、Yobe 州（北東部）では HDI が最低である一方で貧困指数は最高、不平等指数も高いレベルにあり、きわめて深刻な貧困状況にあるものと推測される。

下記の図表は、1988 年から 1993 年にかけてのゾーン間及び国外からの人口移動を示したものである。国内の人口移動は、FCT（Abuja 市）を含む北部中央地域（上図では WC と表記）に各地域から集中する動きが顕著であり、その他では南南部あるいは南東部（同 SE）から Lagos 州を含む南西部（SW）への移動と、北東部（NE）や南南部／南東部（SE）から北西部（NW）への移動が主要なものである。これらの人口移動が主に経済格差によって生じていること、その結果、FCT や Lagos 州等大都市圏内での格差の拡大をもたらしていることが推測される。

図表 3.56 ゾーン間人口移動 (1988-1993)



出所 : IMO (2009) *Migration in Nigeria: A Country Profile 2009* p107

なお、ナイジェリアにおける都市人口比率は1950年には10.21%であったが、西アフリカ全体の傾向と同様に、2000年には42.52%となっている。2050年には全国民の4人に3人が都市に居住するようになると予想されている。特に中心となるラゴス都市圏の成長は著しく、1995年に596.6万人だった都市圏人口は2005年には876.7万人に、2025年には1581万人になると予想されている。同時に人口1万人を越える都市も、1960年の133から2000年には438に、2020年には574まで増加するとされている<sup>84</sup>。しかし各都市は経済圏としては都市そのものより大きくなっているために、これらの数値は過小であるという指摘もある<sup>85</sup>。

#### 4. 貧困層が利用できる医療保険・サービス

##### 4.1 国民健康保険スキーム

ナイジェリア国民健康保険スキーム (Nigeria's National Health Insurance Scheme: NHIS) は

<sup>84</sup> UN-Habitat (2010) *State of African Cities 2010, Governance, Inequalities and Urban Land Markets* p103

<sup>85</sup> 望月克哉 (2010) 「新興国の虚像と実像 - ナイジェリア経済の実情 - 」 JMC 2010.12



1999年に制定されて実行されている。このスキームの目的は、全国民に対して良質の医療を、それを受けるための金銭的困難を意識させることなく提供することにある。これをさらにオバサンジョ内閣が強化する形で2005年より実行に移されている。現在公共サービス部門の被雇用者は全員がこの保険に加入しており<sup>86</sup>、2015年までにこの対象者を全国民にまで拡大することを計画している<sup>87</sup>。本スキーム実行にかかる費用は連邦政府が設立するファンドによってまかなわれ、民間セクターやNGOに対しても支払いがなされる<sup>88</sup>。

NHISでは国民全員が医療サービスへのアクセスを確保できるようにするために、受益者の分類を行ったうえで複数のプログラムを提供している。具体的なプログラムは下記の通りである<sup>89</sup>。

- ① Formal Sector Social Health Insurance Programme
- ② Urban Self-employed Social Health Insurance Programme
- ③ Rural community Social Health Insurance Programme
- ④ Children Under-Five Social Health Insurance Programme
- ⑤ Permanently Disabled Persons Social Health Insurance Programme
- ⑥ Prison Inmates Social Health Insurance Programme
- ⑦ Tertiary Institutions and Voluntary Participants Social Health Insurance Programme
- ⑧ Armed Forces, Police and other Uniformed Services

個々人の登録に関しては国内に設置された Health Maintenance Organization (HMO)への届出が必要となる。保険料負担は一人当たり給与の15%程度（学生は納める学費に応じて徴収）で、保険の対象領域は幅広く、通院治療や処方箋、予防接種などにも使用できる。

下の表は男女別の健康保険加入率であるが、上述のNHISについて言及がなく、運用状況は不明である。この表によると、男性女性ともに健康保険への加入率は非常に低いことがわかる。保険の種類別に言うと雇用者保険が最も大きな割合を占めているが、その加入率も男性で2%、女性で1%である。男女ともに都市部、富裕さにおける最高層でそれぞれ加入率が最も高く、教育の程度は保険加入率に大きく影響している<sup>90</sup>。

---

<sup>86</sup> IMF(2007) 'Progress Report on the National Economic Empowerment and Development Strategy (NEEDS), Seeds Benchmarking Exercise (2006) and Millenium Development Goals(MDGs 2006) p12

<sup>87</sup> USAID(2009)*Nigeria Demographic and Health Survey* 2008 p44

<sup>88</sup> National Health Insurance Scheme Decree, No 35 of 1999

<sup>89</sup> NHIS web page (<http://www.nhis.gov.ng/index.php>)

<sup>90</sup> National Population Commission (2009)*Nigeria Demographic and Health Survey* 2008 p44-46

図表 3.57 保険加入率・女性 (%)

背景特性	雇用者 保険	相互保険組合・ コミュニティ保険	私的商業保険	その他	無保険	女性の数
居住地域						
都市部	2.8	0.2	0.4	0.2	96.4	11,934
周辺部	0.5	0.1	0.1	0.1	99.2	21,451
居住ゾーン						
北央部	2.0	0.2	0.2	0.2	97.4	4,748
北東部	0.3	0.1	0.0	0.0	99.5	4,262
北西部	0.4	0.2	0.0	0.0	99.3	8,022
南東部	0.4	0.1	0.1	0.0	99.3	4,091
南南部	2.0	0.2	0.5	0.7	96.6	5,473
南西部	2.3	0.1	0.3	0.0	97.3	6,789
教育履歴						
なし	0.1	0.0	0.0	0.0	99.9	11,942
初等教育	0.4	0.1	0.1	0.0	99.3	6,566
中等教育	1.3	0.1	0.3	0.3	98.0	11,904
中等教育以上	8.1	0.6	0.9	0.6	89.8	2,974
富裕さの五分位						
最低層	0.0	0.0	0.0	0.0	99.9	6,194
第2層	0.0	0.0	0.0	0.0	99.9	6,234
中層	0.2	0.1	0.1	0.1	99.5	6,341
第4層	0.9	0.2	0.2	0.1	98.6	6,938
最高層	4.5	0.3	0.6	0.5	94.0	7,678
合計	1.3	0.1	0.2	0.2	98.2	33,385

出所：National Population Commission (2009) *Nigeria Demographic and Health Survey 2008*

図表 3.58 保険加入率・男性 (%)

背景特性	雇用者 保険	相互保険組合・ コミュニティ保険	私的商業保険	その他	無保険	男性の数
居住地域						
都市部	3.4	0.3	0.4	0.8	95.0	5,215
周辺部	1.0	0.1	0.3	0.2	98.5	8,593
居住ゾーン						
北央部	2.1	0.1	0.3	0.2	97.2	2,065
北東部	9.0	0.0	0.0	0.0	99.0	1,645
北西部	1.2	0.4	0.2	0.2	97.9	3,237
南東部	1.6	0.4	0.7	0.0	97.6	1,448
南南部	3.3	0.1	0.7	0.8	95.2	2,437
南西部	2.1	0.1	0.3	0.8	96.7	2,977
教育履歴						
なし	0.1	0.0	0.2	0.0	99.8	2,597
初等教育	0.6	0.0	0.2	0.0	99.3	2,761
中等教育	1.4	0.3	0.3	0.4	97.7	6,470
中等教育以上	7.9	0.7	1.1	1.5	89.0	1,979
富裕さの五分位						
最低層	0.1	0.0	0.1	0.1	99.8	2,275
第2層	0.3	0.0	0.1	0.0	99.6	2,332
中層	0.6	0.2	0.3	0.0	98.8	2,570
第4層	2.0	0.2	0.4	0.3	97.2	3,163
最高層	5.1	0.5	0.7	1.2	92.5	3,468
合計	1.9	0.2	0.4	0.4	97.1	15,486

出所：同上

#### 4.2 妊娠期幼児期幼年期統合医療

幼年期の健康状態はその母親や生まれた状態と深く結びついているという観点から、家族や地域全体に対して情報や技術を与えることを通して子供の健康状態を改善していく妊娠期幼児期幼年期統合医療（Integrated Maternal, Newborn and Child Health: IMNCH）戦略が2007年より導入された。この計画では母親や乳幼児の健康について必要な情報をより広範な地域・人々に伝達することを目的として、75%の家族ケア担当者(Family Care Givers)が胎内児や家庭内での子供の健康管理の知識を身につけること、55%の家族ケア担当者が出産や子供のケアに関する講習を受けること、等を目標としている。具体的な講習としては、第一グループとして妊娠中・出産後の女性に対するケアの実施、第二グループとして夫や義理の母、兄弟姉妹などに対する環境構築などについての講習が行われる<sup>91</sup>。

計画の監督官庁は保健省（Federal Ministry of Health）で、医師の55%が民間に所属していることを考慮しながら民間セクターとの協力（Public-Private Partnership）も進行中であ

<sup>91</sup> IMNCH (2009) *Communication for Behaviour and Social Change Strategy*

る<sup>92</sup>。下部機関としてCore Technical Committeeがあり、広報や関連機関の連携、プロジェクト評価などを行う組織の統括を行っている。

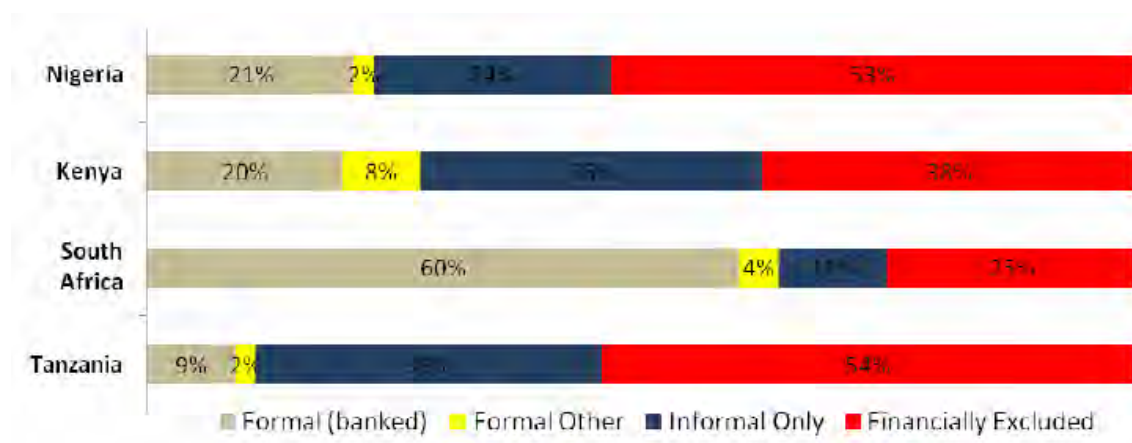
## 5. 貧困層が利用できる金融サービス（マイクロファイナンス等）

### 5.1 マイクロファイナンス

#### 5.1.1 概要<sup>93</sup>

Enhancing Financial Innovation and Access（EFInA）によって行われた調査 Finscope によると、74%の成人が銀行と取引を行った経験がなく、女性に限定するとその数値は85%になる。被雇用労働者の71%が銀行を利用しているのに比べて、農家の中で銀行の利用経験があるのはわずか15%程度である。この中でマイクロファイナンス銀行（Microfinance Banks: MFBs）を主たる金融機関として用いる人の割合は3%に過ぎず、人口にすると260万人程度にとどまっている。

図表 3.59 Finscope による調査の国家間比較



出所：CGAP (2009)

下の表はマイクロファイナンスにとどまらず一般の消費者金融や住宅ローンなどを提供する金融機関を含めた数値である。数の点から言うと、マイクロファイナンス銀行は他の金融機関を大きく凌いでいる。

<sup>92</sup> IMCH (2007) *Integrated Maternal, Newborn and Child Health Strategy*

<sup>93</sup> 以下は CGAP (2009) *Access to Finance in Nigeria* に基づく

図表 3.60 ナイジェリア中銀認可の金融機関数

Banks	24
Discount Houses	4
Development Finance Institutions	5
Bureaus de Change	610
Primary Mortgage Institutions	90
Finance Companies	76
Microfinance Banks	744

出所：CGAP (2009)

NGOはマイクロファイナンスの主要な運営機関であり、特に大きい2つのNGO、COWANとLAPOでは、その貸付額が各々22億ナイラ(1,860万ドル)、20億ナイラ(1,650万ドル)、貸付対象者が228,000人、130,972人となっている。

地方銀行もマイクロファイナンス事業に乗り出しており、2007年末時点で232の銀行に認可が、375の銀行が最終審査の段階にある。銀行業全体の期待成長率の高さと商業銀行設立のための基準の厳格化の影響を受けて、地方銀行は急激に成長している。

ナイジェリア中銀はマイクロファイナンス銀行として認可を出すにあたり、2000万ナイラ(16万9000ドル)以上の資産を持つか、2000人以上の貸付対象者を持つ必要があるとしている。マイクロファイナンス事業の新規開設については2008年6月までに175件が申請され、既に運営を開始しているか現時審査の途上にある。例えばACCION International<sup>94</sup>はシティバンク・ナイジェリアや国際金融公社(International Finance Corporation: IFC)などと協働している。またケニアのK-REPやバングラディシュのBRACなどもこの市場への進出を検討、あるいは既に進出している。

図表 3.61 マイクロファイナンスを提供する NGO と関連指標 (2007年12月)

	COWAN	LAPO	SEAP	DEC	FADU	TOTAL
Total Portfolio	\$18,612,528	\$16,452,193	\$1,339,097	\$2,739,040	\$1,458,922	\$40,601,780
Borrowers	228,000	130,972	24,276	31,705	134,538	549,491
Savers	84,000	35,215	-	-	156,064	275,279
Financial Revenue	na	36.7%	42.8%	30.3%	27.6%	
Financial Expenses	na	6.8%	2.1%	2.9%	2.1%	
Net Financial Margin	na	29.9%	40.7%	27.4%	25.5%	
Operating Costs	na	21.6%	36.5%	24.7%	25.2%	
RoA	na	8.3%	4.3%	2.7%	0.4%	
RoE	na	39.1%	53.1%	-0.7%	0.5%	

出所：CGAP (2009)

<sup>94</sup> 1961年設立の米国に本拠を持つNPO。1973年よりマイクロファイナンス事業を開始し、世界31カ国で62のマイクロファイナンス機関を設置している。

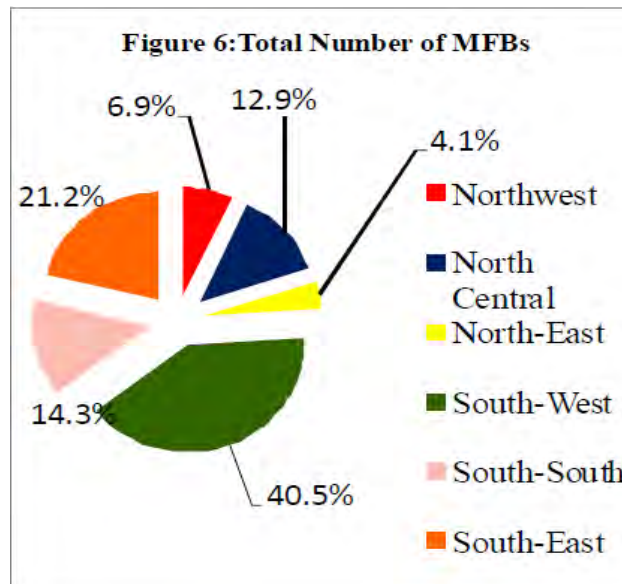
図表 3.62 地方銀行・マイクロファイナンス銀行, 主要指標

	2008 June	2007	2006	2005
[Equity + Deposits] / Assets	85%	83%	85%	85%
Loans / Assets	34%	30%	30%	32%
Investments / Assets	44%	49%	53%	50%

出所 : CGAP (2009)

下図はマイクロファイナンス銀行の地理的な分布である。そのうちのほとんどは南部に位置し、北部にあるのは合計でも 25%に満たないことがわかる。

図表 3.63 マイクロファイナンス銀行地域内訳



出所 : CGAP (2009)

下図は 2005 年から 2008 年 6 月までのマイクロファイナンス銀行・地方銀行全体でのバランスシートを見たものである。資産は 136%上昇しているのに対し、株主資本は 248%増加していることを見ても、この分野に多くの資本が投入されていることがわかる。

図表 3.64 マイクロファイナンス銀行・地方銀行全体でのバランスシート

	2008 June	2007	2006	2005
Exchange rate (NGN to US\$1)	115.00	120.00	134.00	130.00
<b>Total Assets</b>	838,174	629,583	410,866	354,329
Loan Portfolio	282,929	190,419	123,124	111,903
<b>Total Liabilities</b>	563,123	447,826	315,727	275,277
Deposits	437,180	343,481	253,797	220,950
<b>Equity</b>	275,051	181,757	95,139	79,052

出所 : CGAP (2009)

以下では、ナイジェリア中銀、及び National Poverty Eradication Programme (NAPEP) によるマイクロファイナンスへの取組みを概説する。

### 5.1.2 ナイジェリア中銀

ナイジェリア中銀によれば、従来ナイジェリアでは、公式な金融システムは経済人口の 35%にしかサービスを提供しておらず、残りの 65%は非公式（インフォーマル）な金融サービス（マイクロファイナンス機関等）を活用していた<sup>95</sup>。このため、中銀は 2005 年に「マイクロファイナンス政策、規則及び監督枠組み」<sup>96</sup>を策定し、マイクロファイナンスの監督を開始した。中銀はまた、各金融機関に対して毎年の税引き後利益の 10%をSME向け投資・融資に振り向けさせるSMEEIS (Small and Medium Enterprises Equity Investment Scheme) を実施していたが、バンカブルなプロジェクトが少なかったため、2007 年をもって廃止し、その残高と民間金融機関からの出資金（2010 年までに 1000 億ナイラ（7 億ドル<sup>97</sup>）を積上げ予定）をもってマイクロクレジット・ファンドを設立した。

マイクロクレジット・ファンドは民間 (Banker's Committee) により運営され、これを利用する州政府は予算の 1%を拠出することが義務付けられている。一義的には州政府が当該ファンドを利用し、小規模・零細企業に融資することになっているが、消化しきれない場合には、マイクロファイナンス銀行 (MFBs)<sup>98</sup> や NGO マイクロファイナンス機関 (NGO-MFIs)<sup>99</sup> が借入れ、小規模・零細企業に転貸する仕組みである<sup>100</sup>。なお、州政府及び金融機関のファンドからの借入利息（年利）は 1%、企業への貸出利息（年利）は 8% 以下とされている。

ナイジェリア中銀によるマイクロクレジット市場の直近のデータは下記のとおりである。NAPEP のマイクロファイナンスは同機関が直接資金を配分するのに対して、中銀は主に保証によってその活用を促進している。農業に関しては融資金額の 75%まで、産業については 80%までを保証する。

<sup>95</sup> 上述の Finescope 調査の結果を踏まえると、この数値は明らかに過大であり、実際にはインフォーマル金融（ここで言うマイクロファイナンス機関）を利用したことのない人々が相当存在するものと思われる。

<sup>96</sup> Microfinance Policy, Regulatory and Supervisory Framework for Nigeria, Dec. 2005.

<sup>97</sup> 以下では CBN, Statistical Bulletin より、2009 年第 4 四半期末の為替レート（\$1=147.6 ナイラ）を利用している。

<sup>98</sup> MFBs は 2008 年 5 月末時点で 768 行であったが、このうち、最低資本金 2000 億ナイラ（14 億ドル）の要件を満たして MFBs に転換したコミュニティ銀行が 607 行を占めた（その他は新規参入）。Central Bank of Nigeria, *The Nigerian Microfinance Newsletter*, Vol.6, Jan-Jun. 2008.

<sup>99</sup> 信用供与のみを行う NGO-MFIs は中銀の監督下に入る必要はないが、預金を集めることはできない。また、MFBs に転換するためには中銀が定める要件を満たさなければならない。MFBs は預金・貸付・支払サービスを行うことが求められ、その所有主体として個人あるいは団体、国内主体あるいは外国主体などを区別していない。Central Bank of Nigeria, "Micro Finance Policy, Regulatory and Supervisory Framework for Nigeria", Dec. 2005.

<sup>100</sup> Central Bank of Nigeria, "Guidelines for the Operations of the Micro Credit Fund," Feb. 2008.

図表 3.65 マイクロファイナンス指標 (2010年9月時点)

Microfinance Banks 数	888
預金総額 (千ナイラ)	82,831,516
資産総額 (千ナイラ)	185,612,559
融資・貸付総額 (千ナイラ)	59,011,223
預金者数	2,153,498
借入者数	144,076

注：2009年第4四半期末で\$1=147.6ナイラ

出所：CBN：Financial Policy & Regulation Department

### 5.1.3 National Poverty Eradication Programme (NAPEP)

NAPEPは2001年設立の政府機関であり、貧困削減活動の調整およびモニタリングを主要な業務とする<sup>101</sup>。NAPEPが提供するマイクロクレジットは、MFBとMFIの両方のチャネルを用いて、州政府の共同実施委員会 (Joint Implementation Committee: JIC) が選定したプロジェクト (Anchor Project 及びCapacity Widening Project) に対して融資するものである。セクターは農業にフォーカスしているが、限定はされない。

マイクロクレジット・プログラムとして2007年より開始されたVillage Economic Development Solution Scheme (Village Soluttion) は、農村部における経済活動の拡大を支援するスキームであり、下表のような実績をあげている<sup>102</sup>。

図表 3.66 Village Economic Development Solution Scheme (単位：ナイラ)

Anchor Projects		Capacity Widening Activities		Village Solution
プロジェクト数	総額	プロジェクト数	総額	総額
2,085	4,341,138,405	3,615	2,282,820,500	6,623,958,905

注：2009年第四期末時点で\$1=147.6ナイラ

出所：NAPEP (2010) National Press Breafing: Journey So Far p8

マイクロクレジットより更に大規模なアグロ・プロジェクトを支援するプログラム (50万～5,000万ナイラ (3,387ドル～3万3,875ドル) の資本金を供与する) として昨年からはMeso Creditがスタートした (しかし実質的にはまだ稼動していない)。また、2005年から実施中のプログラムとして、Promise Keeper Programme(PKP)がある。教会やモスク等 Faith Based Organizations (FBOs)を供与対象とするグラントであり、リボルビング・ファンドとして活用するものである。

## 5.2 モバイル・バンキング

ナイジェリア中銀は「ナイジェリアにおけるモバイル支払いシステムのための規制枠組

<sup>101</sup> NAPEP は国家貧困削減委員会 (NAPEC) の事務局としても位置づけられており、そのトップは貧困削減に関する大統領上級特別補佐官が務める。

<sup>102</sup> NAPEP (2010) National Press Briefing; Journey So Far p6-7



み (Regulatory Framework for mobile Payment System in Neigeria)」を採用し、国内における Mobile Banking の普及に力を入れている。このフレームワークにおいて、3 つの Mobile Banking の提供主体として、①銀行、②銀行を中心としたコンソーシアム、③非銀行系、の3つを想定している。かつその運営主体によって、利用者が提供すべき情報、利用限度額が異なるように設計されている。

図表 3.67 Mobile Banking 運営主体による制限

BANKING STATUS	KYC/CDD LEVEL	VERIFICATION REQUIREMENT	MOBILE PAYMENT TRANSACTION LIMIT
Un-banked	Least KYC	Name and Phone Number	Maximum transaction limit of N3,000 and Daily limit of N30,000
Semi-banked	Partial KYC	Refer to CBN KYC Manual and Money Laundering (Prohibition) Act.	Maximum transaction limit of N10,000 and Daily limit of N100,000
Fully-banked	Full KYC	Refer to CBN KYC Manual and Money Laundering (Prohibition) Act.	Maximum transaction limit of N100,000 and Daily limit of N1,000,000.

注：KYC: Know Your Customer CDD: Customer Due Diligence  
出所：CBN, Regulatory Framework for mobile Payment System in Neigeria

Mobile Bankingの主な提供主体として、eTranzact M-Teller Mobile Money Service、Monetise Group's Monetise、Pagatech's Paga、E-Soft's M-NAIRAの4つがある。Tranzact M-Teller Mobile Money Serviceはナイジェリア国内に既に5万の代理店を持っており、各所で登録や取引を行うことができる。Monetise Group's Monetise、Pagatech's Pagaの2つは2010年12月にナイジェリア中銀から営業許可を付与され、前者については2011年春から試験プログラムを開始する予定である<sup>103</sup>。

## 6. 貧困層／貧困世帯向け生活支援施策

NAPEPがIn Care of the People (COPE)と呼ばれるConditional Cash Transfer (CCT)プログラムを実施している。Human Capacity Development Index（主に女兒の就学率と大人の英語識

<sup>103</sup> Exective Research Associate による。

字率によって構成)に基づき選定された 12 州<sup>104</sup>の貧困家庭(寡婦世帯、高齢者世帯及び障害者世帯)を対象として、基礎所得保証(Basic Income Guarantee 毎月 5,000 ナイラ(34 ドル))と貧困削減促進投資(Poverty Reduction Accelerator Investment 1 年間のBIG受給後、84,000 ナイラ(569 ドル))を支給する。

これまで、フェーズI及びIIのパイロット期間中、22,342 家庭に総額 2,266.344 百万ナイラ(1,534 万ドル)が支給されている。これら支援の成果として 10 万 9,210 人以上の子供が退学を免れ、医療サービスの利用率が向上したことが報告されている<sup>105</sup>。

図表 3.68 In Care of the People (COPE)

	出資			支給対象家計	支給対象人数
	MDG (100 万ナイラ)	州政府 (予算)	州政府 (実施)		
Phase I	900	888	444	8,850	61,950
Phase II	2,265	1,800	na	13,492	94,444
合計	3,165	2,688	444	22,342	156,394

注：2009 年第四期末時点で\$1=147.6 ナイラ

出所：NAPEP (2010) National Press Breafing: Journey So Far p12-13

## 7. 貧困削減のモニタリング方法

### 7.1 MDGs<sup>106</sup>

2000 年に国連が主体となって定めたミレニアム開発目標(Millennium Development Goals: MDGs)は、1999 年に制定されたナイジェリア連邦共和国憲法に基づく開発目標と多くの基本的概念を共有しており、ともに最大の目標を人々の安全と幸福においている。同時に経済・財政政策運営権を持つ地方政府もこれに積極的に協力しており、特に基礎教育や乳幼児・子供・妊産婦の医療、ジェンダー格差、農業や食糧安全保障、水道・衛生環境整備、貧困撲滅など多くの分野で重要な役割を果たしている。

MDGs 達成に向けた具体的政策の立案やその管理は国家計画委員会(the National Planning Commission)によって行われてきた。具体的な政策としては 1998 年に開始された NEEDS をはじめ、州レベルの SEEDS などがある。2005 年には MDGs 大統領委員会(the Presidential Committee on the MDGs)と MDGs 達成に向けた上級特別大統領補佐室(the Office of the Senior Special Assistant to the President on MDGs: OSSAP-MDGs)が設置され、MDGs 達成に向けた政策の立案や負債の管理などを協力をサポートしている。

その評価に関しては主に二段階用意されており、まず第一段階として NBS によって実施

<sup>104</sup> Nassarawa and Niger (North Central), Borno and Yobe (North East), Jigawa and Kebbi (North West), Ebonyi and Enugu (South East), Bayelsa and Cross River (South South); and Ogun and Oyo (South West).

<sup>105</sup> NAPEP (2010) National Press Briefing: Journey So Far p9-14

<sup>106</sup> UNDP(2008) Mid-Point Assessment of the MDGs in Nageria 2000-2007 c

される主な指標による評価、第二段階として MDGs 達成に向けて実行されているプログラムやプロジェクトのモニタリングや評価である。

すでに確認されたナイジェリアにおける MDGs の達成状況の概要は次表の通りである。

図表 3.69 ナイジェリアの MDGs 達成状況

Status at a Glance					
GOAL	1990	2000	2007	Target 2015	Progress Towards Target
<b>1. Eradicate Extreme Poverty and Hunger</b>					
Absolute PPI (US\$/day) %				21.4	Slow
Relative (%)	42.7	66	54.4	21.4	Slow
-Population (million)	91.5	91.5	140.0		Slow
-Population under poverty (m)	39.07	39.07	67.11		Slow
Percentage of population below minimum level of dietary energy consumption	13	13		5.2	Good
Percentage of underweight under-5 children.	35.7	31	25	18	Slow
<b>2. Achieve Universal Education</b>					
Net enrolment ratio in primary education	68	95	89.6	100	Good
Proportion of pupils starting Grade 1 who reach Grade 5	67	97	74	100	Good
Primary six completion rate	58	76.7	67.5	100	Good
Literacy rate of 15-24 years old	70.7	64.1	81.4	100	Good
<b>3. Promote Gender Equality and Empower Women</b>					
Ratio of girls to boys in primary education (girls per 100 boys)	76	78	93.6	100	Good
Ratio of girls to boys in secondary education (girls per 100 boys)	75	81	97.6	100	Good
Ratio of girls to boys in tertiary education (girls per 100 boys)	46	66		100	Good
Share of women in wage employment in the non-agriculture sector	66.3	79		100	Lack of data
Seats held by women in national parliament	1.0	3.1	7.7	30	Slow
<b>4. Reduce Child Mortality</b>					
Infant mortality rate (per 1000 live births)	91	81.38	110	30.3	Worsening
Under-5 mortality rate (per 1000 live births)	191	183.75	201	63.7	Worsening
Percentage of one-year-olds fully immunized against measles	46	32.8	60	100	Good
<b>5. Improve Maternal Health</b>					
Maternal mortality ratio		704 <sup>a</sup>	800 <sup>c</sup>	100	Worsening
Births attended to by skilled health personnel	45	42 <sup>a</sup>	36.3 <sup>c</sup>	100	Worsening (data problem)
<b>6. Combat HIV &amp; AIDS, Malaria and Other Diseases</b>					
HIV prevalence among pregnant young women aged 15 to 24		5.4 <sup>a</sup>	4.3 <sup>a</sup>		Slow



Status at a Glance					
GOAL	1990	2000	2007	Target 2015	Progress Towards Target
Young people aged 15-24 who both correctly identify ways of preventing the sexual transmission of HIV and who reject major misconceptions about HIV transmission			25.9*	100	Slow
Young people aged 15-24 reporting the use of a condom during sexual intercourse with a non-regular sexual partner				100	Slow (Lack of data)
Children orphaned by HIV & AIDS			1.97*		Lack of data
Prevalence and death rates associated with malaria					Slow (Lack of data)
Prevalence and death rates associated by tuberculosis					Slow (Lack of data)
<b>7. Ensure Environmental Sustainability</b>					
Land area covered by forest		14.6	12.6	20	Worsening
Gas flared	68	53	34	0	Slow
Energy use (kg oil equivalent) per US\$1 GDP (PPP)			1.5		Slow (Lack of data)
Carbon dioxide emissions (per capita)		4799	2500*		Improving
Total population with access to safe drinking water (%)	54	54	49.1	100	Worsening
Total population with access to basic sanitation (%)	39	42.9	42.9	100	Worsening
People with access to secure tenure (%)		38.4	61.2	100	Improving
Residential housing construction index (ACI) (Proxy)		53	31 <sup>a</sup>		Worsening
<b>8. Develop a Global Partnership for Development</b>					
Per capita official development assistance to Nigeria (in US\$)	3.0	1.47	81.67		Improving
Debt services as a percentage of exports of goods and services		9	1.2		Good
Private Sector Investment (US\$ million)	50	75	8100		Improving
Tele-density (per 1000 people)	0.45	0.73	27.41		Good
Personal computers (per 1000 people)		6.38	6.74		Lack of data
Internet access (%)	0.1	0.1	1.9		Slow

出所 : UNDP(2008) *Mid-Point Assessment of the MDGs in Nigeria 2000-2007 c*

## 7.2 貧困プロファイル及びその他の政策的取組み

貧困関連データを定期的にとりまとめて分析し、貧困プロファイル (Poverty Profile for Nigeria) を作成しているのは前述のとおりNBSである。NBSによれば、2005年度版のプロファイル作成にあたって、以下のような進展と課題が見られた<sup>107</sup>。

<sup>107</sup> NSB (2005) p.67-68.

- プロファイル作成の基データである Nigeria Living Standard Survey の調査データはかなり広範囲にわたることから、今まで社会経済的データや分析の不足から取り扱うことができなかつた問題にも取り組むことができた。
- 他方、採取されたデータが膨大であったため、データ入力が煩雑であった。このためアンケート項目の改善が必要である。それによってデータの質そのものの向上も期待できる。
- この調査について十分な広報活動が調査前・調査中に行われなかつたために、回答者から十分な協力を得ることが適わなかつた。紙や電子媒体を通して周知を徹底することで、定められた期間内での調査を完了することができる。
- 実際に調査を行うスタッフからも、出張手当や医療手当が少なく、調査用紙などを運ぶバッグが支給されなかつたことが、回答者からは回答することで得られる報酬がなかつたことなどが改善点として挙げられている。
- 調査の技術的観点からも、質問項目の曖昧さ、重複などの問題、家計主以外の所得や支出について調査項目がなかつたことなどが改善点として挙げられる。HIV/AIDS 関連の質問の回答率が低くとどまつたことも今後の課題である。

他方、世銀や DFID、ブリティッシュ・カウンシル、EU などからもたらされた大規模な技術援助によって、NBS の調査マネジメントや分析能力が向上したのみならず、分析結果に対する信頼性も向上している。この支援が続くことでナイジェリア統計システムはさらに発展していくと考えられるとしている。

貧困削減への政策的な取組に関するモニタリングは、MDGs をはじめ、NEEDS や SEEDS、Nigeria Vision 20:2020 及び関連政府機関の政策ペーパーに基づき、実施されている。また、国際機関も、これらナイジェリア政府のモニタリング成果を取り込みながら、定期・不定期の調査報告書やモニタリング・レポートを作成してその評価に当たっている。

図表 3.70 貧困削減関連政策ペーパー・資料・統計

資料名	発行元	最新更新年	更新頻度
ナイジェリア政府			
Poverty Profile for Nigeria	National Bureau of Statistics	2005	不定期
Nigeria living Standard Survey	National Bureau of Statistics	2004	5年毎
Social Statistics in Nigeria	National Bureau of Statistics	2009	5年毎
NEEDS	National Planning Commission	2004	—
Nigeria Vision 20:2020	(National Planning Commission)	2009-10	—
Millennium Development Goals Reports	National Planning Commission / Office of the Senior Special Assistant to the President on MDGs (OSSAP-MDGs)	2010	毎年
Demographic and Health Survey	National Population Commission	2009	5年毎

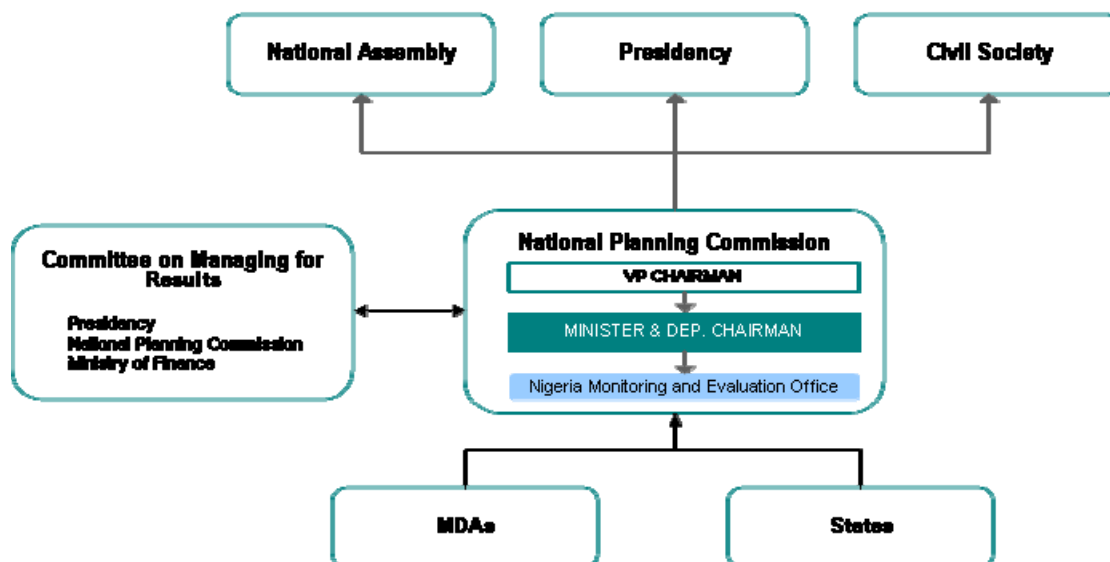
Population and Housing Census of the Federal Republic of Nigeria	National Population Commission	2009	5年毎
National Policy on Integrated Rural Development	Federal Ministry of Agriculture and Rural Development	2001	不明
New Agricultural policy Thrust	Federal Ministry of Agriculture and Rural Development	2001	不明
National Strategic Health Development Plan (NSHDP) 2010-2015	Federal Ministry of Health	2010	5年毎
Roadmap for the Nigerian Education Sector	Federal Ministry of Education	2009	5年毎
One Year Strategy for the Development of the Education Sector	Federal Ministry of Education	2010	毎年
Statistics of Education in Nigeria: 1999-2005	Federal Ministry of Education	2007	不明
Agric Filling Data Gap	National Bureau of Statistics	2006	不定期
Building and Construction Statistics	National Bureau of Statistics	2007	不定期
CPI and Inflation	National Bureau of Statistics	2011	不定期
Labor Force Survey	National Bureau of Statistics	2010	毎年
Price Statistics	National Bureau of Statistics	2006	不定期
National Account of Nigeria	National Bureau of Statistics	2007	不定期
The Middle Class in Nigeria, Analysis of Profile, Determinants and Characteristics	National Bureau of Statistics	2007	不定期
国際機関・ドナー			
Human Development Indicator	UNDP	2010	随時
Human Development Report	UNDP	2009	不定期 (2-4年)
Progress Report on the National Economic Empowerment and Development Strategy (NEEDS), Seeds Benchmarking Exercise (2006) and Millenium Development Goals(MDGs 2006)	IMF	2007	不定期
Country Health Statistical Report Nigeria	USAID	2009	不定期
Migration in Nigeria	IOM	2009	不定期
Communication for Behavior and Social Change Strategy	IMNCH	2009	不定期
The State of African Cities	UN-HABITAT	2010	2年毎
World Government Indicator	World Bank	2010	随時
African Economic Outlook	AfDB	2010	毎年

出所：上記資料より MURC 作成

なお、NEEDSは2003年から07年の間の取組みの枠組みと優先順位を示し、これに基づきIMFの評価も行われたが、2008年以降の取組みを示す筈であったNEEDSIIは作成されていない。実質的にはVision 20:2020がNEEDSを引き継ぐ形で、政府全体の貧困削減への取組みの枠組みを与えている。Vision 20:2020におけるモニタリング・評価のシステムは下図のとおりである。「モニタリング・評価事務局」がシステムの調整役及び関連フレームワークの「管理人」の役割を果たし、国家計画委員会議長に対して直接報告の義務を負うこと

になっている。また、大統領府、国家計画委員会及び財務省からなる「結果のための閣僚監督会議」が右事務局に対する監督を行う<sup>108</sup>。

図表 3.71 モニタリング・評価のためのガバナンス枠組み



注：MDAs：Ministries, Departments and Agencies  
出所：Nigeria Vision 20:2020 (2009), p.181.

## 8. 貧困プロファイルの更新方法の提案

NBS の貧困プロファイルは、前述のとおり、2009 年度の Nigeria Living Standard Survey の結果を受けて、2010 年度版が作成される予定である。豊富な貧困分析データを含む同プロファイルの結果を迅速に反映するという観点からは、恐らく 2010 年中ないし 11 年には発表されるであろう同プロファイルを元に、更新を行うことが考えられる。5 年毎という同プロファイルの更新期間を考慮すると、同じタイミングで本邦におけるプロファイルの更新を図ることが最も自然であると思われる。

他方、Vision 20:2020 の政策的取組みの成果を踏まえるという観点からは、2010 年～13 年をターゲットとする第一次実施計画 (the First National Implementation Plan) が開始されたところであり、同計画の終了と評価を待って貧困プロファイルを改訂するという方法も考えられる。さらにより長く期間をとるのであれば、MDGs の最終目標年である 2015 年を節目として、その成果と NSB の貧困プロファイルの最新結果を盛り込んだ更新を行うという方法もあり得よう。

<sup>108</sup> Nigeria Vision 20:2020 (2009), p.181

**ナイジェリア連邦共和国**  
**貧困プロフィール調査（アフリカ）**

**添付資料**

平成 23 年 3 月

独立行政法人  
国際協力機構（JICA）

委託先  
三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング



1. 州別貧困ギャップ比率(2004)

ゾーン	州	PI	ゾーン	州	PI
南西部	Ekiti	0.1181	北部中央	Benue	0.1543
	Lagos	0.3473		FCT	0.1787
	Osun	0.0757		Kogi	0.5346
	Ondo	0.1539		Kwara	0.4236
	Ogun	0.1023		Nassarawa	0.1582
	Oyo	0.0585		Niger	0.2099
南東部	Abia	0.0904	北東部	Plateau	0.2003
	Anambra	0.0768		Adamawa	0.3149
	Ebonyi	0.1806		Bauchi	0.322
	Enugu	0.1118		Borno	0.1889
	Imo	0.0871		Gombe	0.2936
南南部	Akwa Ibom	0.1584	北西部	Taraba	0.2112
	Bayelsa	0.0994		Yobe	0.3178
	Cross River	0.1969		Kaduna	0.1155
	Delta	0.2222		Katsina	0.2351
	Edo	0.1568		Kano	0.153
	Rivers	0.1498		Kebbi	0.3968
				Sokoto	0.3333
		Jigawa	0.4413		
		Zamfara	0.3264		

## 2. 州別2乗貧困ギャップ比率

ゾーン	州	P2	ゾーン	州	P2
南西部	Ekiti	0.0479	北部中央	Benue	0.0691
	Lagos	0.22		FCT	0.0898
	Osun	0.0332		Kogi	0.3619
	Ondo	0.0694		Kwara	0.2778
	Ogun	0.0422		Nassarawa	0.0734
	Oyo	0.0244		Niger	0.1006
南東部	Abia	0.0424	北東部	Plateau	0.1082
	Anambra	0.0324		Adamawa	0.1768
	Ebonyi	0.0917		Bauchi	0.1676
	Enugu	0.0512		Borno	0.0891
	Imo	0.0373		Gombe	0.1568
南南部	Akwa Ibom	0.0843	北西部	Taraba	0.1022
	Bayelsa	0.0557		Yobe	0.1723
	Cross River	0.1039		Kaduna	0.0516
	Delta	0.1157		Katsina	0.1155
	Edo	0.0804		Kano	0.0778
	Rivers	0.084		Kebbi	0.2135
			Sokoto	0.1839	
			Jigawa	0.2643	
			Zamfara	0.1752	

### 3. 州別ジニ係数(2004)

州	ジニ係数	州	ジニ係数
南西部	Ekiti	北部中央	Benue
	Lagos		FCT
	Osun		Kogi
	Ondo		Kwara
	Ogun		Nassarawa
	Oyo		Niger
南東部	Abia	北東部	Plateau
	Anambra		Adamawa
	Ebonyi		Bauchi
	Enugu		Borno
	Imo		Gombe
南南部	Akwa Ibom	北西部	Taraba
	Bayelsa		Yobe
	Cross River		Kaduna
	Delta		Katsina
	Edo		Kano
	Rivers		Kebbi
			Sokoto
	Jigawa		
	Zamfara		
	全体		

#### 4. 州別格差指標

ゾーン	州	GDP per capita	HDI	Human Poverty Index	Inequality Measure
		(US\$)			
南西部	Ekiti	316.56	0.528	22.1	0.4
	Lagos	2,554.98	0.621	14.5	0.48
	Osun	183.07	0.48	22.1	0.5
	Ondo	1,688.34	0.594	23.9	0.5
	Ogun	247.28	0.471	24.5	0.5
	Oyo	280.29	0.484	21.9	0.5
南東部	Abia	407.75	0.53	21.9	0.3
	Anambra	163.14	0.441	22.8	0.4
	Ebonyi	197.68	0.418	34.3	0.4
	Enugu	307.67	0.505	28.6	0.4
	Imo	412.32	0.512	22.7	0.4
南南部	Akwa Ibom	3,813.01	0.624	27.1	0.34
	Bayelsa	5,388.02	0.613	32.5	0.4
	Cross River	604.58	0.55	31.9	0.4
	Delta	2,325.23	0.598	23.6	0.4
	Edo	327.62	0.481	21.7	0.4
	Rivers	5,210.69	0.639	22.8	0.5
北部中央	Benue	1,434.43	0.541	36	0.4
	FCT	10,208.50	0.717	21	0.64
	Kogi	147.01	0.422	34.4	0.46
	Kwara	320.21	0.44	33.3	0.47
	Nassarawa	1,226.65	0.51	38.5	0.48
	Niger	1,687.79	0.485	42.8	0.48
	Plateau	194.57	0.403	36.5	0.5
北東部	Adamawa	209.34	0.38	42.4	0.33
	Bauchi	166.82	0.305	48.8	0.4
	Borno	529.52	0.353	55.9	0.4
	Gombe	352.35	0.364	45	0.4
	Taraba	141.78	0.385	43.4	0.5
	Yobe	261	0.292	58	0.5
北西部	Kaduna	707	0.47	34.3	0.4
	Katsina	994.28	0.418	49.9	0.44
	Kano	683.76	0.447	43	0.4
	Kebbi	508.5	0.388	50.2	0.46
	Sokoto	1,488.98	0.489	40.5	0.5
	Jigawa	996.01	0.376	48.4	0.4
	Zamfara	1,585.21	0.434	42.6	0.51
全体	1,156.82	0.513	32.3	0.44027 (mean)	

5. 州別失業率

州	州	失業率	州	州	失業率
南西部	Ekiti	20.6	北部中央	Benue	8.5
	Lagos	19.5		FCT	21.5
	Osun	12.6		Kogi	19
	Ondo	14.9		Kwara	11
	Ogun	8.5		Nassarawa	10.1
	Oyo	14.9		Niger	11.9
南東部	Abia	14.5	北東部	Plateau	7.1
	Anambra	16.8		Adamawa	29.4
	Ebonyi	12		Bauchi	37.2
	Enugu	14.9		Borno	27.7
	Imo	20.8		Gombe	32.1
南南部	Akwa Ibom	34.1	北西部	Taraba	26.8
	Bayelsa	38.4		Yobe	27.3
	Cross River	14.3		Kaduna	11.6
	Delta	18.4		Katsina	37.3
	Edo	12.2		Kano	27.6
	Rivers	27.9		Kebbi	12
					Sokoto
			Jigawa	26.5	
			Zamfara	13.3	
			全体	19.7	

6.男性の教育達成度

市町村特性	教育未達成	初等教育		中等教育		中等教育以上	合計	就学完了 平均年数
		未完了	完了	未完了	完了			
居住地域								
都市	13.8	19.3	11	17.2	22.2	15.3	100	7.4
農村	35	21.9	12.3	14.1	10.5	5	100	2.8
居住ゾーン								
北央部	25.3	24.5	10.4	17.2	12.6	8.8	100	4.6
北東部	53.1	19.8	6.3	9.7	6	3.9	100	0
北西部	48.8	18.4	9.4	9.1	6.6	5.5	100	0
南東部	11.1	24	19.5	19.2	16.4	9	100	5.7
南南部	7.5	22.2	14.2	21.9	22	11.4	100	7.3
南西部	12.8	19.8	13.2	16.8	24	12.7	100	6.9
富裕の五分位								
最低層	62.4	16.7	8.8	7.1	2.9	0.5	100	0
第2層	41.6	23.5	12.4	12.3	6.9	1.7	100	1
中間層	23	26.9	14.2	18.1	12.2	4.4	100	4.9
第4層	11.2	21.9	14.4	19.9	21.2	10.3	100	6.3
最高層	4.4	16.3	9.4	17.4	27.5	24.1	100	11.1
合計	27.7	21	11.8	15.1	14.5	8.6	100	5.1

7. 女性の教育達成度

背景特性	教育未達成	初等教育		中等教育		中等教育以上	合計	就学完了 平均年数
		未完了	完了	未完了	完了			
居住地域								
都市	22	19.2	11.3	17.2	17.5	11.4	100	5.7
農村	48.9	18.7	10.6	10.8	6.5	2.5	100	0
居住ゾーン								
北央部	39.3	23.8	10.9	12.4	7.1	4.8	100	1.7
北東部	65.5	15.9	5.9	6.5	2.8	1.3	100	0
北西部	67.5	13.1	6.8	4.6	3.1	1.5	100	0
南東部	20.8	23.2	13.8	17.4	15.9	7.6	100	5.4
南南部	14.9	22	15.7	22.3	19.2	7.9	100	5.7
南西部	21.5	19.2	13.5	17.6	17.4	9.9	100	5.6
富裕の五分位								
最低層	74.4	12.3	6.1	3.8	0.9	0.1	100	0
第2層	58.6	19.2	9.7	7.5	2.4	0.3	100	0
中間層	39	23.4	13	14.1	7.1	1.4	100	1.9
第4層	20.9	21.6	15.1	19.1	16	5.8	100	5.4
最高層	8	17.6	10.1	19.8	24.1	19.4	100	9.2
合計	39.9	18.9	10.9	12.9	10.2	5.4	100	2.1

8. 処理済水道水供給率

州	2005	2006	2007	2008	州	2005	2006	2007	2008		
南西部	Ekiti	26.1	11.1	14.4	26.9	北部中央	Benue	6.8	1.7	2.2	0
	Lagos	48.7	46.4	12.8	8.4		FCT	33.1	25.6	14.4	10.6
	Osun	33.1	21.5	11.9	20.4		Kogi	8.8	9.6	10	6.9
	Ondo	6.4	6.5	0.5	0.5		Kwara	22.1	14.9	8.2	7.3
	Ogun	27.2	10.7	9.4	10.2		Nassarawa	7.5	9.8	14.3	14.6
	Oyo	13.2	11.6	11.4	9.4		Niger	16.4	13.3	16.1	13.2
南東部	Abia	1.5	0.6	0	1.3	Plateau	9.1	9.5	4	5.9	
	Anambra	0.8	7.9	3.1	0	Adamawa	0.9	1.7	6.4	2	
	Ebonyi	5.8	3.9	6.1	4.2	Bauchi	10.1	3.3	0.5	3.9	
	Enugu	18.3	9.2	14.9	12.4	Borno	6.3	1	4.8	4	
	Imo	9.7	1.6	4.9	1.3	Gombe	3.7	9.6	5.8	6	
南南部	Akwa Iborn	3.3	3	3.8	2.8	Taraba	1.8	0.4	1.2	0.8	
	Bayelsa	4.8	7.5	7.7	2	Yobe	19.1	3.4	2	1.8	
	Cross River	11.3	11.9	7.9	8.8	北西部	Kaduna	33.1	14.4	15	13.9
	Delta	3.1	6.1	5.4	3.3		Katsina	17.1	5	5.4	7.7
	Edo	1.1	2	4.1	4.1		Kano	16	2.5	9.6	12.3
	Rivers	7.1	7	3.1	10.7		Kebbi	8.8	3	5.4	5.2
					Sokoto		13.1	16	23.6	12.5	
					Jigawa		6.5	2.4	14.9	16.2	
					Zamfara	16.6	8.9	3.6	6.9		
					全体	12.7	-	8.1	7.7		



9. 飲料水整備環境

背景特性		家計公費			人公費		
		都市	農村	合計	都市	農村	合計
処理済	ボトル詰	6	0.4	2.4	4.4	0.3	1.6
	その他 <sup>注1</sup>	75.1	45.3	55.9	75.4	43.6	54.2
未処理	ボトル詰	0.9	0.2	0.5	0.7	0.1	0.3
	その他 <sup>注2</sup>	14.6	53.4	39.6	16.9	55.5	42.6
その他		3.3	0.7	1.7	2.7	0.5	1.2
合計		100	100	100	100	100	100

10. 電力供給環境

州	州	PHCNの分		電力供給なし		州	州	PHCNの分		電力供給なし	
		2007	2008	2007	2008			2007	2008	2007	2008
南西部	Ekiti	56.7	61	41.3	32.1	北部中央	Benue	15.7	22.8	78.6	72
	Lagos	67.3	57	0.2	0.3		FCT	36.6	38.3	31.3	26.9
	Osun	67.6	63.6	29.9	33.9		Kogi	52.1	39.5	43	48.1
	Ondo	58	50.3	29	41.9		Kwara	54.9	56.4	38.3	38.5
	Ogun	71.3	69.8	27.1	20.4		Nassarawa	27.7	21.3	63.6	70.6
Oyo	57.3	47.5	29.8	38.8	Niger		42.5	35.6	55.9	56.6	
南東部	Abia	44.5	45.7	33.8	31.1		Plateau	23.8	18.8	65.6	71.3
	Anambra	58	61.9	30.9	24.8		Adamawa	22.3	22.6	71.4	69.8
	Ebonyi	14.7	12.3	73.5	68.1		Bauchi	38.7	31.4	58.5	60.2
	Enugu	45.6	44.9	44.8	45.8		Borno	19.4	15.2	64.5	77.3
	Imo	68.5	69.5	20.8	12.6	Gombe	50.7	39.5	49.3	55.4	
南南部	Akwa Ibom	46.3	40.6	38.3	44.6	Taraba	3.7	2.8	91	88.8	
	Bayelsa	10.3	21.6	22.2	36.9	Yobe	16.2	18.1	82.9	78	
	Cross River	54.1	40.6	37.1	46.3	北西部	Kaduna	53.5	46.2	41.8	42.4
	Delta	62.7	56.8	30.2	29.6		Katsina	31	36.2	62	59.7
	Edo	80.7	77.7	16.9	15.2		Kano	59.6	42.6	39.6	56.2
Rivers	24.6	41	36.6	21.7	Kebbi		44.2	42.7	52.6	54.4	
					Sokoto		35.7	29.8	60.3	69.5	
					Jigawa		39.4	41.6	60	56.5	
					Zamfara		24.7	21.5	72.7	77.1	
					全体		47.3	40.4	41.4	48	

11. 州別の物価調整済貧困率(2004)

州	貧困率	州	貧困率
南西部	Ekiti	北部中央	Benue
	Lagos		FCT
	Osun		Kogi
	Ondo		Kwara
	Ogun		Nassarawa
	Oyo		Niger
南東部	Abia	北東部	Plateau
	Anambra		Adamawa
	Ebonyi		Bauchi
	Enugu		Borno
	Imo		Gombe
南南部	Akwa Ibom	北西部	Taraba
	Bayelsa		Yobe
	Cross River		Kaduna
	Delta		Katsina
	Edo		Kano
	Rivers		Kebbi
			Sokoto
	Jigawa		
	Zamfara		
	全体		

主要な政策文書一覧と入手先

No	Name of Document	Publisher	Year	Source
1	Poverty Profile for Nigeria	National Bureau of Statistics	2005	Hard copy
2	NEEDS	National Planning Commission	2004	<a href="http://siteresources.worldbank.org/INT/PRS1/Resources/Nigeria_PRS_P(Dec2005).pdf">http://siteresources.worldbank.org/INT/PRS1/Resources/Nigeria_PRS_P(Dec2005).pdf</a>
3	Nigeria Vision 20:2020	(National Planning Commission)	2009-10	<a href="http://www.npc.gov.ng/vault/vision%202020%20document/Nigeria_Vision_2020.docx">http://www.npc.gov.ng/vault/vision%202020%20document/Nigeria_Vision_2020.docx</a> <a href="http://www.npc.gov.ng/vault/files/NV2020-NIP-Volume-II-Original-document_edited_version3_10_06_2010.pdf">http://www.npc.gov.ng/vault/files/NV2020-NIP-Volume-II-Original-document_edited_version3_10_06_2010.pdf</a> <a href="http://www.npc.gov.ng/vault/files/NV2020-NIP-Volume-III-corrected-tables_june10-ver-2-2.pdf">http://www.npc.gov.ng/vault/files/NV2020-NIP-Volume-III-corrected-tables_june10-ver-2-2.pdf</a>
4	Millennium Development Goals Reports	National Planning Commission / Office of the Senior Special Assistant to the President on MDGs (OSSAP-MDGs)	2010	<a href="http://www.undp.org/africa/documents/mdg/nigeria_2010.pdf">http://www.undp.org/africa/documents/mdg/nigeria_2010.pdf</a>
5	National Policy on Integrated Rural Development	Federal Ministry of Agriculture and Rural Development	2001	Hard copy
6	New Agricultural policy Thrust	Federal Ministry of Agriculture and Rural Development	2001	Hard copy
7	National Strategic Health Development Plan (NSHDP) 2010-2015	Federal Ministry of Health	2010	Federal Ministry of Health
8	Roadmap for the Nigerian Education Sector	Federal Ministry of Education	2009	Hard copy
9	One Year Strategy for the Development of the Education Sector	Federal Ministry of Education	2010	Hard copy
10	Micro Finance Policy, Regulatory and Supervisory Framework for Nigeria	Central Bank of Nigeria	2005	<a href="http://www.cenbank.org/OUT/PUBLICATIONS/GUIDELINES/DFD/2006/MICROFINANCE%20POLICY.PDF">http://www.cenbank.org/OUT/PUBLICATIONS/GUIDELINES/DFD/2006/MICROFINANCE%20POLICY.PDF</a>
11	Guidelines for the Operations of the Micro Credit Fund	Central Bank of Nigeria	2008	<a href="http://www.cenbank.org/OUT/PUBLICATIONS/GUIDELINES/DFD/2008/MCF%20GUIDELINES.PDF">http://www.cenbank.org/OUT/PUBLICATIONS/GUIDELINES/DFD/2008/MCF%20GUIDELINES.PDF</a>
12	Regulatory Framework for Mobile Payments Services in Nigeria	Central Bank of Nigeria	2009	<a href="http://www.cenbank.org/OUT/CIRCULARS/BOD/2009/REGULATORY%20FRAMEWORK%20FOR%20MOBILE%20PAYMENTS%20SERVICES%20IN%20NIGERIA.PDF">http://www.cenbank.org/OUT/CIRCULARS/BOD/2009/REGULATORY%20FRAMEWORK%20FOR%20MOBILE%20PAYMENTS%20SERVICES%20IN%20NIGERIA.PDF</a>
13	National Child Policy	Federal Ministry of Women's Affairs	2007	Hard copy
14	National Policy on Rehabilitation of Persons with Disabilities (PWDs)	Federal Republic of Nigeria	n.a.	Hard copy



## 主要な統計調査一覧

No	Name of Suvey	Publisher	Year	Survey Cycle	Source
1	Nigeria living Standard Survey	National Bureau of Statistics	2004	5 year	Hard copy (not obtained)
2	Core Welfare Indicators Questionnaire (CWIO) Flyers	National Bureau of Statistics	2006	n.a.	<a href="http://www.nigerianstat.gov.ng/nbsapps/cwiq/2006/survey0/outputInformation/cwiqreports.html">http://www.nigerianstat.gov.ng/nbsapps/cwiq/2006/survey0/outputInformation/cwiqreports.html</a>
3	Social Statistics in Nigeria	National Bureau of Statistics	2009	5 year	<a href="http://www.nigerianstat.gov.ng/ext/latest_release/ssd09.pdf">http://www.nigerianstat.gov.ng/ext/latest_release/ssd09.pdf</a>
4	Agric Filling Data Gap	National Bureau of Statistics	2006	Irregular	<a href="http://www.nigerianstat.gov.ng/nbsapps/agric/agric_gap.zip">http://www.nigerianstat.gov.ng/nbsapps/agric/agric_gap.zip</a>
5	Building and Construction Statistics	National Bureau of Statistics	2007	Irregular	<a href="http://www.nigerianstat.gov.ng/nbsapps/nbszip/building.zip">http://www.nigerianstat.gov.ng/nbsapps/nbszip/building.zip</a>
6	CPI and Inflation	National Bureau of Statistics	2011	Irregular	<a href="http://www.nigerianstat.gov.ng/uploads/latestRelease/9d114d87e77fcc955c28cd9a75213bea7931480.pdf">http://www.nigerianstat.gov.ng/uploads/latestRelease/9d114d87e77fcc955c28cd9a75213bea7931480.pdf</a>
7	Labor Force Survey	National Bureau of Statistics	2010	Annual	<a href="http://www.nigerianstat.gov.ng/ext/latest_release/LabourForcestat.pdf">http://www.nigerianstat.gov.ng/ext/latest_release/LabourForcestat.pdf</a>
8	Price Statistics	National Bureau of Statistics	2006	Irregular	<a href="http://www.nigerianstat.gov.ng/nbsapps/nbszip/retail.zip">http://www.nigerianstat.gov.ng/nbsapps/nbszip/retail.zip</a>
9	National Account of Nigeria	National Bureau of Statistics	2007	Irregular	<a href="http://www.nigerianstat.gov.ng/nbsapps/naccounts/naccounts.zip">http://www.nigerianstat.gov.ng/nbsapps/naccounts/naccounts.zip</a>
10	The Middle Class in Nigeria, Analysis of Profile, Determinants and Characteristics	National Bureau of Statistics	2007	Irregular	<a href="http://www.nigerianstat.gov.ng/nbsapps/Connections/poverty/Middle%20Class.zip">http://www.nigerianstat.gov.ng/nbsapps/Connections/poverty/Middle%20Class.zip</a>
11	Demographic and Health Survey	National Population Commission	2009	5 year	<a href="http://pdf.usaid.gov/pdf_docs/PNADQ923.pdf">http://pdf.usaid.gov/pdf_docs/PNADQ923.pdf</a>
12	Population and Housing Census of the Federal Republic of Nigeria	National Population Commission	2009	5 year	Hard copy
13	Statistics of Education in Nigeria: 1999-2005	Federal Ministry of Education	2007	n.a.	Hard copy
14	Human Development Indicator	UNDP	2010	As needed	<a href="http://hdrstats.undp.org/en/countries/profiles/NGA.html">http://hdrstats.undp.org/en/countries/profiles/NGA.html</a>
15	Human Development Report	UNDP	2010	Annual	<a href="http://hdr.undp.org/en/reports/global/hdr2010/chapters/">http://hdr.undp.org/en/reports/global/hdr2010/chapters/</a>
16	Country Health Statistical Report Nigeria	USAID	2009	Irregular	<a href="http://pdf.usaid.gov/pdf_docs/PNADR598.pdf">http://pdf.usaid.gov/pdf_docs/PNADR598.pdf</a>
17	Migration in Nigeria	IOM	2009	Irregular	<a href="http://www.iomdakar.org/profiles/sites/default/files/Niger_Profile_2009.pdf">http://www.iomdakar.org/profiles/sites/default/files/Niger_Profile_2009.pdf</a>
19	The State of African Cities	UN-HABITAT	2010	2 year	<a href="http://www.unhabitat.org/documents/SACR-ALL-10-FINAL.pdf">http://www.unhabitat.org/documents/SACR-ALL-10-FINAL.pdf</a>
20	World Governance Indicator	World Bank	2010	As needed	<a href="http://info.worldbank.org/governance/wgi/index.asp">http://info.worldbank.org/governance/wgi/index.asp</a>
21	African Economic Outlook	AfDB	2010	Annual	<a href="http://www.africaneconomicoutlook.org/en/countries/west-africa/nigeria/">http://www.africaneconomicoutlook.org/en/countries/west-africa/nigeria/</a>

ナイジェリアにおける主要なマイクロファイナンス機関一覧

No	Name of MFI	Address	Contact Number/email	Website	Service, Coverage, Donor Cooperation	Remarks
1	AMFB (Accion Microfinance)	ELIZADE PLAZA 4th Floor, 322A Ikorodu Road Anthony, Ikeja, Lagos	Tel: 01 2719325-6, Fax: 01 2719327	<a href="http://www.accionmfb.com">http://www.accionmfb.com</a>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• AMFB's mission is to economically empower micro-entrepreneurs and low income earners by providing financial services in a sustainable, ethical and profitable manner.</li> <li>• Provides various services including:               <ul style="list-style-type: none"> <li>- Account for accumulating individual and family savings.</li> <li>- Savings account for transaction purposes for individuals/entrepreneurs</li> <li>- Transaction account designed for small and medium sized sole entrepreneurs</li> <li>- Socially responsible fixed deposit account.</li> <li>- Loan facility targeting micro and small businesses</li> <li>- Consumer loan</li> <li>- Wholesale micro finance product</li> </ul> </li> <li>• 10 branches in Lagos</li> <li>• 7,660 borrowers</li> <li>• Partnership with IFC</li> </ul>	International
2	CGEE (Centre for Grassroots Economic Empowerment)	1, JDPC Street, GRA, P.O.BOX 1923 Ijebu Ode Ogun State 120001 Nigeria	Tel: +234 8054199600 <a href="mailto:cggeemfi_2006@yahoo.com">cggeemfi_2006@yahoo.com</a>	N/A	<ul style="list-style-type: none"> <li>• CGEE started as a savings and credit scheme under the justice development and peace commission of Ijebu Ode Catholic diocese in 1994.</li> <li>• Provides loans, voluntary savings, training &amp; consulting</li> <li>• 51,129 borrowers</li> </ul>	
3	DEC (Development Exchange Centre)	5 Kaduna Road Bauchi, BA Nigeria	Tel: 234-77-542036 Fax: 234-77-541884	N/A	<ul style="list-style-type: none"> <li>• DEC started operating in 1987 as a center for the acquisition of skills and knowledge exchange of ideas and best practices between vulnerable women and several development agencies.</li> <li>• Primarily focused on social services to the local communities, DEC started to offer micro-loans to its</li> </ul>	



						<ul style="list-style-type: none"> <li>clients in the early nineties</li> <li>Nowadays, DEC is working with around 600 local communities in 10 states of Nigeria, primarily in rural areas.</li> <li>69,289 Borrowers</li> <li>LAPO is a microfinance institution with focus on rural and urban poor women</li> <li>Its mission is to "achieve the goal of economic empowerment of its target group through access to affordable financial services delivered in a cost effective and innovative manner".</li> <li>171 branches</li> <li>195,016 borrowees</li> </ul>	
4	LAPO-NGR (Life Above Poverty Organization)	Plot 6 S&T Barracks Road Benin City Edo State Nigeria	Tel: +234 52 600 756 Fax: +234 52 600 756 <a href="mailto:lapobn@yahoo.co.uk">lapobn@yahoo.co.uk</a>	<a href="http://www.lapo-ng.org">www.lapo-ng.org</a>		<ul style="list-style-type: none"> <li>SEAP started in 1998 without any Grant/Donation but loans and personal contributions.</li> <li>In 2000, it received a UNDP/MSP Grant.</li> <li>Mainly focused on a group methodology, SEAP manages 116,808 borrowers, operating within the central-western region of Nigeria</li> <li>Established 1964</li> <li>The mandate of developing new industrial enterprises and expanding existing ones through the provision of medium and long term loans and equity participation.</li> </ul>	Anyanwu (2004) p.10
5	SEAP (Self-Reliance Economic Advancement Program)	No. 30 Western Reservoir Road Olorunshogo, Ilorin PO Box 4065 Kwara Nigeria	Tel: 234 02 411 350 <a href="mailto:seapilorin@yahoo.com">seapilorin@yahoo.com</a>	N/A		<ul style="list-style-type: none"> <li>Established 1973</li> <li>To provide funding to small and medium scale enterprises</li> </ul>	Anyanwu (2004) p.10
6	The Nigerian Industrial Development Bank (NIDB)	N/A	N/A	N/A		<ul style="list-style-type: none"> <li>Established 1973 to promote the development of the agricultural sector in which most of the operators are micro enterprises</li> </ul>	Anyanwu (2004) p.10
7	Nigerian Bank for Commerce and Industry (NBCI)	N/A	N/A	N/A			
8	Nigerian Agricultural and Cooperative Bank (NACB)	PMB 21555, Yakubu Gowan Way, Kaduna, Nigeria (0234 062 244417, 234 062 244612	N/A	<a href="http://www.nacrbank.com">http://www.nacrbank.com</a>			

9	Federal Mortgage Bank of Nigeria (FMBN)	PMB 2273, Plot 266 Cadastral Zone A0, Central Business District, Abuja, Nigeria 0234 09 234 4212, 234 09 234 4123	N/A	<a href="http://www.fmbnigeria.org">http://www.fmbnigeria.org</a>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Established in 1977, with the mandate to provide funding for residential and other housing needs of individuals and corporate organizations.</li> </ul>	Anyanwu (2004) p.10
10	Fortis Microfinance Bank Limited	Plot 2135, Herbert, Macualay Way Wuse Zone 5, Abuja Tel./Mobile: +2347030000321,+234(9)7802875	N/A	<a href="http://www.fortisfb.com/">http://www.fortisfb.com/</a>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Fortis Microfinance Bank Limited, licensed to operate as Microfinance Bank in October 2007 by the CBN, has the goal of meeting the high demand for microfinance banking services by providing flexible banking solutions to support the development of entrepreneurship and empowerment of the economically disadvantaged, micro, small and medium scale enterprises (MSME).</li> </ul>	website
11	SPLENDID Microfinance Bank Limited	75, Aguiyi Ironsi Street Maitama District, Abuja. TEL +234 (0)9 460 2659   (0)9-460 2656   (0)9 461 9694 Fax: +234 (0)9 460 2612 Email <a href="mailto:splendid@splendidmicrofinancebank.com">splendid@splendidmicrofinancebank.com</a> <a href="mailto:info@splendidmicrofinancebank.com">info@splendidmicrofinancebank.com</a>	N/A	<a href="http://www.splendidmicrofinancebank.com/home.php">http://www.splendidmicrofinancebank.com/home.php</a>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Established in 2008, the Bank commenced business as a fully licensed microfinance bank with a shareholders fund in excess of \$1.4 million. The Bank focuses to provide creative solutions to the business problems of people at the bottom of the pyramid who though economically active, have no access to financial services.</li> <li>Share Capital - \$1.4 Million</li> <li>Balance Sheet - \$2.2 Million</li> <li>Loan Portfolios - \$0.7 Million</li> </ul>	website
12	The Lagos State Micro Finance Institution (LASMI)	N/A	N/A	<a href="http://www.lagosmicrofinance.org/agencybanks.html">http://www.lagosmicrofinance.org/agencybanks.html</a>	<ul style="list-style-type: none"> <li>LASMI has 5 microfinance banks and 3 senatorial districts listed below.</li> <li>Empowered by the State Government, is partnering initially with five Micro Finance Banks</li> </ul>	LASMI website
12 -1	Integrated Micro-Finance Bank	64, Adeniyi Jones Avenue, Ikeja, Lagos.	N/A	<a href="http://www.imfb-bank.com">www.imfb-bank.com</a>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Committed to economically empower the poor, through innovative products and highly motivated workforce</li> </ul>	website



		info@imfb-bank.com				<ul style="list-style-type: none"> <li>while remaining socially responsible.</li> <li>Gross Earnings N1,390,369,000</li> <li>Profit before pre-ops expenses N316,463,000</li> <li>Profit after taxation retained year N205,936,000</li> </ul>	
12-2	GapBridge Micro-Finance Bank	15A, Oko-Awo Street, Victoria Island, Lagos. enquiries@gapbridgemb.com	N/A	www.gapbridgemb.com	<ul style="list-style-type: none"> <li>According to the research reports from CBN, less than 2% of the rural community has access to small business owners need for micro credit.</li> <li>Established in 2007 as a specialized financial institution dedicated to providing financial services to micro, small and medium enterprises (MSMEs) and emerging businesses looking for opportunities to increase their potential for success, the bank also aims to render payment services such as salaries, gratuities and pensions for various segments of the market, in addition to providing services to the MSMEs</li> </ul>	website	
12-3	MIC Micro-Finance Bank	10, Allen Avenue, Ikeja, Lagos. info@microfinancegroup.com	N/A	www.microfinancegroup.com	N/A	LASMI website	
12-4	LASU Micro-Finance Bank	LASU Campus, Lagos/Badagry Express Road, Ojo, Lagos.	N/A	N/A	N/A	LASMI website	
12-5	Ojokoro Micro-Finance Bank	558, Lagos/Abeokuta Expressway, Ijaiye, Ojokoro, Lagos. omfbplc@yahoo.com	N/A	www.ojokoromb.com	N/A	LASMI website	
12-a	Infinity Micro-Finance Bank	580, Ikoroku Road, Kosofe, Mile 12, Lagos. info@infinitymicrofinancebankng.com	N/A	www.infinitymicrofinancebankng.com	N/A	LASMI website	
12-b	GS Micro-Finance Bank	1, Kudirat Abiola Way, Ikeja, Lagos. segun.adaju@gsmicrofinancebank.com	N/A	http://www.gsmicrofinancebank.com/	N/A	LASMI website	

12 -c	Townserve Micro-Finance	26, Gbasemo Street, Aga, Ikorodu, Lagos. townservemicrofinance bank@yahoo.com	N/A	N/A	N/A	LASMI website
----------	----------------------------	--	-----	-----	-----	------------------

出所: Anyanwu (2004) Microfinance Institutions in Nigeria: Policy, Practice and Potentials, paper Presented at the G24 Workshop on "Constraints to Growth in Sub Saharan Africa," Pretoria, South Africa, November 29-30, 2004 <http://www.g24.org/anyanwu.pdf>  
 他、各機関のウェブサイトをより作成。

ナイジェリアにおける NGO・市民社会組織一覧（一部）

No.	Name of NGO/CSO	Contact Person	Address	Website	Activity	Remarks
1	ActionAid	Ms. Ifeoma Charles-Monwuba, Deputy Country Director/Head of Programmes Ms. Constance Okete, Programme Officer Ms. Patience Ekeoba, Women's Rights Advisor	2nd Floor, NAIC House Plot 590 Cadastral Zone Central Business District PMB 1890, Garki, Abuja Nigeria Tel: +234 9 627 0480/2 +234 9 461 8655 Fax: +234 9 461 8656 info.nigeria@actionaid.org	<a href="http://www.actionaid-nigeria.org/index.php?page=1">http://www.actionaid-nigeria.org/index.php?page=1</a> <a href="http://www.oxfam.org.uk/resources/countries/nigeria.html">http://www.oxfam.org.uk/resources/countries/nigeria.html</a>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Education, Strengthening Civil Society engagement in education Planning and Management Action Research on Fast Track Initiative, Cost of Education, Promoting Community participation in school management Reflect approach to literacy</li> <li>HIV/AIDS, promoting Sexual &amp; Reproductive Health &amp; HIV/AIDS Reduction in Nigeria, Strengthening the National Response to HIV/AIDS, Adolescents Right to Know Stepping Stones</li> <li>Conflict Management and Peace Building and Conflict Analysis and Conflict Management Early warning signals Peace Building</li> <li>Governance and Macro Economic Issues.</li> <li>Gender and Womens Rights Promotion of Gender Equity and Women Empowerment Gender Analysis of Policies and Programmes</li> </ul>	International
2	Christian Aid	Mr. Usie Charles Emmamuzou, Senior Programme Officer Mr. Ufuoma Festus Omo-Obi, Senior Programme Officer Mr. Lucky Palmer, Senior Programme Officer Ms. Emmanuel Chenge, Business System Manager	Labor House 6 <sup>th</sup> Floor Central Area, Abuja Tel: +234-09-4601900-2 Mobile: +234-802-651-0434 Email: echenge@christian-aid.org chenge10@yahoo.com	<a href="http://www.christianaid.org.uk/whatwedo/africa/nigeria.aspx">http://www.christianaid.org.uk/whatwedo/africa/nigeria.aspx</a>	<ul style="list-style-type: none"> <li>To help communities challenge Nigerian corruption at local level, forcing officials to be accountable and transparent.</li> <li>To support 12,000 orphans and other HIV affected children with trauma counselling, health education, life skills development and livelihood programmes.</li> </ul>	International
3	Oxfam	Mr. Sebastian Tiah, Country Director		<a href="http://www.oxfam.org.uk/resources/countries/nigeria.html">http://www.oxfam.org.uk/resources/countries/nigeria.html</a>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Strengthening the livelihoods of small-scale farmers</li> <li>Advocacy and campaigning on the rights of small-scale farmers</li> <li>Emergency response and disaster risk reduction</li> <li>Raising Her Voice</li> <li>Climate Change adaptation work</li> <li>Engaging with government.</li> </ul>	International
4	Action Health Incorporated		17, kawal Street, Off Oweh Street, Fadayi,	<a href="http://www.actionhealthinc.org/">http://www.actionhealthinc.org/</a>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Advocating for action on adolescents' needs and access to care with policy makers, parents and community</li> </ul>	N/A



(AHI)	Lagos +234-1-7743745 info@actionhealthinc.org		<ul style="list-style-type: none"> <li>Increasing access to comprehensive sexuality education, peer education and counselling, to enable adolescents make healthy and responsible decisions about their sexuality.</li> <li>Promoting access to resource materials, including adolescent health journals, books, on-line databases and video films.</li> <li>Providing reproductive healthcare services specifically designed for adolescents, as well as referrals to adolescent-friendly institutions for further care.</li> <li>Creating opportunities for the empowerment of adolescents through the acquisition of vocational skills that include public-speaking, computer operations and film production training.</li> <li>Improving the capacity of other youth-serving organizations in adolescent health programming through trainings and provision of necessary technical assistance.</li> <li>Collaborating /networking with identified agencies to share resources and promote our issues.</li> </ul>	
5	Alliance for Africa (AfA)	29 Norman Williams Crescent Off Keffi Street South-West Ikoyi Lagos, Nigeria. Tel: +234 1 7615407 Email: afa@alliancesforafrica.org	<ul style="list-style-type: none"> <li>To protect human rights, peace and sustainable development organization</li> <li>To enhance and reconstruct the interface between human rights and development with a vision to contributing innovatively to the task of tackling causes of endemic poverty and exclusion in Africa.</li> </ul>	UK
6	BAOBAB for Women's Human Rights	76, Ogudu Road, Ojota, Lagos P. O. Box 73630, Victoria Island, Lagos Tel: 234 1 4747931, 01-8980834 Tel/Fax: 234 1 4962302 Mobile: 234 (0) 802 333 0981 Emails:baobab@baobabwomen.org baobabwomen@yahoo.com	<ul style="list-style-type: none"> <li>To focuses on women's legal rights issues under the three 3 systems of law - customary, statutory and religious laws in Nigeria.</li> <li>The organization evolved from an ad hoc group of activists, social scientists, lawyers, and specialists in Muslim laws and Arabic who were responsible for executing the Women and Laws Nigeria project, under the auspices of the International Solidarity Network.</li> </ul>	Local
7	The Federation of Business and Professional	Head Office: Club Arcade, Annex 7, Tafawa Balewa Complex,	<ul style="list-style-type: none"> <li>BPW is a pressure group, and opinion-making group, non-partisan, not for profit and non-sectarian. It is one of the world's largest organised networks of business and</li> </ul>	International

8	Women		<p>Onikan, Lagos. Telephones: +234-1-8920997, 08023372585 E-mail: info@bpwnigeria.org</p> <p>55, Aba Johnson Crescent, Off Adeniyi Jones Avenue, Ikeja, Lagos Nigeria Telephone: +234 1 496 6011-3, 1 898 0164 Mobile: +234 802 333 1045 Fax: +234 1 496 6012 Email: info@cfcnigeria.org</p>		<p>professional women in the world. It actively promotes women into decision-making positions.</p>	
9	Communication for Change		<p>3b Allen Lane, off Allen Avenue, Ikeja, Lagos foundationforskillsdevt@yahoo.com</p>	<p><a href="http://www.cfcnigeria.org/default.asp?p=Home">http://www.cfcnigeria.org/default.asp?p=Home</a></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Raising Awareness of environment and development issues</li> </ul>	N/A
10	Foundation for Skills Development		<p>Heinrich Böll Foundation Nigeria 16 A, Oladipo Diya Street 2nd Avenue Extension Estate (opp. Dolphin), Ikoyi, Lagos PO Box 60046, Alagbon Close, Ikoyi, Lagos Ph: 01-7612353 GSM: 08078190860 E-mail: info@boellnigeria.org</p>	<p><a href="http://foundationfor skillsdevelopment.com/">http://foundationfor skillsdevelopment.com/</a></p> <p><a href="http://www.boellnigeria.org/">http://www.boellnigeria.org/</a></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Empowering unemployed persons with vocational and technical skills to become self employed</li> </ul>	Local
11	The Heinrich Böll Foundation, Nigeria		<p>Hakimi Street, Yadi Dutse, Jigawa +234-(0)80346644048 +2348036529573 sitaura69@hotmail.com jigawayouths@gmail.com</p>	<p><a href="http://www.jigawayouths.4t.com/">http://www.jigawayouths.4t.com/</a></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Since 1994 and established a Nigeria Country Office in Lagos in May 2002, there are programs on women's rights, democracy, sustainability and conflict management form the core of the Foundation's work in Nigeria.</li> </ul>	Germany
11	Jigawa Youth Vanguard				<ul style="list-style-type: none"> <li>• Jigawa youth vanguard is a conglomerate of youth organizations, educated and enlightened within Jigawa state-Nigeria that decided to associate, unite in a Nongovernmental Organization(NGO) and mobilize youth under a common frontier for the purpose of uplifting the standard of teaming populace-children,male and female.</li> </ul>	Local



			<a href="mailto:secretary@jigawavouths.org">secretary@jigawavouths.org</a>			within the state, promoting the spirit of oneness, progress and generational changes under sound and purposeful democratic ideals.	
12	LEAP Africa		13 Omorinre Johnson Street Off Admiralty Way, Lekki Phase 1, Lagos, Nigeria. Email: info@leapafrika.org Telephone: +234 1 2706541/2		<a href="http://www.leapafrika.org/">http://www.leapafrika.org/</a>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• LEAP is a non profit organization, which provides leadership training programmes and executive coaching services for business owners, social entrepreneurs and youth cultivating leadership skills.</li> <li>• LEAP also invests in continuous research on leadership development in Africa.</li> </ul>	Local
13	New Era Educational and Charitable Support Foundation (NEEDCSI)		New Era Educational and Charitable Support Foundation, RABO HOUSE, No.1 Mazaram Road Junction, Rayfield P.O.BOX 6451 Jos-Plateau State Nigeria West Africa Email: info@needcsi.org Phone: +234-(0) 8052627310		<a href="http://www.needcsi.org/index.php">http://www.needcsi.org/index.php</a>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• NEEDCSI commits the revival of human values that transcend religious, ethnic and cultural differences. These values include a sense of belonging to a common humanity, respect and consideration for all people, compassion and non-violence, a commitment to preserving the natural environment, and a social service ethic.</li> </ul>	USA
14	Pro-Natua International (Nigeria)		37 Onne Rd P.O. Box 7790 Port Harcourt Nigeria PH: +234 (0) 84 462510 Fax: +234(0) 84 232748		<a href="http://www.pronatua-nigeria.org/splash/">http://www.pronatua-nigeria.org/splash/</a>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Pro-Natua International advocates that in the absence of good governance, an effectively implemented community led development process is the only viable vehicle for sustainable development, conflict resolution and economic improvement for poor and marginalised communities in the Niger Delta and elsewhere.</li> </ul>	Local
15	Trans-Border Missionaries Interface Initiative (TMII)		36 Ekere Street, Rumuobiakani, Port-Harcourt, Rivers State. Phone +234 8033345683 Mobile +234 8023251655 helpdesk@tmiinigeria.org		<a href="http://www.tmiinigeria.org/">http://www.tmiinigeria.org/</a>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• TMII is a pro-democracy, and rights based non-profit organization which seeks to spread democratic values and principles as well as promote the protection and respect for Environmental, Social and Economic Rights. As a research, training organization, we combat impunity as well as poverty and its principal dimensions while at the same time, strive to build result-driven linkages between human rights and other areas as corporate social responsibility, peace-building, governance, and development issues. Our departmental teams boast of</li> </ul>	Local



16	Visions for Nigeria Foundation	Suite A21 Shakir Plaza Michika Street, Off Ahmadu Bello Way P.O. Box 12001, Garki Area 11, Garki – Abuja, Nigeria. Tel: +234-804-418-4255, +234-803-3145-352, +234-702-5320-667, +234-702-5320-666 Email: info@visionsnigeria.org	<a href="http://www.visionsnigeria.org/">http://www.visionsnigeria.org/</a>	<p>members who have been involved in national and international advocacy programs.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Visions for Nigeria Foundation (a Nigeria development charity) is a nonprofit, Non-Governmental Organization that works through volunteers to implement programs that provide all social groups notably youths, women, children and rural communities with tools they need for sustenance. Most of our work is centered on achieving the Millennium Development Goals (MDGs).</li> <li>• Visions for Nigeria Foundation believes that Nigeria can achieve better results, if the civil society is given priority in the development agenda and also carried along in the development process.</li> </ul>	Local
17	Women Aid Collective (WACOL)	Head Office N0.9 Umuezebi Street Upper Chime, New Haven, Enugu. P.O.BOX 2718 Enugu State, Nigeria.Tel: +234-0704-761-828 +234-0704-761-845 Fax 234-42-256831 E-mail wacolenugu@wacolnigeria.org wacolnig@yahoo.com	<a href="http://www.wacolnigeria.org/">http://www.wacolnigeria.org/</a>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• To assist in the educational, social, economic and political development of women and young people through a wide range of services: training , research, advocacy, shelter, legal and financial aid, intra-familial conflict resolution, information and library services.</li> </ul>	Local
18	Women Development International Association (WODIA)	WODIA Training Institute (WOTTI), The Boat House, 21, Ogunnusi Road, Ogba, Ikeja, Lagos. Email: support@thewodia.org Telephone: 234 (0)8023079485; 234 (0) 8133754358; 234 (0) 1 732 9202; 234 1 8710 980	<a href="http://www.thewodia.org/">http://www.thewodia.org/</a>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Women Development International Association (WODIA) is a NGO registered in Nigeria with the objective of enhancing the status of women and promoting accessibility of services without financial, cultural , geographical and other barriers.</li> <li>• WODIA defends human rights and has implemented various programs that have led to the health improvement and poverty reduction of several women and the underprivileged members of the society. These included the elderly, the disabled, youths, widows, unemployed and other marginalized members of the community.</li> </ul>	Local
19	Women in Management and Business (WIMBIZ)	Suite A3, Falomo Shopping Complex Awolowo Road, Ikoyi, Lagos, Nigeria.	<a href="http://www.wimbiz.org/">http://www.wimbiz.org/</a>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• To improve the success rate of female entrepreneurs and increase the proportion of Women in senior positions in corporate organization.</li> </ul>	Local

		Telephone/Fax: 234 1 734 8373 Mobile: +234 803 4WIMBIZ (94 6249)			• WOMEN IN TECHNOLOGY IN NIGERIA (WITIN), transforms women through technologically driven programs to attain self independence and fulfillment. WITIN employs ICT together with contribution of women with expert knowledge in the field; to promote socio-economic empowerment of women and address equity issues with regard to gender, disadvantaged groups as well those in rural and under-served communities.	Local
20	Women in Technology in Nigeria (WITIN)	16 Ogunlana Drive Surulere, Surulere LGA, Lagos +234-0-7029881637 info@witin.org	<a href="http://www.witin.org/">http://www.witin.org/</a>			

出所：各機関ウェブサイトより作成。



ナイジェリアにおける開発関連の研究機関一覧（一部）

No.	Name of Organization	Address	Activities
1	Centre for Management Development	Private Mail Bag 21578 Ikeja Nigeria Telephone +234 1 774 8165 Fax +234 1 497 8390	Public institution capacity
2	Federal Institute of Industrial Research (FIIRO)	PMB 21023, Ikeja Lagos Nigeria Telephone +234 1 452 2905 Fax +234 1 452 5880 <a href="http://www.fiiro-ng.org/">http://www.fiiro-ng.org/</a>	To assist in accelerating the industrialization of Nigerian economy through finding industrial utilization for the country's raw materials and upgrading indigenous production techniques.
3	Forestry Research Institute of Nigeria (FRIN)	Private Mail Bag 5054, Ibadan Oyo State Nigeria Telephone +234 2 413 327 Fax +234 2 410 51 <a href="http://www.frin.gov.ng/">http://www.frin.gov.ng/</a>	To conduct research into all aspects of forestry and forest products utilization and for the training of technical and sub technical personnel for the forestry services in the country.
4	Institute for Agricultural Research (IAR) Ahmadu Bello University	PMB 1044, Samaru Zaria 810261 Nigeria Telephone +234 69 551 335 <a href="http://www.abu.edu.ng/institutes/iar/iar.htm">http://www.abu.edu.ng/institutes/iar/iar.htm</a>	IAR has been conducting crop research and improvement/development in the savanna region of Nigeria.
5	Institute of Agricultural Research and Training (IART) Obafemi Awolowo University	Moor Plantation, PMB 5029, Ibadan Oyo State Nigeria Telephone +234 2 231 2523 Fax +234 2 231 6857 <a href="http://iartng.org/">http://iartng.org/</a>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Soil and Water Management Research.</li> <li>• Genetic improvement of maize, kenaf and jute.</li> <li>• Farming Systems Research and Extension in the South West zone</li> <li>• Joint National Co-ordinator for Nationally Co-ordinated Research Project (NCRP) on Soybean and Livestock Research with particular reference to small ruminants - (goats and sheep), pigs and poultry.</li> </ul>
6	Lake Chad Research Institute (LCRI)	Malamfatori, PMB 1293, Maiduguri Borno State Nigeria Telephone +234 76 232 106 Fax +234 76 923 441	Agricultural Research Institutes
7	Nigerian Institute of Social and Economic Research	PMB 5, University Post Office Ibadan Nigeria Telephone +234 2 810 2904 Fax +234 2 810 1194	Social and Economic Research
8	Nigerian Educational Research Council	PO Box 8058 Lagos Nigeria	Educational research
9	Social Sciences Academy of Nigeria	PO Box 8026 Abuja Nigeria Telephone +234 9 521 2061 <a href="http://www.ssanigeria.org/">http://www.ssanigeria.org/</a>	A non-governmental and not-for-profit research institution with a mandate to harness and develop the capacity of Nigerian social scientists as well as promote the advancement of social science knowledge.

出所：各機関ウェブサイトより作成。



## 参考文献、ウェブサイト一覧

### <ウェブサイト>

ECOWAS Revised Treaty, article35'Liberization of Trade' and article36'Custom Duties'

<http://www.worldtradelaw.net/fta/agreements/ecowasfta.pdf>

FAO, Country Profile Food Security Indicator, Nigeria

[http://www.fao.org/fileadmin/templates/ess/documents/food\\_security\\_statistics/country\\_profiles/eng/Nigeria\\_E.pdf](http://www.fao.org/fileadmin/templates/ess/documents/food_security_statistics/country_profiles/eng/Nigeria_E.pdf)

FAOSTAT, Nigeria

<http://faostat.fao.org/desktopdefault.aspx?pageid=342&lang=en&country=159>

IDA at work: Nigeria

<http://web.worldbank.org/WBSITE/EXTERNAL/EXTABOUTUS/IDA/0..contentMDK:22289452~pagePK:51236175~piPK:437394~theSitePK:73154.00.html>

NHIS web page <http://www.nhis.gov.ng/index.php>

OECD DAC, DAC Statistics [www.oecd.org/dac/stats](http://www.oecd.org/dac/stats)

Perry-Castaneda Library Map Collection <http://www.lib.utexas.edu/maps/nigeria.html>

Trade website-Trade Statistics-Nigeria

[http://trade.ec.europa.eu/doclib/docs/2006/september/tradoc\\_113427.pdf](http://trade.ec.europa.eu/doclib/docs/2006/september/tradoc_113427.pdf)

[http://trade.ec.europa.eu/doclib/docs/2006/september/tradoc\\_113427.pdf](http://trade.ec.europa.eu/doclib/docs/2006/september/tradoc_113427.pdf)

USAID/Nigeria <http://nigeria.usaid.gov/index.php>

U.S. Energy Information Administration (EIA) Nigeria

<http://www.eia.doe.gov/cabs/Nigeria/Background.html>

World Bank, World Databank <http://databank.worldbank.org/ddp/home.do>

World Bank, Nigeria Country Assistance Strategy (CAS)

<http://web.worldbank.org/WBSITE/EXTERNAL/COUNTRIES/AFRICAEXT/NIGERIAEXTN/0..menuPK:368909~pagePK:141132~piPK:141105~theSitePK:368896.00.html>

日本貿易振興機関(JETRO)ウェブサイト:WTO・他協定加盟状況 ナイジェリア

[http://www.jetro.go.jp/world/africa/ng/trade\\_01/](http://www.jetro.go.jp/world/africa/ng/trade_01/)

外務省ウェブサイト:西アフリカ諸国経済共同体(ECOWAS)

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/africa/ecowas.html>

### <英文>

Action Aid Nigeria (2009) Hunger against Plenty: Studies on aspects of the Food Crisis in Nigeria

Central Bank of Nigeria (2005) *Micro Finance Policy, Regulatory and Supervisory Framework for Nigeria*, Dec. 2005.

Central Bank of Nigeria (2008) *The Nigerian Microfinance Newsletter*, Vol.6, Jan-Jun. 2008.

Central Bank of Nigeria, "Guidelines for the Operations of the Micro Credit Fund," Feb. 2008.

Chami, Barajas, Cosimano, Fullenkamp, Gapen and Montiel (2008), *Macroeconomic Consequences of Remittance*, IMF Occasional Paper 259

CILSS/FAO/FEWSNET/SIMA/WFP Joint Market Assessment Mission to Benin, Niger and Nigeria (2008) *Special Report; Markets, Prices, Food Situation and Prospects for Benin, Niger and Nigeria*

CGAP (2009) *Access to Finance in Nigeria*

Corporate Guide International (2010) *Corporate Nigeria 2010/2011*

DFID (2006) *Evaluation of DFID's Policy and Practice in Support of Gender Equality and Women's Empowerment Country Case Studies Volume II India Nigeria Western Balkans*

Federal Republic of Nigeria (2009) *Social Statistics in Nigeria*

Federal Republic of Nigeria (2009) *Nigeria Vision 20:2020 The 1st NV20:2020 Medium Term Implementation Plan (2010-2013) Volume I:*

Federal Republic of Nigeria (2010) *the Vision and Development Priorities (Draft), May 2010*

House of Commons, International Development Committee (2009) *DFID's Programme in Nigeria, eighth Report of session 2008-2009 Volume I*

IMF (2007) *Progress Report on the National Economic Empowerment and Development Strategy (NEEDS)*

International Organization for Migration; IOM (2009) *Migration in Nigeria; a country profile 2009*

IMNCH (2009) *Communication for Behaviour and Social Change Strategy*

Jongwanich, J (2007), *Worker's Remittances, Economic Growth and Poverty in Developing Asia and the Pacific Countries*, UNESCAP Working Paper WP/07/01

Millennium Development Goals (2010) *Nigeria Millennium Development Goals report 2010*

National Bureau of Statistics (2005) *Poverty Profile for Nigeria*

National Bureau of Statistics (2008) *Human Development Indicators*

National Bureau of Statistics (2009) *Labour Force Survey*

National Bureau of Statistics, *National Consumer Survey 各年次*

Nigerian National Planning Commission (2004) *Meeting Everyone's Needs (PRSP)*

National Population Commission (2009) *Nigeria Demographic and Health Survey 2008*

OECD (2009) *African Economic Outlook*

UNDP (2008) *Mid-Point Assessment of the MDGs in Nigeria 2000-2007*

UNDP (2009) *Human Development Report Nigeria 2008-2009*

UN-Habitat (2010) *State of African Cities 2010, Governance, Inequalities and Urban Land Markets*

USAID (2009) *USAID Country Health Statistical Report: Nigeria*

USAID (2010) *USAID/Nigeria Strategy 2010-2013*

USAID (2010) *USAID/Nigeria Public Private Partnership Strategy and Workplan 2010-2013*

WFP (2008) *Special Report – Market, Prices, Food, and Prospects for Benin, Niger and Nigeria*

<和文>

国際協力機構; JICA (2008)『「アフリカ開発とアジアの経済成長」検討会報告書』  
日本貿易振興機関 (2010)『ジエトロ世界貿易投資報告 ナイジェリア 2010 年版』  
望月克哉 (2007)「ナイジェリア石油産出地域における社会運動の展開とその背景(文献レビュー)」  
重富真一編『開発と社会運動－先行研究の検討－』調査研究報告書、アジア経済研究所  
望月克哉 (2010)「新興国の虚像と実像 - ナイジェリア経済の実情 - 」JMC 2010.12  
田中信世「EU と ACP 諸国の経済連携協定(EPA)」国際貿易投資研究所『国際貿易と投資』Spring  
2009/No.  
落合雄彦「ナイジェリアにおける「民族問題」と制度エンジニアリング－軍事政権期を中心にして－」ア  
ジア経済研究所『アジア経済』XLVI-11・12 (2005 年)。